

一方で、指標間での重複は許容しており、たとえば「廃棄物」と「リサイクル」というキーワードが記載されている施策は、「ごみ・廃棄物の最終処分量」と「再使用・リサイクルの割合（循環利用率）」の双方に一回ずつ数えている。このように指標間での重複を許す理由としては、用いた資料からはどちらの指標にどの程度の予算を配分しているかを判断することができないからである。それゆえ、指標間での比較をする際には、この点を十分注意する必要がある。

上記の留意点を考慮しつつ、改めて図 2-21 を見ると、最も多いものは「ごみ・廃棄物の最終処分量」であることがわかる。同時に、「再使用・リサイクルの割合（循環利用率）」も施策数が多いが、これは、「廃棄物・リサイクル対策の推進に必要な経費—〇〇事業」という施策名で、様々な関連施策が予算化されているためであり、両者には極めて重複が多いと言える。二番目に施策数が多いものが「自宅周辺の生き物の種類の豊富さ（種数）」、すなわち「生物多様性」に関する施策であるが、上記と同様、「生物多様性の保全等の推進に必要な経費—〇〇事業」として「生物多様性」が頻繁に用いられているためにその施策数が増えている。なお、生物多様性保全の施策に関しては、必ずしも「自宅周辺の生き物」を対象としたものとは限らない。これは、他の施策に関しても言えることであり、「河川・湖沼の汚染指標（BOD）」において採用した「水質」というキーワードは必ずしも「BOD」に特化した施策のみを抽出しているわけではない。これは、キーワードを用いた施策の抽出という手法の限界として認識しておく必要がある。

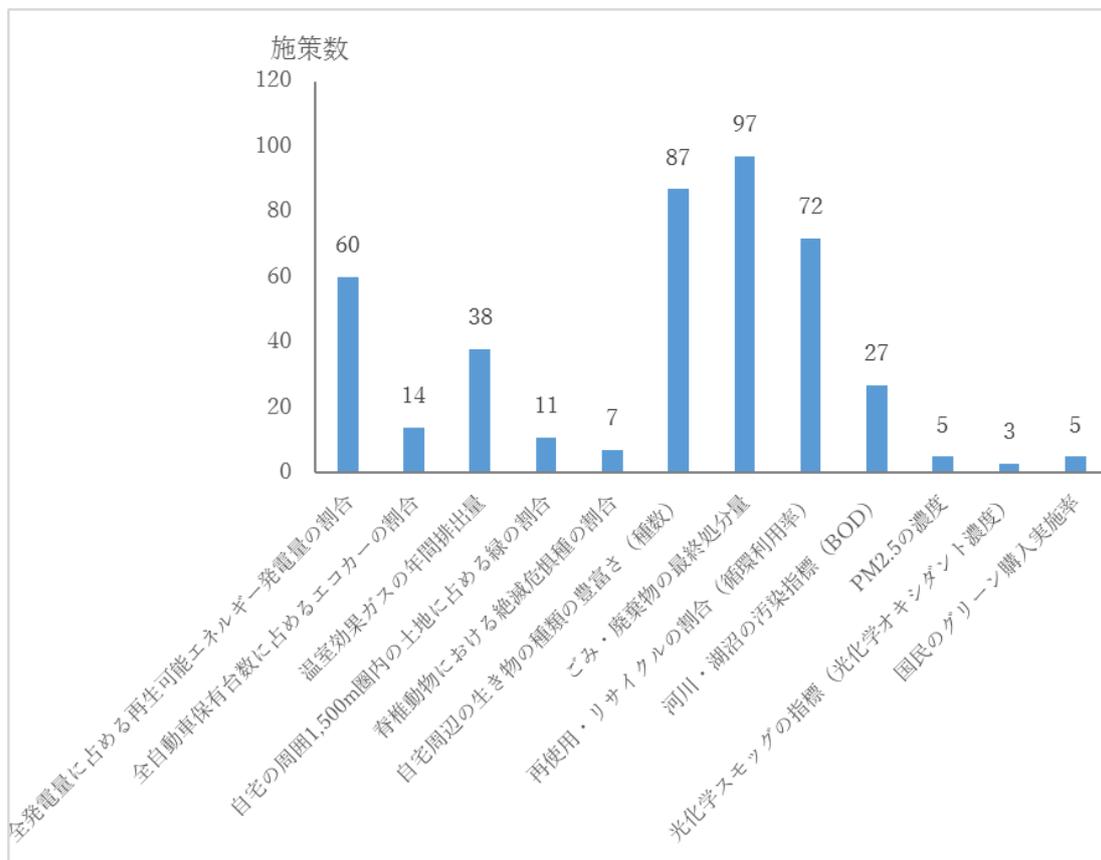


図 2-21 各指標に関連する施策数

本題の予算について図 2-22 に示す。これを見ると、「ごみ・廃棄物の最終処分量」と「再使用・リ

サイクルの割合（循環利用率）」に関する予算が突出しており、それぞれ 3,000 億円台、2,000 億円台を示していることがわかる。先述のように両者には重複が多いため、仮にそれぞれが半分程度の予算だとしても、1,000 億円台で、「全発電量に占める再生可能エネルギー発電量の割合」と同等か、それ以上であると言える。ただし、地球温暖化対策と廃棄物対策が重複している場合もあり、上述のようにこのような比較は厳密な意味では困難である。しかし、このような限界を踏まえた上でも、廃棄物およびリサイクルと再生可能エネルギーに多くの予算が割かれていることが見て取れる。

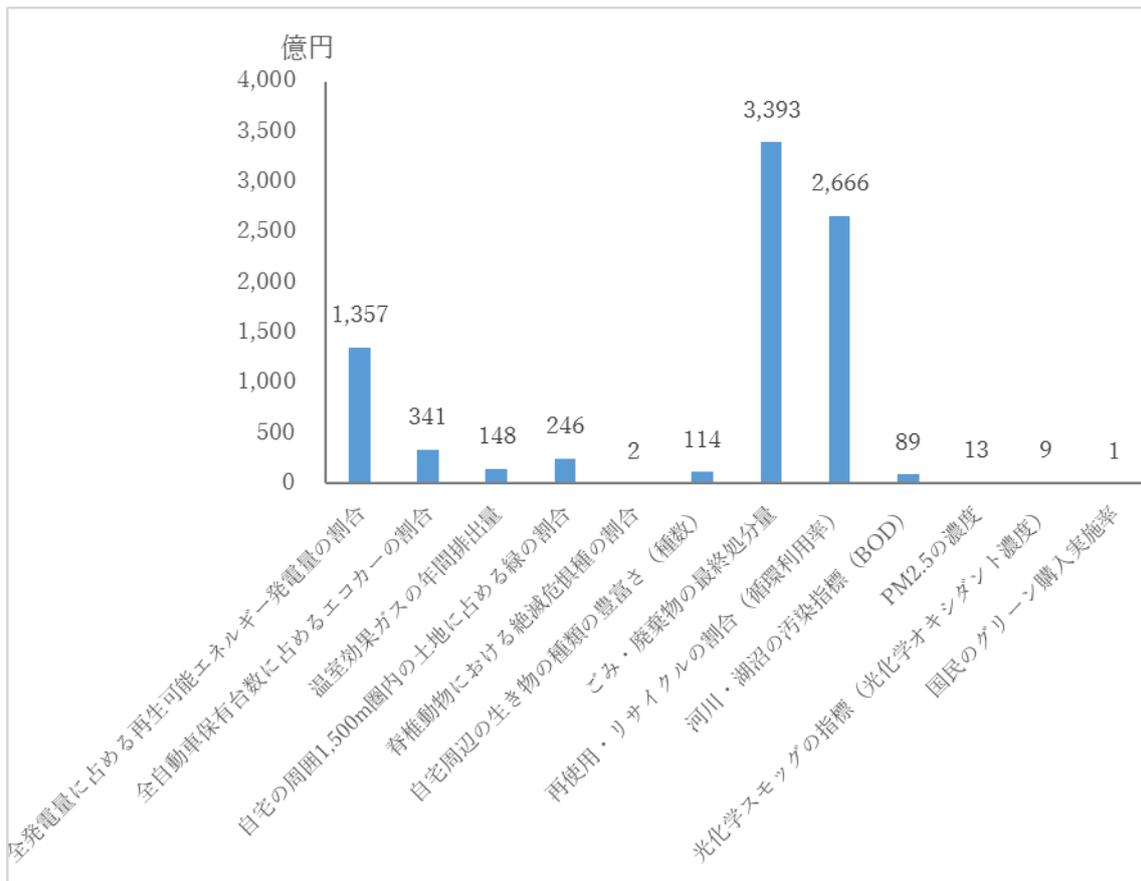


図 2-22 各指標に関連する平成 28 年予算

最後に、参考として一施策あたりの平均予算額を図 2-23 に示す。これを見ると、「ごみ・廃棄物の最終処分量」や「再使用・リサイクルの割合（循環利用率）」、「全発電量に占める再生可能エネルギー発電量の割合」と並んで、「全自動車保有台数に占めるエコカーの割合」や「自宅の周囲 1,500m 圏内の土地に占める緑の割合」の値が比較的大きいことがわかる。これらは施策数こそ少ないものの、一件あたりの予算額は大きいということである。一方で、「自宅周辺の生き物の種類の豊富さ（種数）」は極めて小さい値を示しており、「生物多様性」に関する施策は小規模なものが多いと言えるかもしれない。

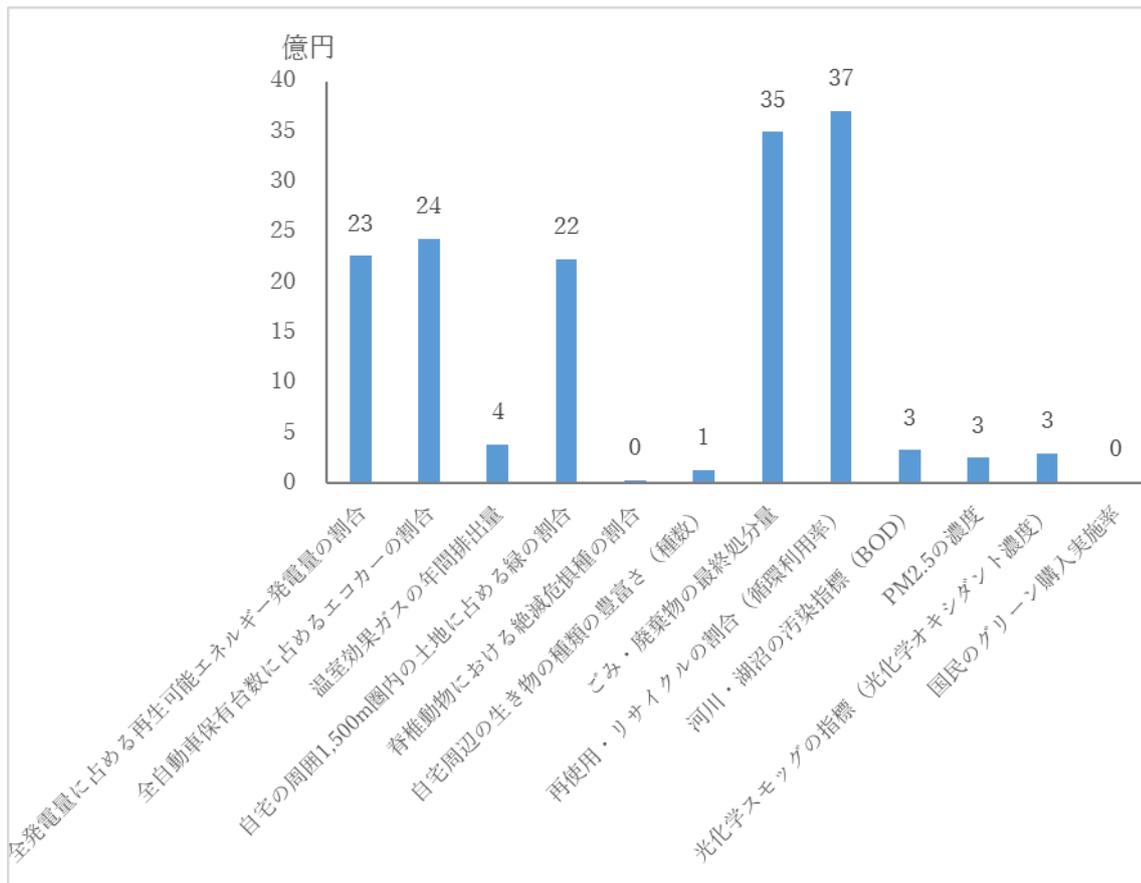


図 2-23 一施策あたりの平均予算額

### 3.3. アンケート調査

平成 28 年度は平成 27 年度に引き続き、日本全国を対象にアンケート調査を行っている。ここでは平成 27 年度のアンケート回答者に平成 28 年度も回答を依頼することで同一個人のパネルデータを構築している。アンケート回答者数は 71,932 人である。アンケートの概要は以下の表 2-72 の通りである。具体的には生活満足度に関する質問に加えて、前節で説明を行った本研究の興味である 12 項目の環境状況に対する満足度、および先行研究で生活満足度に影響を及ぼすと考えられてきている主要要素として OECD の BLI の要素（11 の柱のうち、生活満足度と環境を除く 9 つの柱）を取得している。後述するように分析では同一個人の 2 か年のデータを有していることから差分方程式を用いるため、平成 28 年度から平成 27 年度の値の差分を変数として用いる。

表 2-72 データの概要

	変数名	概要
生活満足度	生活満足度	「全体としてどの程度生活に満足していますか」という質問に対する回答（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
12項目の環境指標	再生可能エネルギー割合	再生可能エネルギー発電量の割合に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	エコカー割合	エコカーの割合に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	温室効果ガス年間排出量	温室効果ガスの年間排出量に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	自宅周辺の緑被率	自宅の周囲1,500m圏内の土地に占める緑の割合に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	絶滅危惧種割合	脊椎動物（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類）における絶滅危惧種の割合に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	自宅周辺の生物多様性	自宅周辺の生き物の種類の豊富さに関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	廃棄物最終処分量	ごみ・廃棄物の最終処分量に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	リサイクル率	再使用・リサイクルの割合（循環利用率）に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	BOD	河川・湖沼の汚染指標（BOD）に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	PM2.5濃度	PM2.5の濃度に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	VOC	光化学オキシダント濃度に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
	グリーン購入	国民のグリーン購入実施率に関する環境政策への満足度（「全く満足していない」を1、「大変満足している」を5とする5段階評価）の2015年度から2016年度の変化（-4~4）。
OECDのBetter Life Index（生活満足度と環境指標を除く9つの柱）	年間世帯所得	2015年度から2016年度の年間世帯所得の変化（2016年度の年間世帯所得-2015年度の年間世帯所得）
	健康自己評価	健康自己評価（「非常に悪い」を1、「非常に良い」を5とする5段階評価）の変化（2016年度の健康自己評価-2015年度の健康自己評価）
	治安	治安（「全くよくない」を1、「とてもよい」を5とする5段階評価）の変化（2016年度の治安-2015年度の治安）
	住居満足度	住居に関する満足度が2015年度から2016年度の間上がった人は1、下がった人は-1、それ以外を0とする値。
	仕事満足度	仕事に関する満足度が2015年度から2016年度の間上がった人は1、下がった人は-1、それ以外を0とする値。
	人・社会とのつながり満足度	「地域の人との関係」、「家族との関係」、「知人・友人との関係」に関する満足度がそれぞれ2015年度から2016年度の間上がった人は1、下がった人は-1、それ以外を0とする値。分析には、「地域の人との関係」、「家族との関係」、「知人・友人との関係」それぞれの満足度の変化の合計を用いた。
	教育満足度	教育に関する満足度が2015年度から2016年度の間上がった人は1、下がった人は-1、それ以外を0とする値。
	政治満足度	政治に関する満足度が2015年度から2016年度の間上がった人は1、下がった人は-1、それ以外を0とする値。
	ワーク・ライフ・バランス満足度	ワーク・ライフ・バランスに関する満足度が2015年度から2016年度の間上がった人は1、下がった人は-1、それ以外を0とする値。

2015年度、2016年度、および「2016年度と2015年度の差」に関する基本統計量は以下の表2-73aから表2-73cの通りである。

表 2-73a 全サンプル基本統計量 (2015年度)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015年)	71,932	3.516	0.916	1	5
再生可能エネルギー割合(2015年)	71,932	2.824	0.777	1	5
エコカー割合(2015年)	71,932	2.946	0.656	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015年)	71,932	2.771	0.761	1	5
自宅周辺の緑被率(2015年)	71,932	3.158	0.753	1	5
絶滅危惧種割合(2015年)	71,932	2.931	0.640	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015年)	71,932	3.059	0.652	1	5
廃棄物最終処分量(2015年)	71,932	3.004	0.732	1	5
リサイクル率(2015年)	71,932	2.988	0.699	1	5
BOD(2015年)	71,932	2.994	0.680	1	5
PM2.5濃度(2015年)	71,932	2.864	0.783	1	5
VOC(2015年)	71,932	2.951	0.733	1	5
グリーン購入(2015年)	71,932	2.972	0.611	1	5
年間世帯所得(2015年)	71,932	6,975,331	4,581,064	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015年)	71,932	3.497	1.028	1	5
治安(2015年)	71,932	3.061	0.565	1	4

表 2-73b 全サンプル基本統計量 (2016年度)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016年)	71,932	3.538	0.914	1	5
再生可能エネルギー割合(2016年)	71,932	2.689	0.835	1	5
エコカー割合(2016年)	71,932	2.834	0.739	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016年)	71,932	2.581	0.818	1	5
自宅周辺の緑被率(2016年)	71,932	3.158	0.897	1	5
絶滅危惧種割合(2016年)	71,932	2.730	0.723	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016年)	71,932	2.980	0.754	1	5
廃棄物最終処分量(2016年)	71,932	2.811	0.810	1	5
リサイクル率(2016年)	71,932	2.828	0.772	1	5
BOD(2016年)	71,932	2.792	0.765	1	5
PM2.5濃度(2016年)	71,932	2.625	0.853	1	5
VOC(2016年)	71,932	2.760	0.814	1	5
グリーン購入(2016年)	71,932	2.791	0.691	1	5
年間世帯所得(2016年)	71,932	4,690,061	3,896,056	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016年)	71,932	3.407	1.016	1	5
治安(2016年)	71,932	3.046	0.554	1	4

表 2-73c 全サンプル基本統計量（2015年度と2016年度の差）

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	71,932	0.022	0.771	-4	4
再生可能エネルギー割合	71,932	-0.135	0.865	-4	4
エコカー割合	71,932	-0.111	0.830	-4	4
温室効果ガス年間排出量	71,932	-0.189	0.869	-4	4
自宅周辺の緑被率	71,932	-0.001	0.951	-4	4
絶滅危惧種割合	71,932	-0.201	0.799	-4	4
自宅周辺の生物多様性	71,932	-0.079	0.835	-4	4
廃棄物最終処分量	71,932	-0.193	0.917	-4	4
リサイクル率	71,932	-0.160	0.865	-4	4
BOD	71,932	-0.202	0.860	-4	4
PM2.5濃度	71,932	-0.239	0.940	-4	4
VOC	71,932	-0.192	0.909	-4	4
グリーン購入	71,932	-0.181	0.799	-4	4
年間世帯所得	71,932	-2,285,269	3,555,611	-29,000,000	29,000,000
健康自己評価	71,932	-0.090	0.831	-4	4
治安	71,932	-0.015	0.544	-3	3
住居満足度	71,932	0.017	0.509	-1	1
仕事満足度	71,932	-0.073	0.552	-1	1
人・社会とのつながり満足度	71,932	0.207	1.068	-3	3
教育満足度	71,932	-0.028	0.364	-1	1
政治満足度	71,932	-0.147	0.467	-1	1
ワーク・ライフ・バランス満足度	71,932	-0.006	0.482	-1	1

また、12項目の環境状況満足度に関して、2015年度と2016年度の全サンプル平均をまとめると以下の図 2-35 のようになる。すべての指標で満足度平均値が低下していることが読み取れる。

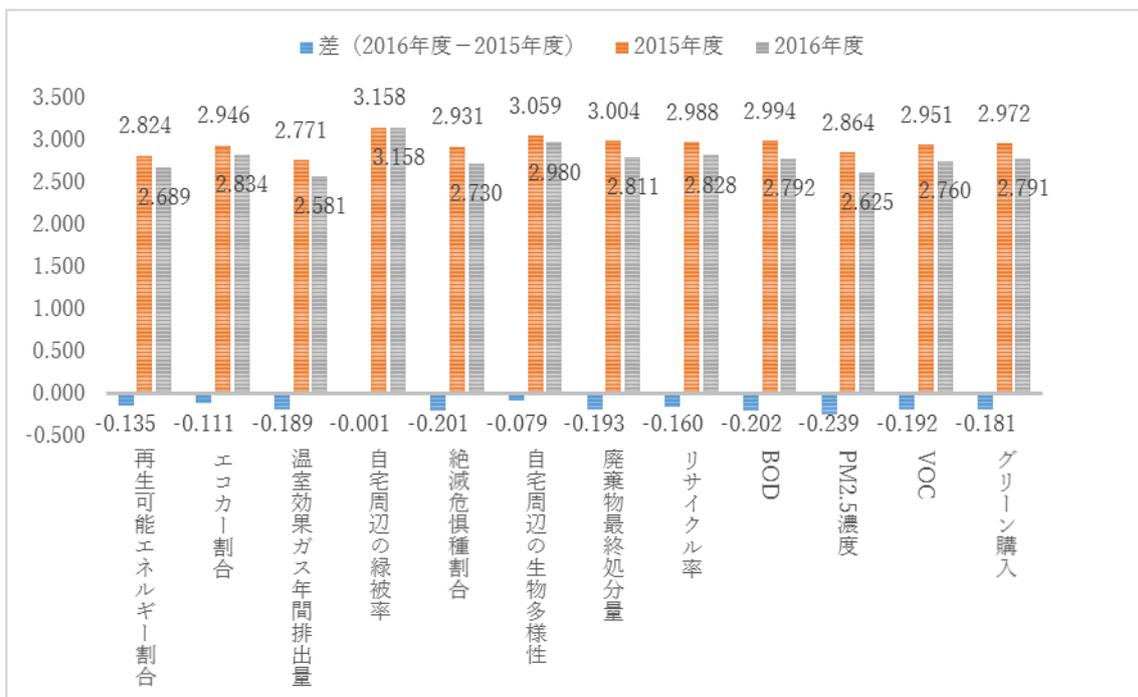


図 2-35 2015年度、2016年度の項目別環境状況満足度とその差（全サンプル：71,932人）

また、後述するように、本研究ではサンプルを年代別および地域別に分けたサブサンプルでの推計結果も示す。以下、年代別基本統計量および地域別基本統計量を示す。年代別は10～30代、40代、50代、60代以上の4分類としている。添付資料3.2に年代別基本統計量を表IV-1から表IV-12として示す。また、12項目の環境状況満足度に関して、全サンプルと同様に2015年度と2016年度の年代別平均をまとめると以下の図2-36から図2-38のようになる。すべての指標で満足度平均値が低下していることが読み取れる。

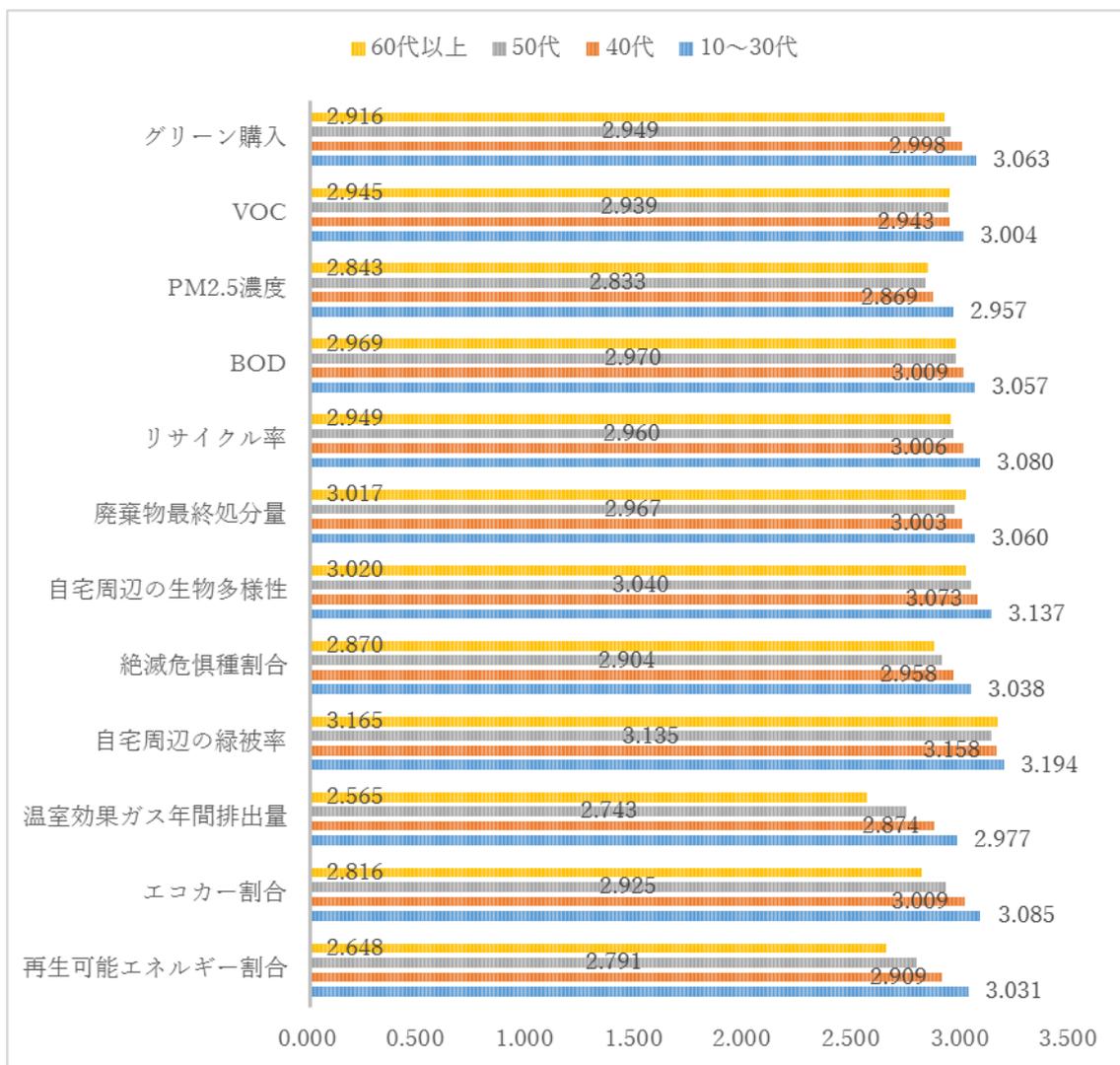


図 2-36 2015 年度の項目別環境満足度（年代別）

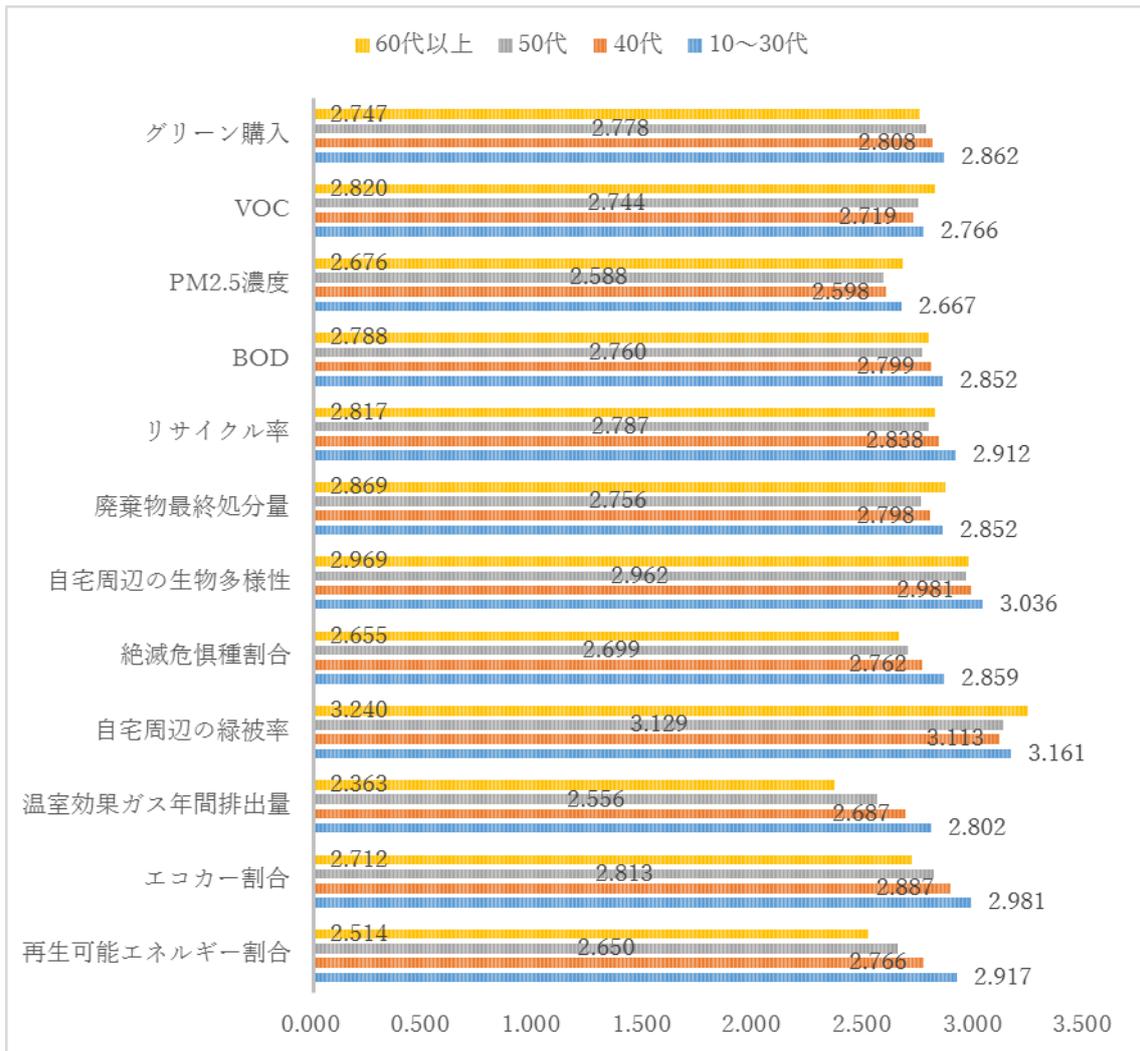


図 2-37 2016 年度の項目別環境満足度（年代別）

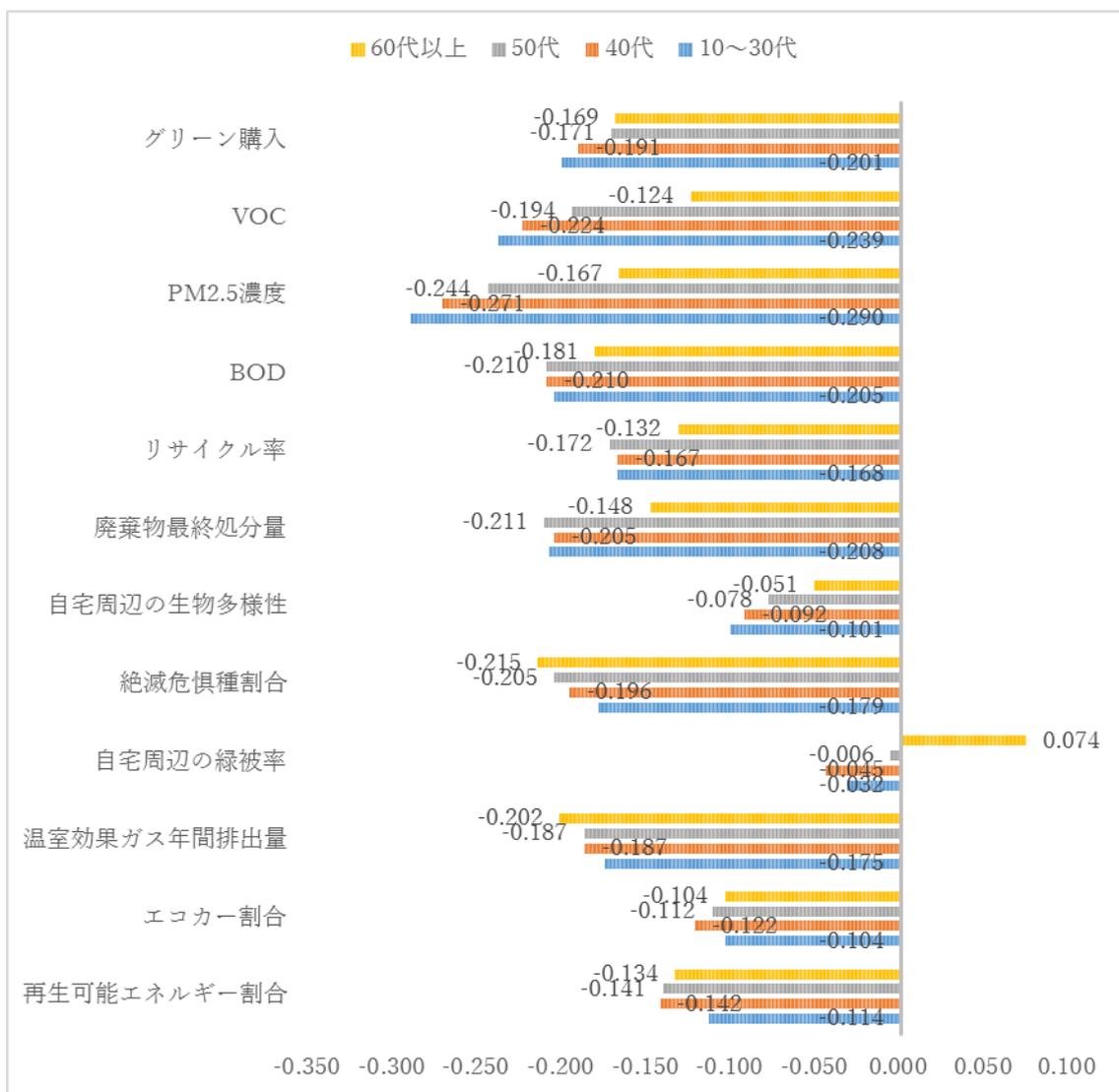


図 2-38 2015 年度と 2016 年度の項目別環境満足度の差（年代別）

60 代以上の自宅周辺の緑被率を除き、全サンプルと同様に 2015 年度から 2016 年度にすべての世代において環境満足度が低下していることが読み取れる。

つぎに、添付資料 3.2 に地域別の基本統計量を表 IV-13 から表 IV-30 として示す。本研究では地域を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の 6 地域に分けてサブサンプルによる分析を行う。12 項目の環境状況満足度に関して、全サンプルと同様に 2015 年度と 2016 年度の地域別平均をまとめると以下の図 2-39 から図 2-41 のようになる。自宅の周辺の緑被率を除いて、すべての指標で満足度平均値が低下していることが読み取れる。

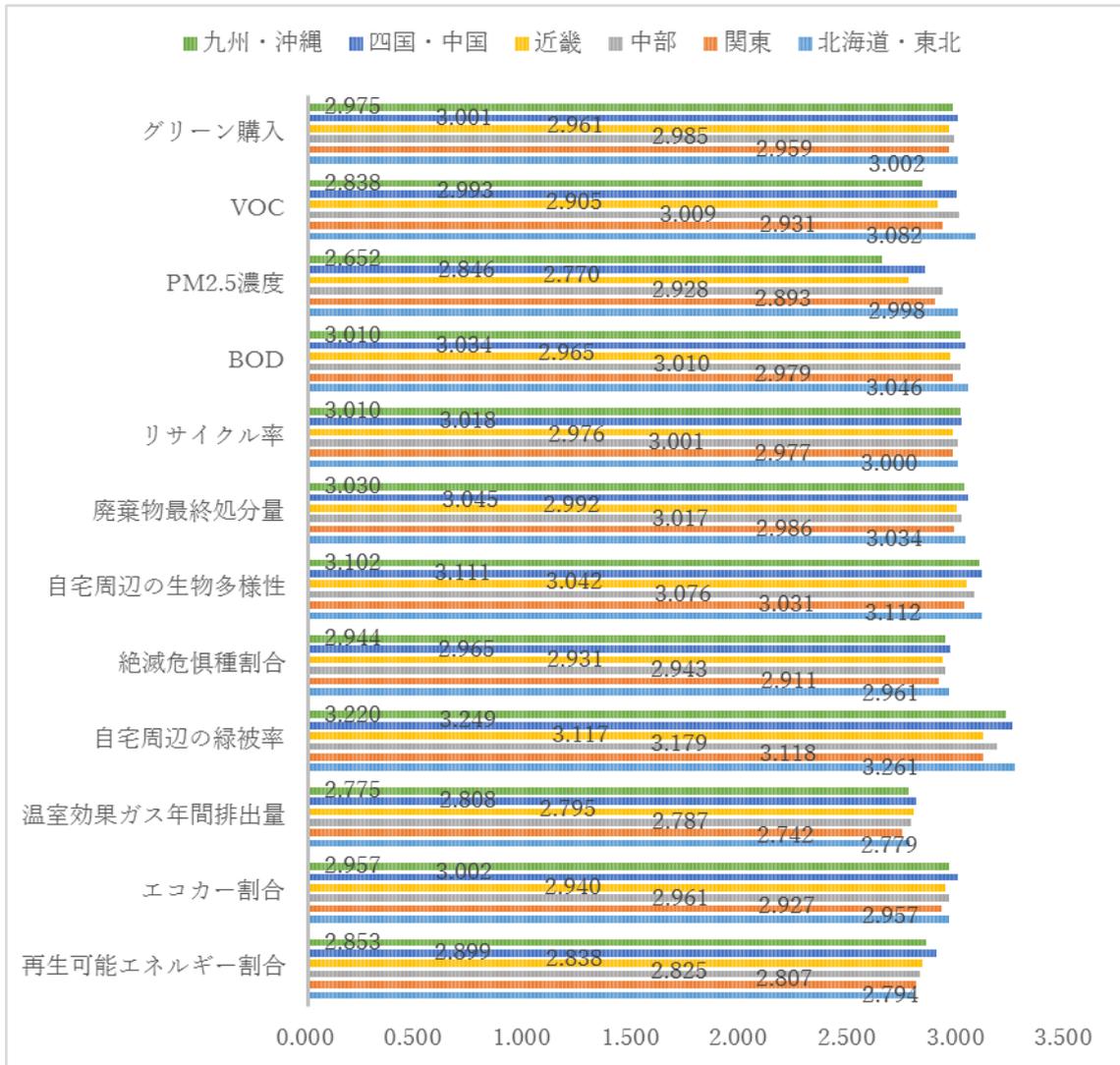


図 2-39 2015 年度の項目別環境満足度の差（地域別）

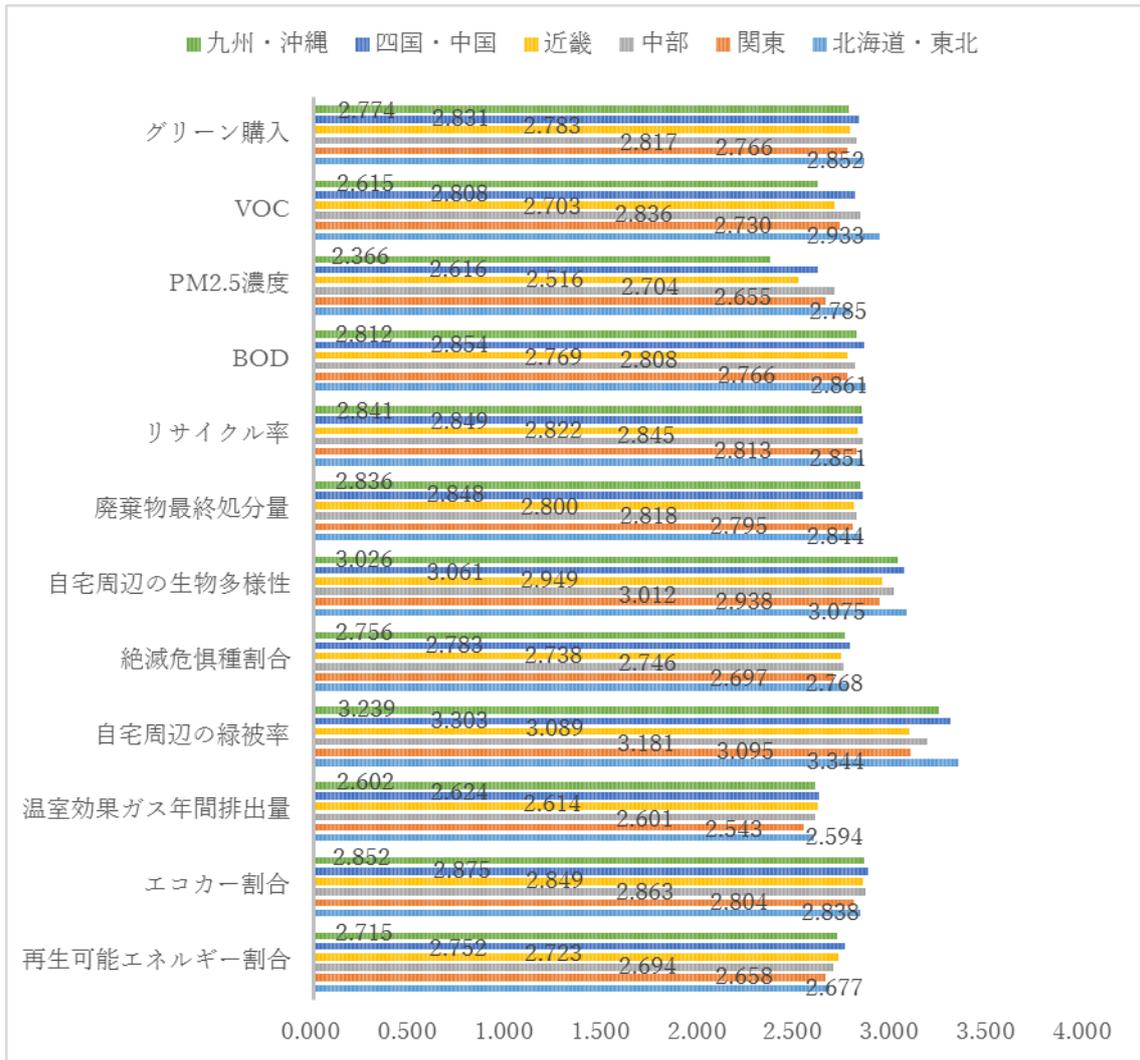


図 2-40 2016 年度の項目別環境満足度の差（地域別）

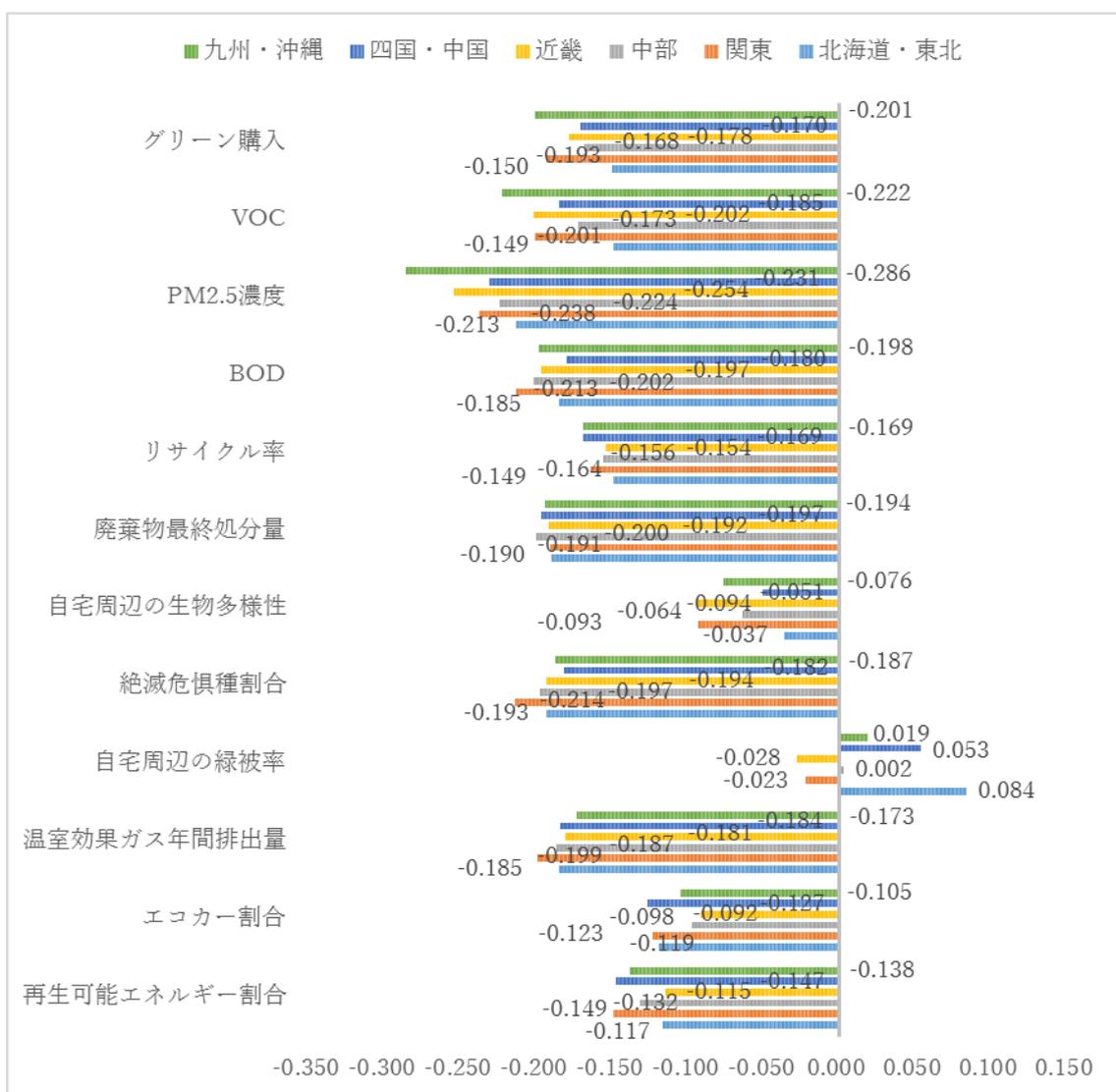


図 2-41 2015 年度と 2016 年度の項目別環境満足度の差（地域別）

### 3.4. 分析方法

個人 $k$ の生活満足度 $LS^k$ は以下（2-5）式のように表すことができる。

$$LS^k = f(y^k, e^k, x^k, z^k) \quad (2-5)$$

ここで $LS^k$ は個人 $k$ の生活満足度であり、 $y^k$ は $k$ の前年度税込年間世帯所得、 $e^k$ は 12 項目の環境状況満足度である。 $x^k = (x_1^k, \dots, x_M^k)$ は個人 $k$ の生活環境に関する変数であり、生活環境を $M$ 個の観点から特徴づけており、OECD の BLI の 11 の柱のうち「所得と資産」および「環境の質」を除く 9 つの柱を関数に含める。また、Frey and Stutzer（2002）が総括しているように、人々の幸福度は生活環境などの外部的な要因に加え、年齢・性別などの個人的な要因にも影響を受けると考えられるため、年齢・性別といった人口動態変数 $z^k = (z_1^k, \dots, z_N^k)$ も生活満足度関数の説明変数とする。ここでは、家計の $N$ 個

の人口動態的特徴が把握されている。

上記の生活満足度関数は、個人の生活満足度に影響を与える要因を全て説明変数に取り込んだ包括的なものを目指している。包括的な生活満足度関数を考えることのメリットは限定的な説明変数しか想定してこなかった既存の生活満足度アプローチ（Life Satisfaction Approach: LSA）に比べ、各要因の生活満足度への影響をより正確にとらえられることである。

分析には回帰分析を用いる。具体的には以下の式(2-6)のように生活満足度関数を推計し、生活満足度と所得および環境基本計画に関連する環境要因指標の関係性の分析を行う。次に式(2-7)のように生活満足度に対する所得と環境要因指標の限界効果を算出する。最後に所得と環境要因指標の限界効果の代替率を算出することによって環境要因指標の所得換算の価値を算出する。これを環境要因指標に対する人々の潜在的な支払意志額であると考え、この手法が LSA である<sup>24</sup>。

$$LS_i = \beta x' + \lambda y + \mu z' + \theta e_i + \varepsilon \quad (2-6)$$

$$MWTP_i = \Delta y / \Delta e = \left( \frac{\partial LS}{\partial e} \right) / \left( \frac{\partial LS}{\partial y} \right) \quad (2-7)$$

$$\square = \theta / \lambda$$

ここで  $\varepsilon_i$  は誤差項である。

なお、本研究では同一個人に 2015 年度と 2016 年度の 2 回、同一のアンケートを実施することで以下の差分方程式を用いた分析が可能となっている。この差分方程式は従来のクロスセクションデータを用いた分析及び我々の研究初年度の分析と比較して、生活満足度に影響を及ぼす個人の固定効果を取り除くことが可能となり、得られるパラメータにかかるバイアスを減らすことが期待される。具体的には以下の差分方程式を考える。

$$\Delta LS_i = \alpha_1 + \alpha_2 \Delta \ln I_i + \alpha_3 \Delta E_i + \sum_j \alpha_j \Delta X_{ji} + \varepsilon \quad (2-8)$$

ここで  $i$  は回答者、 $LS$  は生活満足度、 $I$  は年間世帯所得、 $E$  は 12 種の環境状態を示す指標、 $X$  はコントロール変数、 $\alpha_1$  は定数項、 $\varepsilon$  は誤差項である。コントロール変数としては OECD の BLI の生活の質に関する 11 の柱のうち、生活満足度および環境を除く 9 つの柱に関する指標をアンケートで取得し用いる。なお、12 種の環境状態を示す指標は多重共線性の問題を回避するために別々の回帰式で分析を行う。また、分析は全サンプルに加えて、年代別および地域別のサブサンプルについても行うこととする。

<sup>24</sup> LSA を用いて本研究と同様の推計モデルで居住地域の緑の金銭価値評価を行った研究に Tsurumi and Managi (2015)がある。本章では LSA を用いた金銭価値評価研究の先行研究の紹介を行っていないが、詳細なサーベイは鶴見他 (2015) を参照のこと。

### 3.5. 分析結果

全サンプルの分析結果を表 2-74a および表 2-74b に示す。全ての環境状況満足度について正のパラメータが統計的に有意に得られている。

表 2-74a 差分方程式の推計結果 (全サンプル)

	再生可能エネルギー割合	エコカー割合	温室効果ガス年間排出量	自宅周辺の緑被率	絶滅危惧種割合	自宅周辺の生物の多様性
年間世帯所得	0.015***	0.014***	0.014***	0.014***	0.014***	0.014***
健康	0.084***	0.084***	0.084***	0.084***	0.084***	0.084***
治安	0.123***	0.123***	0.124***	0.123***	0.123***	0.123***
住居満足度	0.035***	0.035***	0.035***	0.034***	0.035***	0.035***
仕事満足度	0.059***	0.059***	0.059***	0.059***	0.059***	0.059***
人・社会とのつながり満足度	0.022***	0.022***	0.022***	0.022***	0.023***	0.022***
教育満足度	-0.019**	-0.019**	-0.019**	-0.018*	-0.019**	-0.019**
政治満足度	0.003	0.003	0.003	0.004	0.002	0.004
ワーク・ライフ・バランス満足度	0.025***	0.026***	0.026***	0.026***	0.026***	0.026***
再生可能エネルギー割合	<b>0.031***</b>					
エコカー割合		<b>0.032***</b>				
温室効果ガス年間排出量			<b>0.023***</b>			
自宅周辺の緑被率				<b>0.019***</b>		
絶滅危惧種割合					<b>0.030***</b>	
自宅周辺の生物の多様性						<b>0.021***</b>
定数項	0.042***	0.041***	0.042***	0.038***	0.044***	0.040***
サンプル数	71932	71932	71932	71932	71932	71932

注：\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

表 2-74b 差分方程式の推計結果 (続き) (全サンプル)

	廃棄物最終処分量	リサイクル率	BOD	PM2.5 濃度	VOC	グリーン購入
年間世帯所得	0.014***	0.014***	0.014***	0.014***	0.013***	0.014***
健康	0.084***	0.084***	0.084***	0.084***	0.084***	0.084***
治安	0.123***	0.124***	0.123***	0.124***	0.124***	0.124***
住居満足度	0.034***	0.034***	0.035***	0.035***	0.035***	0.034***
仕事満足度	0.059***	0.059***	0.059***	0.059***	0.059***	0.059***
人・社会とのつながり満足度	0.022***	0.022***	0.022***	0.022***	0.022***	0.022***
教育満足度	-0.019**	-0.019**	-0.019**	-0.019**	-0.019**	-0.019**
政治満足度	0.002	0.003	0.002	0.003	0.003	0.003
ワーク・ライフ・バランス満足度	0.026***	0.026***	0.026***	0.026***	0.026***	0.026***
廃棄物最終処分量	<b>0.022***</b>					
リサイクル率		<b>0.022***</b>				
BOD			<b>0.022***</b>			
PM2.5 濃度				<b>0.015***</b>		
VOC					<b>0.017***</b>	
グリーン購入						<b>0.026***</b>
定数項	0.042***	0.041***	0.042***	0.041***	0.041***	0.042***
サンプル数	71932	71932	71932	71932	71932	71932

注：\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1

次に年代別の推計結果を表 2-75 に示す。ここでは所得およびコントロール変数については全サンプル

ルの結果とほぼ同様であるため、環境状況満足度のパラメータのみ示す。60代以上サンプルの一部を除き、全サンプルと同様にすべての環境状況満足度指標について統計的に有意に正の符号が得られている。

表 2-75 差分方程式の推計結果（年代別）

	10～30代	40代	50代	60代以上
再生可能エネルギー割合	0.056***	0.037***	0.026***	0.015***
エコカー割合	0.055***	0.040***	0.024***	0.017***
温室効果ガス年間排出量	0.028**	0.030***	0.023***	0.011*
自宅周辺の緑被率	0.013	0.031***	0.016***	0.015***
絶滅危惧種割合	0.052***	0.041***	0.027***	0.004
自宅周辺の生物の多様性	0.032***	0.030***	0.022***	0.005
廃棄物	0.034***	0.026***	0.028***	0.005
リサイクル率	0.036***	0.031***	0.025***	0.005
BOD	0.049***	0.030***	0.014**	0.009
PM2.5 濃度	0.032***	0.014**	0.022***	-4.251E-04
VOC	0.027**	0.022***	0.019***	0.005
グリーン購入	0.055***	0.034***	0.022***	0.002
サンプル数	10,805	20,757	22,044	18,326

注：\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1 それぞれの環境状況満足度指標は別回帰式で得られたパラメータである。所得及びコントロール変数は全サンプルの推計結果とほぼ同様であった。

次に、地域別の推計結果を表 2-76 に示す。ここでも所得およびコントロール変数については全サンプルの結果とほぼ同様であるため、環境状況満足度のパラメータのみ示す。サンプル数の相対的に少ない中国・四国および九州・沖縄の一部を除き大部分の環境状況満足度指標について統計的に有意に正の符号が得られている。

表 2-76 差分方程式の推計結果（地域別）

	北海道・東北	関東	中部	近畿	四国・中国	九州・沖縄
再生可能エネルギー割合	0.028**	0.032***	0.024***	0.038***	0.043***	0.014
エコカー割合	0.049***	0.031***	0.018*	0.039***	0.016	0.039***
温室効果ガス年間排出量	0.044***	0.021***	0.021**	0.019**	0.012	0.023*
自宅周辺の緑被率	0.016	0.021***	0.024***	0.014**	0.004	0.031**
絶滅危惧種割合	0.033**	0.030***	0.032***	0.034***	0.026*	0.009
自宅周辺の生物の多様性	0.018	0.023***	0.022**	0.023***	0.019	0.012
廃棄物最終処分量	0.039***	0.018***	0.016*	0.020***	0.046***	0.009
リサイクル率	0.031***	0.017***	0.016*	0.027***	0.027**	0.032**
BOD	0.029**	0.014**	0.020**	0.031***	0.043***	0.017
PM2.5 濃度	0.020*	0.015***	0.021**	0.015**	0.011	-4.33E-04
VOC	0.013	0.017***	0.019**	0.017**	0.025*	0.009
グリーン購入	0.035***	0.029***	0.019*	0.023**	0.042***	1.83E-04
サンプル数	7,139	28,917	11,415	14,281	5,223	4,957

注：\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05, \* p<0.1 それぞれの環境状況満足度指標は別回帰式で得られたパラメータである。所得及びコントロール変数は全サンプルの推計結果とほぼ同様であった。

以上の環境状況満足度のパラメータ推計値および所得のパラメータ推計値を用いて、生活満足度アプローチを用いて金銭価値評価を行った結果を以下に示す。表 2-77 が全サンプル、表 2-78 が年代別、表 2-79 が地域別の結果である。差分方程式を用いて個人の固定効果を取り除くことで、研究初年度に

得られた 12 項目の環境状況満足度の金銭価値評価（概ね 2 万円前後）と比較して大きな金額が得られている。このことは研究初年度のクロスセクションデータの推計結果が過小評価であった可能性を示唆するものといえる。また、サブサンプルを用いた金銭価値評価より、年代及び地域別に金銭価値は異なることが示唆される。

表 2-77 環境状況満足度 1 段階上昇の金銭価値評価（全サンプル）

	環境状況満足度が 1 段階 上昇することの金銭価値
再生可能エネルギー割合	¥100,228
エコカー割合	¥105,585
温室効果ガス年間排出量	¥75,247
自宅周辺の緑被率	¥63,860
絶滅危惧種割合	¥99,077
自宅周辺の生物の多様性	¥71,074
廃棄物最終処分量	¥73,644
リサイクル率	¥75,715
BOD	¥75,353
PM2.5 濃度	¥51,489
VOC	¥58,842
グリーン購入	¥88,203

表 2-78 環境状況満足度 1 段階上昇の金銭価値評価（年代別）

	10～30 代	40 代	50 代	60 代以上
再生可能エネルギー割合	¥133,750	¥136,241	¥121,114	¥32,219
エコカー割合	¥136,112	¥153,226	¥112,889	¥36,671
温室効果ガス年間排出量	¥69,352	¥112,132	¥108,831	¥23,120
自宅周辺の緑被率		¥118,045	¥73,909	¥33,530
絶滅危惧種割合	¥128,575	¥157,096	¥127,921	
自宅周辺の生物の多様性	¥80,248	¥114,498	¥100,691	
廃棄物最終処分量	¥86,302	¥101,612	¥131,976	
リサイクル率	¥90,955	¥115,453	¥117,645	
BOD	¥122,345	¥114,467	¥69,035	
PM2.5 濃度	¥81,391	¥55,980	¥106,682	
VOC	¥68,796	¥87,485	¥92,613	
グリーン購入	¥140,205	¥134,313	¥110,572	

注：統計的有意性が得られていない部分は空欄としている

表 2-79 環境状況満足度 1 段階上昇の金銭価値評価（地域別）

	北海道・東北	関東	中部	近畿	四国・中国	九州・沖縄
再生可能エネルギー割合	¥79,803	¥108,114	¥74,358	¥62,645	¥124,789	
エコカー割合	¥141,000	¥107,255	¥58,816	¥63,973		¥48,552
温室効果ガス年間排出量	¥127,569	¥74,806	¥69,245	¥32,217		
自宅周辺の緑被率		¥72,773	¥79,515	¥24,005		¥39,401
絶滅危惧種割合	¥95,067	¥108,160	¥103,354	¥55,899	¥80,017	
自宅周辺の生物の多様性		¥81,634	¥71,490	¥38,611		
廃棄物最終処分量	¥113,665	¥66,041	¥52,024	¥33,363	¥143,144	
リサイクル率	¥90,796	¥62,272	¥53,652	¥45,125	¥82,201	¥39,418
BOD	¥85,346	¥50,247	¥65,348	¥51,789	¥133,371	
PM2.5 濃度	¥60,987	¥55,948	¥68,848	¥24,917		
VOC		¥62,590	¥64,101	¥28,410	¥80,540	
グリーン購入	¥103,271	¥105,436	¥62,627	¥39,237	¥130,967	

注：統計的有意性が得られていない部分は空欄としている。

### 3.6. 費用対効果の考察

前節で示したように、12種の環境状況満足度1段階増大の金銭価値評価に関して、差分方程式を用いることにより研究初年度のクロスセクション分析よりも大きな金額が得られたことになる。以下の表2-80から表2-82は「平成28年度の予算」と「環境状況満足度1段階増分の金銭価値評価」を一覧にしたものである。ここで「国民一人当たりの平成28年度予算」は「平成28年度の予算」を日本の総人口で割った値である。

表 2-80 環境保全経費の費用対効果（全サンプル）

	費用の参考指標	効果の参考指標
	国民一人当たり平成28年度予算 (A)	環境状況満足度が1段階上昇することの金銭価値 (B)
再生可能エネルギー割合	¥1,131	¥100,228
エコカー割合	¥284	¥105,585
温室効果ガス年間排出量	¥123	¥75,247
自宅周辺の緑被率	¥204	¥63,860
絶滅危惧種割合	¥2	¥99,077
自宅周辺の生物の多様性	¥95	¥71,074
廃棄物最終処分量	¥2,828	¥73,644
リサイクル率	¥2,222	¥75,715
BOD	¥74	¥75,353
PM2.5濃度	¥11	¥51,489
VOC	¥7	¥58,842
グリーン購入	¥1	¥88,203

注：費用は本節で算出した平成28年度の環境保全経費予算を日本の総人口で割った値、効果の参考指標は前節で得られた「環境状況満足度1段階増分の金銭価値評価」である。

表 2-81 環境保全経費の費用対効果（年代別）

	費用の参考指標 国民一人当たり平成28年度予算	効果の参考指標 環境状況満足度が1段階上昇することの金銭価値			
		10～30代	40代	50代	60代以上
再生可能エネルギー割合	¥1,131	¥133,750	¥136,241	¥121,114	¥32,219
エコカー割合	¥284	¥136,112	¥153,226	¥112,889	¥36,671
温室効果ガス年間排出量	¥123	¥69,352	¥112,132	¥108,831	¥23,120
自宅周辺の緑被率	¥204		¥118,045	¥73,909	¥33,530
絶滅危惧種割合	¥2	¥128,575	¥157,096	¥127,921	
自宅周辺の生物の多様性	¥95	¥80,248	¥114,498	¥100,691	
廃棄物最終処分量	¥2,828	¥86,302	¥101,612	¥131,976	
リサイクル率	¥2,222	¥90,955	¥115,453	¥117,645	
BOD	¥74	¥122,345	¥114,467	¥69,035	
PM2.5濃度	¥11	¥81,391	¥55,980	¥106,682	
VOC	¥7	¥68,796	¥87,485	¥92,613	
グリーン購入	¥1	¥140,205	¥134,313	¥110,572	

注：費用は本節で算出した平成28年度の環境保全経費予算を日本の総人口で割った値、効果の参考指標は前節で得られた「環境状況満足度1段階増分の金銭価値評価」である。統計的有意性が得られていない部分は空欄としている。

表 2-82 環境保全経費の費用対効果（地域別）

	費用の参考指標	効果の参考指標 環境状況満足度が1段階上昇することの金銭価値					
		北海道・東北	関東	中部	近畿	四国・中国	九州・沖縄
	国民一人当たり平成28年度予算						
再生可能エネルギー割合	¥1,131	¥79,803	¥108,114	¥74,358	¥62,645	¥124,789	
エコカー割合	¥284	¥141,000	¥107,255	¥58,816	¥63,973		¥48,552
温室効果ガス年間排出量	¥123	¥127,569	¥74,806	¥69,245	¥32,217		
自宅周辺の緑被率	¥204		¥72,773	¥79,515	¥24,005		¥39,401
絶滅危惧種割合	¥2	¥95,067	¥108,160	¥103,354	¥55,899	¥80,017	
自宅周辺の生物の多様性	¥95		¥81,634	¥71,490	¥38,611		
廃棄物最終処分量	¥2,828	¥113,665	¥66,041	¥52,024	¥33,363	¥143,144	
リサイクル率	¥2,222	¥90,796	¥62,272	¥53,652	¥45,125	¥82,201	¥39,418
BOD	¥74	¥85,346	¥50,247	¥65,348	¥51,789	¥133,371	
PM2.5濃度	¥11	¥60,987	¥55,948	¥68,848	¥24,917		
VOC	¥7		¥62,590	¥64,101	¥28,410	¥80,540	
グリーン購入	¥1	¥103,271	¥105,436	¥62,627	¥39,237	¥130,967	

注：費用は本節で算出した平成28年度の環境保全経費予算を日本の総人口で割った値、効果の参考指標は前節で得られた「環境状況満足度1段階増分の金銭価値評価」である。統計的有意性が得られていない部分は空欄としている。

### 第3章 まとめと環境政策への貢献

第1章では、新国富指標のデータベース整備は昨年度まで一貫して行ってきた重要な研究ではあるが、2010年までのデータしかなく、東日本大震災などの大きな社会経済変化が生じている昨今においては十分とは言えない側面もあった。しかし、本年度に市区町村、都道府県単位で2015年まで新国富指標データベースを更新したため、データベース自体の価値が高まったと言える。そのうえで、富士通研究所との共同研究により、すでに一定のデータは外部公開しており、自治体関係者が新国富指標を参照し、自治体における環境政策の成果を確認することが可能な状況になっていると言える。無論、今後も新国富指標の精緻化などは必要であるが、更新可能なデータベースの仕組みづくりは完了しており、今後の進展を期待することができる。

次に、将来的に日本が辿るであろう社会経済シナリオを新国富指標で評価することを試みた点は、各自治体特有の将来シナリオの持続可能性を評価する基盤となる作業と言える。たとえば、財政的に体力のある自治体であれば、2100年に最も新国富指標が増加するシナリオを選択し、そのシナリオを自治体特有の政策に向けて修正し、さらに評価することで環境政策、ひいては地域の持続可能な将来を実現するための政策作業が可能になると考えられる。他方で、財政的に余裕のない自治体であれば、2010年以降に見られる新国富指標の減少期間を最小にするシナリオを参照し、その自治体のシナリオを作り上げることが可能である。このように、本年度に行った作業は全ての国内自治体が「参照」するシナリオであり、その応用可能性は高い。

次に、3つの地方自治体での新国富指標に関するアンケート調査は、地方自治体が認識する、その土地特有の資本（本研究では社会関係資本に着目）を評価する工程に関する実例を提供した点で有意義だと考える。特に福井県、福岡県久山町は自治体が調査予算を組み、主体的に調査を実施している点は、他の自治体にも参考になる点があるだろう。熊本県水俣市では地域の持続可能性を満たさなくする主要因である健康資本をより正確に算出するための基礎調査を行った事例を提供した。このように、社会関係資本、健康資本など各自治体の特色に合わせて、詳細な調査を実施し、その地域の富を新国富指標として正確に計測することは自治体関係者にとっても参考になると考えられる。すでに久山町は新国富指標の増加を目指した予算計画の再編に取り組んでおり、今後の継続的な共同研究体制を確立した。ただし、単純な新国富指標の増加だけを目指すのはたしかに一面的な指標の用い方であり、環境面（自然資本、再生可能エネルギーなど）がどれだけ損なわれ、また適切に利用されているか否かという側面にまで踏み込むことも今後重要な課題だと考えられる。

また、第1章では、上記に加えて持続可能性指標としての新国富が測定する項目の包括性を高めることに寄与する研究を行った。具体的には、人工資本、人的資本、自然資本といった正の価値を有する資本だけでなく、負の資本として公的負債に着目した。日本においては累積する公的負債は持続可能性に対して深刻な影響をもたらしているが、従来の指標には勘案されていなかった。一般に、公的資本投資については国債の発行を通じた資金調達がともなっているが、その負の影響はしだいに無視できなくなっている。

持続可能性について政策的な目標を立てるときには、各資本間の相互関係を分析することはもちろん必要であるが、公的負債に関連する資金調達は政策の実施可能性に関わってくる。SDGsなどの実現に向けて、新国富指標に、本分析で行ったような公的負債や制度など政策に関わる重要変数を含めることによっては、政策影響をより精緻に分析することができるよ

うになる。

最後に第 2 章では、生活満足度を政策効果の代理指標として分析を行った。平成 27 年度は環境基本計画の重点取り組み事項に関連する指標について人々が認識している金銭価値を生活満足度アプローチ (LSA) により明らかにし、各種指標の重要性を評価した。平成 27 年度の研究成果の内容をまとめると以下のようなになる。

まず、1.2.では第 4 次環境基本計画で示されている各種重点取り組み事項および指標の整理を行った。改善がなされてきている指標とされてきていない指標について提示を行い、また、プレアンケートにおいて各種指標の認知度について把握を行い指標ごとに認知度に差異がみられることを示した。要約すれば、緑地面積、循環利用率やごみの最終処分量、低公害車の保有台数、風力発電・太陽光発電の導入量は改善または上昇傾向にある一方、温室効果ガスの排出量や絶滅のおそれのある種数については改善の傾向は見られず、また、一般国民のグリーン購入実施率も依然として低水準にある。水質や大気質については指標により異なり、河川の BOD 達成率は上昇傾向にあるものの、海域や湖沼の COD 達成率は横ばいであり、また、微小粒子状物質 (PM2.5) の達成率は改善の兆しはあるものの依然として低水準、光化学オキシダントの基準達成率は 1%未満の低水準にある。また、プレアンケートとして各指標の重要性に対する人々の認識を尋ねた結果では、温室効果ガスの排出量、ごみの最終処分量、水質・大気質の環境基準達成率、再生可能エネルギーの導入量については、「大変重要である」「重要である」が 5 割を超えた。一方で、緑地面積、絶滅危惧種の割合、循環利用率、低公害車の保有台数、グリーン購入実施率、再生可能エネルギーの導入量については、「どちらともいえない」が 3 割を超えていた。

1.3.では 1.2.の指標ごとの近年の動向および人々の主観的な重要性評価および認知度、そして環境保全経費として計上されている金額の大きさを鑑み、金銭価値評価を行う客観指標の選定および主観指標の選定を行い、それらの指標について LSA による金銭価値評価を行った。客観指標については温暖化に関する指標、大気汚染に関する指標、水質汚染に関する指標、緑・生物多様性に関する指標、廃棄物に関する指標、騒音に関する指標の評価を行った。

温暖化に関する指標である市区町村レベルの部門別二酸化炭素排出量については多くの部門で現状の排出水準が人々の生活満足度を低下させていることが示され、市区町村レベルの総排出量においてはサンプル平均で 1,377 円の被害額 (年間世帯所得換算) となることが明らかとなった。温暖化に関する指標として真夏日および猛暑日についても検証を行ったが、これらの指標についても人々の生活満足度を低下させていることが示され、特に猛暑日については年間世帯所得換算で 2,793 円の被害額が示されている。大気汚染に関する指標としては PM2.5 および光化学オキシダント (Ox) の評価を行い、これらの指標についても生活満足度を低下させていることが示された。PM2.5 についてはアンケート実施期間である 11 月～12 月の月平均値の平均がサンプル平均で 6,809 円の被害となること、Ox についてはさらに被害額が大きく、昼間の 1 時間値の年平均値については 20,207 円の被害額となることが示された。水質汚染に関しては BOD を指標としたが統計的に有意な結果は得られなかった。緑・生物多様性に関する指標としては、緑に関しては居住地域の徒歩圏に存在する植生面積がサンプル平均で 1,604 円の価値を有すこと、同徒歩圏の植生の多様性が 825 円の価値を有すことが示された。廃棄物に関しては一人当たりごみ排出量及びリサイクル率を指標として採用したが統計的に有意な結果は得られなかった。最後に騒音に関しては夜間の騒音がサンプル平均で 24,734 円の被害額となることが示され、比較的大きな影響を人々に及ぼしていることが示された。以上の評価において大きな金銭

価値となったものについては人々の生活満足度に大きく影響を及ぼすものであり、政策として対処をするインセンティブが存在すると考えられる。加えて、客観指標の金銭価値評価においては環境指標のサンプル平均での評価だけでなく、環境指標が1単位増大することの金額評価も示している。

次に、1.4.では第4次環境基本計画において注目すべき指標として12の指標に焦点を絞り、それらについての主観的満足度をアンケート調査で取得、金銭価値評価を行った。各環境指標に対する主観的満足度1単位の金銭価値評価を提示しているが、本研究ではさらに、アンケートにおいて「重要度」と「満足度」を把握することで個々人が考える環境指標の重要性を考慮に入れた環境指標の金銭価値評価も提示している。分析の結果、個々人が考える重要度の水準により大きく金銭価値が異なる環境指標がある一方で、個々人の考える重要度の水準に金銭価値が影響を受けにくい指標があることが見いだされた。このことは環境指標が個々人の生活満足度に一様に影響を与えるケースと多様に影響を与えるケースが存在することを示すものであり、その帰結は環境指標により異なることが明らかになったといえる。重要度の差異により金銭価値評価に多様性が生じる場合には、人々の金銭価値評価を増大させるためには政策として人々の考える重要度を高めていく方策を検討することが有益となる。環境政策の予算の妥当性を高めていくためには人々がその予算を支払ってもよいと考えているかどうかは当然ながら重要であり、その点の検証材料を本研究は提供するものと考えられる。

平成28年度の研究では生活満足度を政策効果の代理指標とし、前年度のアンケートデータおよび環境保全経費の比重をもとに選定した12項目の環境状況について、政策の費用対効果の考察を行った。研究初年度と研究2年目に同一個人に対して同一のアンケートを行うことで、日本全国で71,932人のパネルデータを構築することで、研究初年度と比較して、より統計的に信頼性における分析結果を得ることができている。分析の結果、12種の環境状況満足度1段階増大の金銭価値評価に関して、差分方程式を用いることにより研究初年度のクロスセクション分析よりも大きな金額が得られたことになる。

表2-80に示したように、国民の平均で考えると、国民一人当たり平成28年度環境保全経費予算(B)は環境状況満足度が1段階上昇することの金銭価値(A)を考慮すると大変小さく、今後1段階国民の満足度を増大させることに対して要することができる予算はより大きくてもよいことが示唆される。本研究から得られる示唆としては、環境状況満足度が1段階上昇することの金銭的価値(A)が国民一人当たり平成28年度予算(B)と比較して極めて大きいことであり、今後1段階国民の環境状況が上昇することの政策的意義が大きいことに他ならないと考えられる。ただし、満足度を1段階上昇させることは平成27年度と平成28年度の満足度の経年変化の変分をみると単年では難しいといえる。長期的な計画で国民の満足度を向上させていくことを検討していく必要があると考えられる。たとえば1段階上昇ではなく、0.5段階の上昇であれば長期的には可能である可能性が考えられる。この長期の予算を考える際に国民の税金負担として支払意思額を根拠としていくことが考えられるのではないだろうか。

平成29年度は12種の環境状況満足度および大気汚染と気温に関する客観指標についてLSAによる金銭価値評価を行った。研究初年度と2年目と異なり、同一個人に対してアンケートを3年間行うことで研究三年目はパネルデータ分析を行うことができおり、前年および前々年のLSAの結果よりも統計的に信頼できる結果が得られていると考えている。パネルデータ分析によるLSAの結果、12種の環境状況満足度について、人々は満足度1段階の増大に対して2万から5万円程度の支払意思額を持つことが示された。この金額は研究初年度のクロスセクション分析におけるLSAの金額よりは小

さく、研究 2 年目の 2 期間のデータを用いた差分方程式による LSA の金額よりは小さい結果といえる。また、CVM による支払意思額と LSA による支払意思額を比較することで CVM より LSA のほうが低い金額が得られる可能性も示されており、CVM による過大評価の可能性を回避できる結果が得られていると考えている。以上の分析結果から第 4 次環境基本計画における主たる環境指標として選定した 12 種の環境状況について人々の支払意思額について先行研究よりも信頼のおける金額が得られたと考えている。

本サブテーマの最終目標は環境政策の費用対効果を検証することであった。12 種の環境状況に対して国民が持つ政策への支払意思額（効果）については本研究で把握することができたと考えられる。しかし、費用対効果における費用については国の環境保全経費予算を用いたが、課題として自治体の予算は費用に含められていないこと、自治体や企業の自発的な取り組み、企業の技術進歩による効果、NGO・NPO および地域住民の自発的取り組みなど取り組みに対して必要となるすべての費用について計上することは研究の範囲を超えてしまう。したがって、本研究では「政策の費用としていくらまで計上することを国民は許容するのか」、すなわち支払意思額について提示することにとどめたい。人々が税金負担等で年間いくらまで負担してもよいと考えているのか、ということは政策のために計上する予算を検討する際に重要な基礎材料となると考えられる。本研究で得られた LSA による 12 種の環境状況に対する支払意思額は先行研究よりも統計的に信頼のおけるものであり、その金額を踏まえた予算設定を行っていくことが期待される。

表 2-48 においても述べたが、12 種の環境状況についての平成 28 年度の環境保全経費の一人当たりの金額を鑑みると、国民の平均で考えると、国民一人当たり環境保全経費予算は環境状況満足度が 1 段階上昇することの金銭価値を考慮すると大変小さいことが本研究の LSA の結果より見出されたことになる。すなわち、本研究から得られる示唆は、環境状況満足度が 1 段階上昇することの金銭的価値が国民一人当たり予算と比較して極めて大きいことであり、今後 1 段階国民の環境状況が上昇することの政策的意義が大きいことに他ならないと考えられる。

ただし、満足度を 1 段階上昇させることは過去 3 年の環境状況満足度の経年変化の変分をみると数年スパンでは難しいといえる。長期的な計画で国民の満足度を向上させていくことを検討していく必要があると考えられる。たとえば 1 段階上昇ではなく、0.5 段階の上昇であれば長期的には達成可能である可能性が考えられる。この長期の予算を考える際に国民の税金負担として 0.5 段階の支払意思額（本研究における表 3-82 の(B)の半分の金額）を根拠としていくことも考えられるのではないだろうか。以上のような議論に本研究で得られた LSA による支払意思額が活用されることを期待して本研究の報告書の結びとしたい。

本研究の課題としては費用対効果の費用の部分、すなわち予算データの精査が不十分となっていることから費用対効果の検証を留保した点である。今後克服していく必要のある点として、国の環境保全経費は一覧として詳細データを入手可能であるが、予算項目が多岐にわたり、一つの環境指標に対して関係性の深い予算だけでなく、間接的に影響が考えられる予算も存在し、1 対 1 対応で予算を分類することが難しいことが挙げられる。このことを背景に、環境指標ごとの予算を正確に特定することに現状は至っていない。また、費用（予算）の把握においては国の予算だけでなく、地方自治体の取り組みも関係する。さらには、効果の把握については、国や地方自治体の政策の効果に加えて、企業の自主的取り組み、民間 NPO・市民の取り組み、消費者の取り組み、さらには自然現象における自然起源の影響なども環境状況に影響する可能性があるため、これらの動向を考慮に入れた効果の把握

を行い、国や地方自治体の政策の効果と分離して効果を把握していく必要があるといえる。

### III 添付資料

## 添付資料 1 参考文献

### 第 1 章 持続可能性指標に関する資本項目の拡充とシャドウプライス推定に関する研究

- 倉阪秀史(2012)、『人口減少・環境制約下で持続するコミュニティづくり』千葉日報社。
- 栗山浩一(1998)、『環境の価値と評価手法』北海道大学図書刊行会。
- 国立環境研究所(2009)、「中長期を対象とした持続可能な社会シナリオに関する研究」、国立環境研究所特別研究報告 SR-92, 2009.
- 佐藤真行、植田和弘(2013)、「森里海連環と持続可能な発展」、アカデミア、No.139、pp.20-26.
- 佐藤真行 (2014)、「「持続可能な発展」に関する経済学的指標の現状と課題」、『環境経済・政策研究』、第7巻、第1号、pp.23-32.
- 馬奈木俊介編 (2017)、『豊かさの価値評価：新国富指標の構築』中央経済社
- 秦淳、清原裕 (2015)、「脳卒中のバイオマーカー：久山町研究」『脳卒中』、第37巻、5号、pp.352-357.
- Absar SM, Preston BL (2015), “Extending the Shared Socioeconomic Pathways for sub-national impacts, adaptation, and vulnerability studies”, *Global Environmental Change*, 33:83–96.
- Arronson, T., C. Cialani and K.G. Lofgren, “Genuine saving and the social cost of taxation”, *Journal of Public Economics*, 96: 211-217.
- Arrow, K., Dasgupta, P. and Mäler, K.-G. (2003), “Evaluating Projects and Assessing Sustainable Development in Imperfect Economies”, *Environmental and Resource Economics*, 26(4): 647-685
- Asheim, G. (1994), “Net national product as an indicator of sustainability”, *Scandinavian Journal of Economics*, 96: 257–265.
- Bateman, I. J, R. T. Carson, B. Day, M. Hanemann, N. Hanley, T. Hett, M. Jones-Lee, G. Loomes, S.Mourato, E. Özdemiroğlu, D. W. Pearce, R. Sugden and J. Swanson (2002), “Economic Valuation with Stated Preference Techniques”, Edward Elgar.
- Barrio, M., and M.L. Loureiro, (2010). “A meta-analysis of contingent valuation forest studies”, *Ecological Economics*, 69: 1023–1030.
- Brander, L., M., Raymond, J. G. M. F., and Vermaat, J.E (2006), “The Empirics of Wetland Valuation: A Comprehensive Summary and a Meta-Analysis of the Literature”, *Environmental and Resource Economics*, 32: 223-250.
- Costanza, R., R. d’Arge, R. de Groot, S. Farber, M. Grasso, B. Hannon, K. Limburg, S. Naeem, R. V. O’Neill, J. Paruelo, R. G. Raskin, P. Sutton and M. van den Belt (1997), “The value of the world’s ecosystem services and natural capital”, *Nature*, 387: 253-260.
- Dahlby, B. (2008), *Marginal Cost of Public Funds*, The MIT Press, Cambridge.
- Dasgupta, P. and Heal, G. (1974), “The Optimal Depletion of Exhaustible Resources”, *Review of Economic Studies*, 41, 5, pp.3-28.
- Dasgupta, P. (2004), *Human Well-Being and the Natural Environment*, New York, Oxford University Press.
- Dasgupta, P. (2007) *Economics: A Very Short Introduction*, Oxford University Press, New York.

- Dietz, S., E. Neumayer and I. De Soysa (2007) “Corruption, the resource curse and genuine saving,” *Environment and Development Economics*, Vol. 12, pp. 33-53.
- Easterlin, R.A. (1974). “Does economic growth improve the human lot? Some empirical evidence”. In: P.A.David and M.W. Reder (eds), *Nations and Households in Economic Growth: Essays in Honour of Moses Abramowitz*, Academic Press, New York.
- Easterlin, R.A. (2001) “Income and happiness: Towards a unified theory”, *The Economic Journal*, 111, pp.465-484.
- Ekins, P., Simon S., Deutsch, L., Folke, C., and Groof R. D. 2003. “A Framework for the practical application of the concepts of critical natural capital and strong sustainability.” *Ecological Economics* 44:165-185.
- Engelbrecht, H-J. (2009), “Natural capital, subjective well-being, and the new welfare economics of sustainability: Some evidence from cross-country regressions”, *Ecological Economics*, 69, pp.380-388.
- Engle, R. (1982) “Autoregressive Conditional Heteroskedasticity with Estimates of the Variance of United Kingdom Inflation,” *Econometrica*, Vol. 50, No. 4, pp.987-1007.
- Engle, R., D. Lilien and R. Robins (1987) “Estimating Time Varying Risk Premia in the Term Structure: The Arch-M Model,” *Econometrica*, Vol. 55, No. 2, pp. 391-407.
- Gowdy, J. (2005) , “Toward a new welfare economics for sustainability”, *Ecological Economics*, 53, pp.211-222.
- Hartwick, J. (1994), “National wealth and net national product”, *Scandinavian Journal of Economics*, 96, pp.253–256.
- Ikeda, Shinya, Hiroki Nakamura, and Shunsuke Managi. 2016. “Accounting for Inclusive Wealth of Regions: Prefecture-level Analysis in Japan during 1990-2010.” In *The Wealth of Nations and Regions*, ed. S. Managi, Routledge, UK. 150-185.
- Inglehart, R., Foa, R., Peterson, C. and Welzel, C. (2008), “Development, freedom, and rising happiness”, *Perspectives on Psychological Science*, 3, 4, pp.264–285.
- Jacobs, B. (2016), “The Marginal Cost of Public Funds is One at the Optimal Tax System”, mimeo.
- Koopmans, T. C. (1974), “Proof for a Case where Discounting Advances the Doomsday”, *Review of Economic Studies*, 41, 5, pp.117-120.
- Kubo M, Hata J, Ninomiya T et al. (2007) “A Nonsynonymous SNP in PRKCH (protein kinase C  $\beta$ ) Increases the Risk of Cerebral Infarction.” *Nature genetics*. 39(2): 212-217.
- Lee, J. (2010) “The link between output growth and volatility: Evidence from a GARCH model with panel data,” *Economics Letters*, Vol. 106, pp. 143-145.
- MA Board (2005), *Living Beyond Our Means: Natural Assets and Human Well-being*, Millennium Ecosystem Assessment.
- Mirman, L. J. (1971) “Uncertainty and optimal consumption decisions,” *Econometrica*, Vol. 39,

pp. 179-185.

- Mitsch, W.J., and Gosselink, J.G., (2015). "Wetlands", 5th edition. John, Wiley, New York.
- Ramsar Convention Secretariat (2004). "Ramsar handbooks for the wise use of wetlands", 2nd edition. Ramsar Convention Secretariat, Gland, Switzerland.
- O'Neill BC, Kriegler E, Riahi K, et al (2014) A new scenario framework for climate change research: The concept of shared socioeconomic pathways. *Climate Change* 122:387–400.
- Pearce, D. W. and Atkinson, G. D. (1993), "Capital Theory and the Measurement of Sustainable Development: An Indicator of 'Weak' Sustainability", *Ecological Economics*, Vol. 8, No. 2, pp. 103-108.
- Ramey, G. and V. A. Ramey (1995) "Cross-country evidence on the link between volatility and growth," *American Economic Review*, Vol. 85, pp. 1138-1151.
- Salmon JA, Vos T, Hogan DR, et al. 2012. "Common values in assessing health outcomes from disease and injury: disability weights measurement study for the Global Burden of Disease Study 2010." *Lancet* 380: 2129-43.
- Sato, M., S. Samreth, and K. Sasaki (2017), "The Impact of Institutional Factors on the Performance of Genuine Savings", forthcoming.
- Smith, V. L. (1974), "General Equilibrium with a Replenishable Natural Resource", *Review of Economic Studies*, 41, 5, pp.105-115.
- Solow, R. M. (1974), "Intergenerational Equity and Exhaustible Resources", *Review of Economic Studies*, 41, 5, pp.29-45.
- Stiglitz, J. E. (1974a), "Growth with Exhaustible Natural Resources: Efficient and Optimal Growth Paths", *Review of Economic Studies*, 41, 5, pp.123-137.
- Stiglitz, J. E. (1974b), "Growth with Exhaustible Natural Resources: The Competitive Economy", *Review of Economic Studies*, 41, 5, pp.139-152.
- Stiglitz et al. (2009) "The Measurement of Economic Performance and Social Progress"
- Stiglitz, J. E., Sen, A. and Fittoussi, J-P. (2010), *Mis-Measuring Our Lives: Why GDP doesn't add up*, The New Press.
- TEEB (2010), "The Economics of Ecosystems and Biodiversity Ecological and Economic Foundations", Edited by Pushpam Kumar. Earthscan, London and Washington.
- Barbier, E. B. (2011), "Wetlands as natural assets", *Hydrological Sciences Journal*, 56, 8, pp.1360-1373.
- van der Ploeg, F. and S. Poelhekke (2009), "Volatility and the natural resource curse," *Oxford Economic Papers*, 61, pp. 727-760.
- Weitzman, M. (1976), "On the Welfare Significance of National Product in a Dynamic Economy", *Quarterly Journal of Economics*, Vol. 90, No. 1, pp.156-162.
- Woodward, R. T., and Y. S. Wui (2001) "The economic value of wetland services: A meta-analysis", *Ecological Economics*, 37(2), pp. 257–270.

- World Commission, 1987. Our Common Future (Brundtland Report), Oxford University Press.

## 第2章 生活満足度アプローチ (LSA) を用いた評価

倉増啓、鶴見哲也、馬奈木俊介、林希一郎、(2010)、「主観的幸福度指標と環境汚染：国内でのサーベイデータを用いた計量分析」、環境科学会誌、23(5): 401-409.

鶴見哲也、溝渕英之、馬奈木俊介、(2015)、第Ⅱ期環境経済の政策研究（高質で持続的な生活のための環境政策における指標研究）最終報告書「第4章 幸福度指標を用いた自然資本の金銭価値評価」.

Frey B.S., Luechinger, S., and Stutzer, A., (2009) “The Life Satisfaction Approach to Environmental Valuation”, IZA Discussion Paper No.4478.

Frey, B. S. and Stutzer, A. (2002) “Happiness and Economics: How the Economy and Institutions Affect Well-Being” Princeton and Oxford: Princeton University Press.

Tsurumi, T. and S. Managi. (2015) “Environmental Value of Green Spaces in Japan: An Application of the Life Satisfaction Approach”, Ecological Economics, 120: 1-12.

## 添付資料 2.1 福井県のアンケート調査概要と集計結果

表 I-1 救助・防災（設問数 8）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の消防団の機能</li> <li>➤ 地域の自主防災組織</li> <li>➤ 地域の防犯ボランティア団体</li> <li>➤ 救急救命士</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 消防団が一団体減少</li> <li>➤ 自主防災組織が一組織減少</li> <li>➤ 防犯ボランティア団体が一団体減少</li> <li>➤ 救急救命士が一名減少</li> </ul>

表 I-2 社会活動団体（設問数 8）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の交通指導員</li> <li>➤ 地域の地縁団体</li> <li>➤ 地域の民生委員・児童委員</li> <li>➤ 地域の社会福祉活動団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 交通指導員が一名減少</li> <li>➤ 地縁団体が一団体減少</li> <li>➤ 民生委員・児童委員が一名減少</li> <li>➤ 社会福祉活動団体が一団体減少</li> </ul>

表 I-3 介護・健康（設問数 4）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域のわがまち健康推進員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域のわがまち健康推進員が一名減少</li> <li>➤ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の定員人数が一名減少</li> <li>➤ 産科・産婦人科医師が一名減少</li> </ul>

表 I-4 子育て（設問数 9）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の子育て支援拠点</li> <li>➤ 地域の子育てマイスター</li> <li>➤ 地域の学童保育</li> <li>➤ 地域のスポーツ少年団・スポーツクラブの減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 保育所等の定員数が一名減少</li> <li>➤ 地域の子育て支援拠点が一拠点減少</li> <li>➤ 地域の子育てマイスターが一名減少</li> <li>➤ 地域の学童保育の設置場所が一か所減少</li> <li>➤ 地域のスポーツ少年団・スポーツクラブが一団体減少</li> </ul>

表 I-5 交流促進（設問数 4）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の「縁結びさん」</li> <li>➤ 地域の国際交流団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「地域の縁結びさん」が一名減少</li> <li>➤ 地域の国際交流団体が一団体減少</li> </ul>

表 I-6 学習・芸術（設問数 3）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の舞台芸術・芸術公演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 生涯学習講座が一講座減少</li> <li>➤ 地域の舞台芸術・芸術公演数の一つ減少</li> </ul>

表 I-7 自然・動植物（設問数 8）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の自然公園</li> <li>➤ 景観地区等</li> <li>➤ 自然環境保全地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の自然公園が 100ha（1km×1km）減少</li> <li>➤ 環境美化・自然環境の保全が行われている農業集落が一集落減少</li> <li>➤ 景観地区等が 1ha（100m×100m）減少</li> <li>➤ 県内の絶滅が危惧される動植物が 1 種減少</li> <li>➤ 県内の自然環境保全地域が 1ha（100m×100m）減少</li> </ul>

表 I-8 伝統・文化（設問数 10）

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の文化遺産</li> <li>➤ 地域の伝統工芸品</li> <li>➤ 地域の祭り・伝統芸能</li> <li>➤ 地域の神社仏閣</li> <li>➤ 地域の文化財保存活動者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域の文化遺産が一つ減少</li> <li>➤ 地域の伝統工芸品が一つ減少</li> <li>➤ 地域の祭り、伝統芸能が一つ減少</li> <li>➤ 地域の神社、仏閣、道場が一つ減少</li> <li>➤ 地域の文化財保存活動者が一名減少</li> </ul>

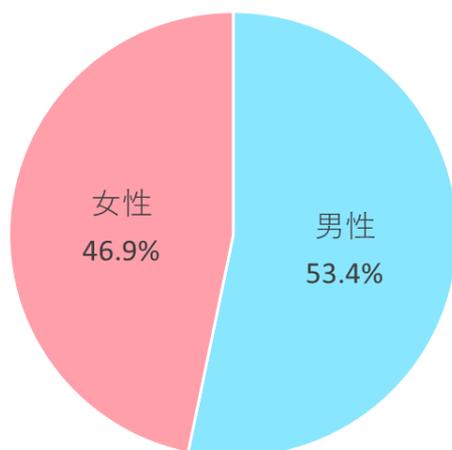


図 I-1 【回答者属性】性別

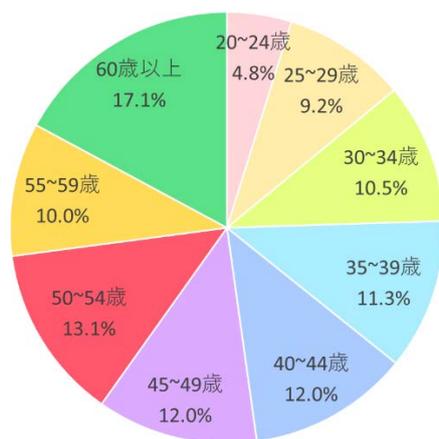


図 I-2 【回答者属性】年齢

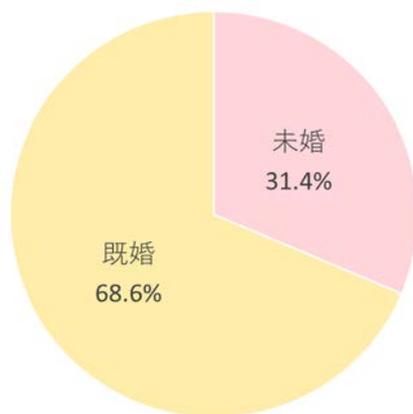


図 I-3 【回答者属性】配偶者の有無

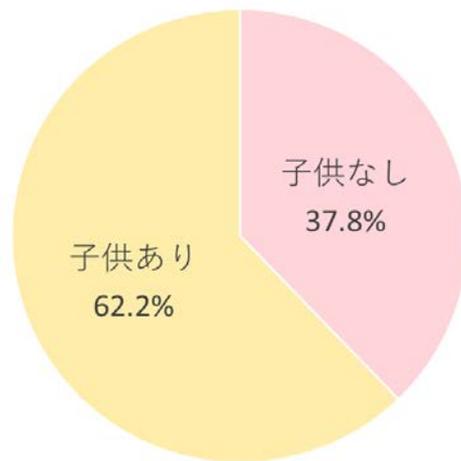


図 I-4 【回答者属性】子供の有無

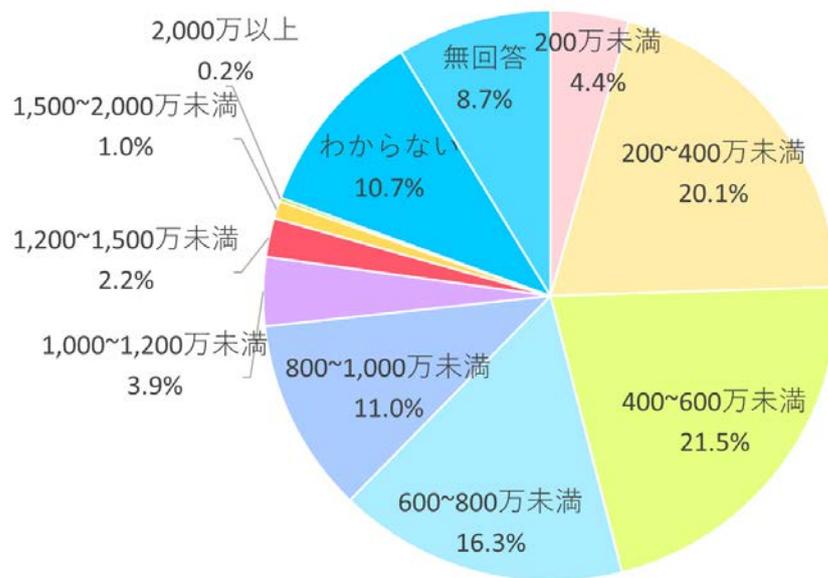


図 I-5 【回答者属性】世帯年収

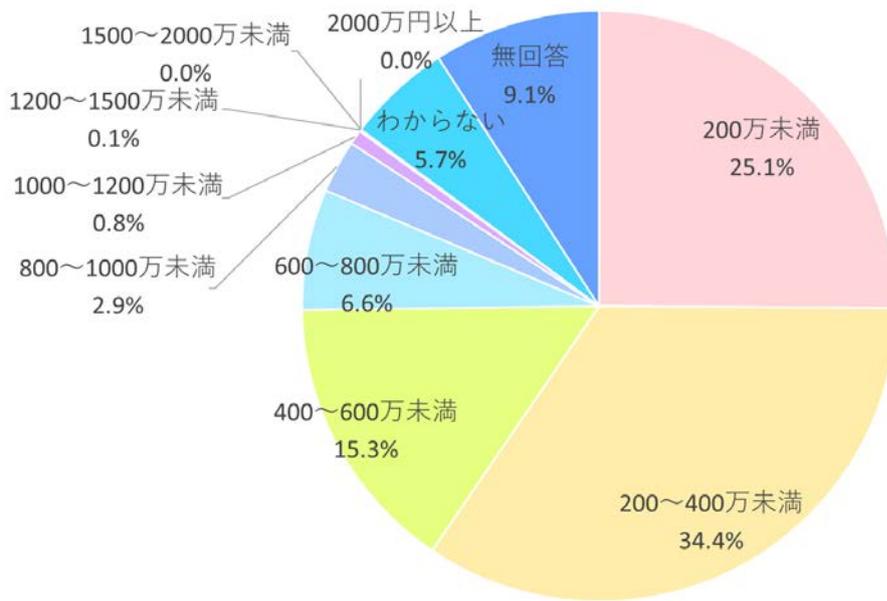


図 I-6 【回答者属性】個人年収

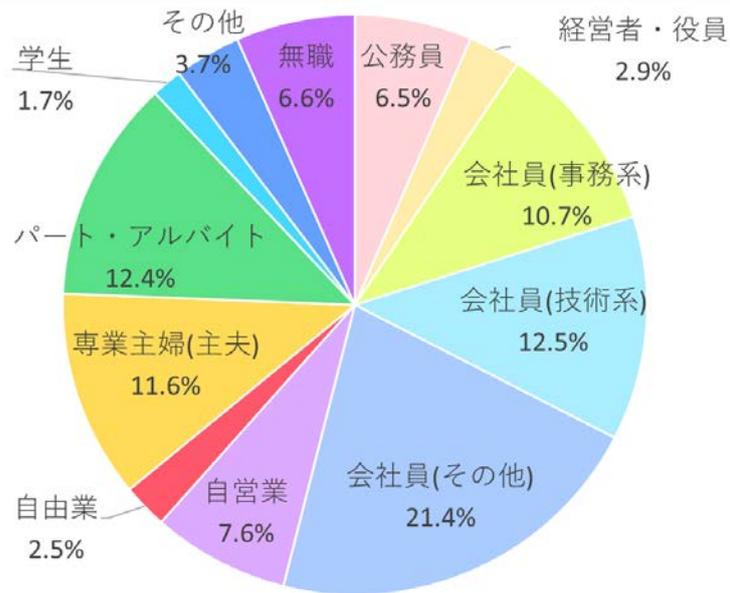


図 I-7 【回答者属性】職業

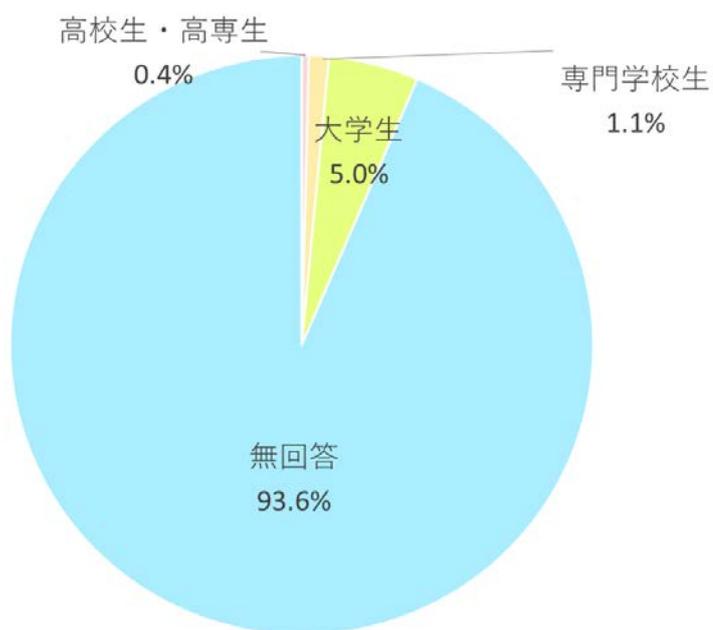


図 I-8 【回答者属性】学生種別

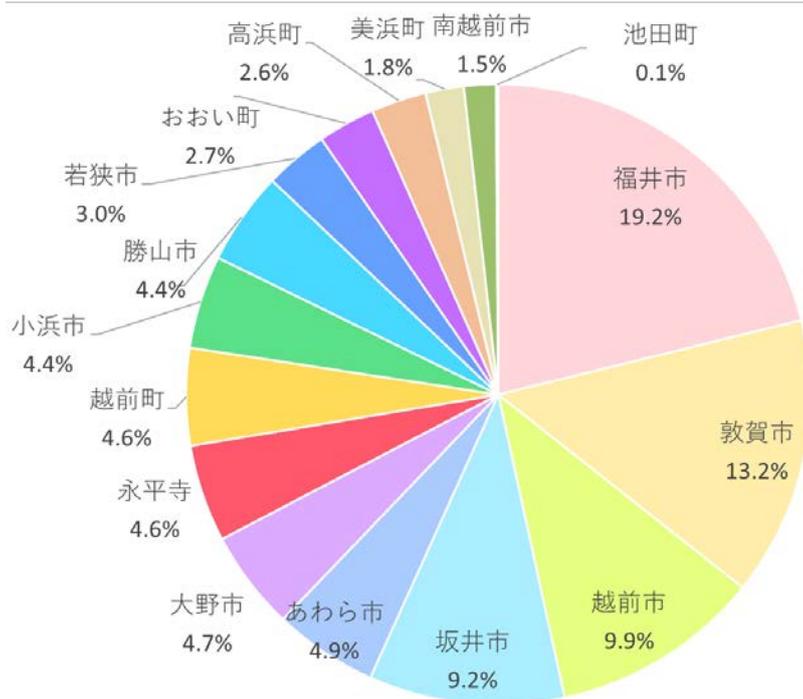


図 I-9 【回答者属性】居住地域

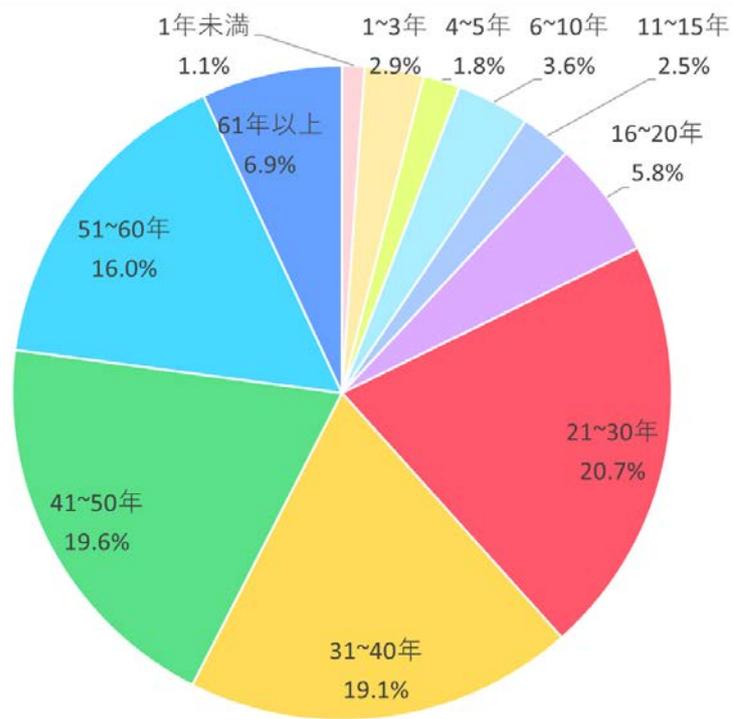


図 I-10 【回答者属性】福井県居住年数

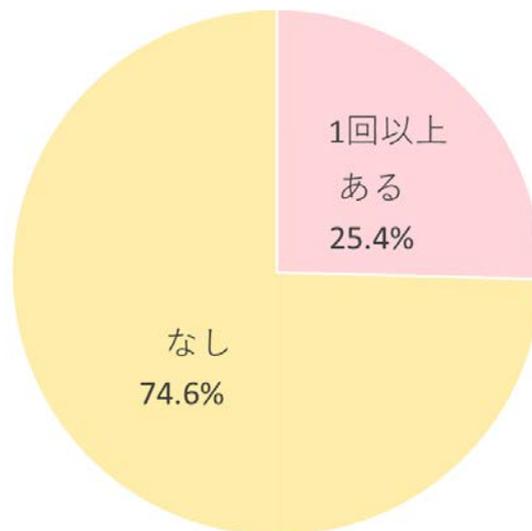


図 I-11 【回答者属性】過去一年間におけるボランティア参加経験の有無

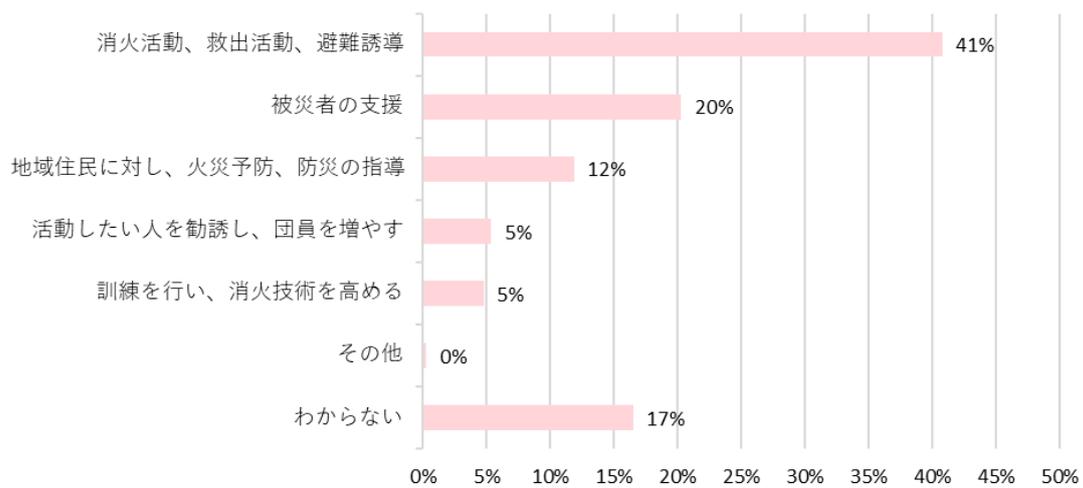


図 I-12 【重要だと思う機能】地域の消防団

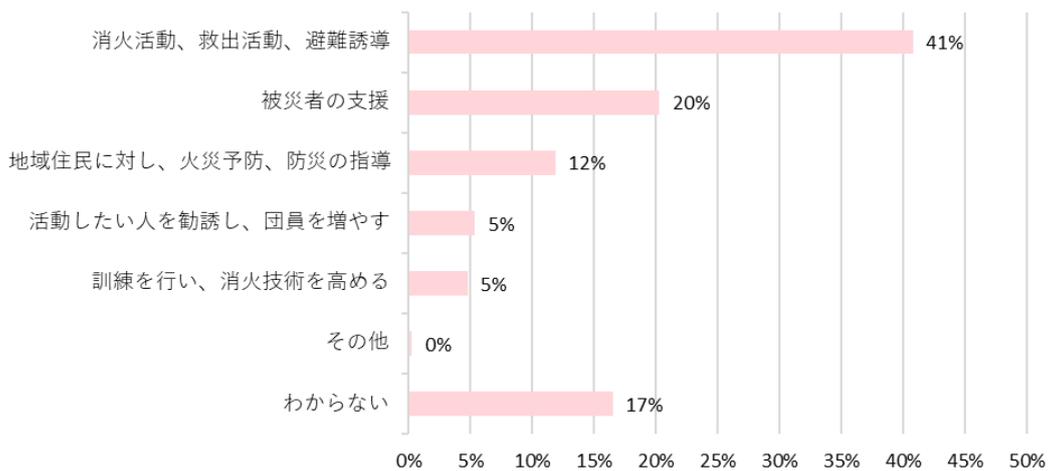


図 I-13 【重要だと思う機能】地域の自主防災組織

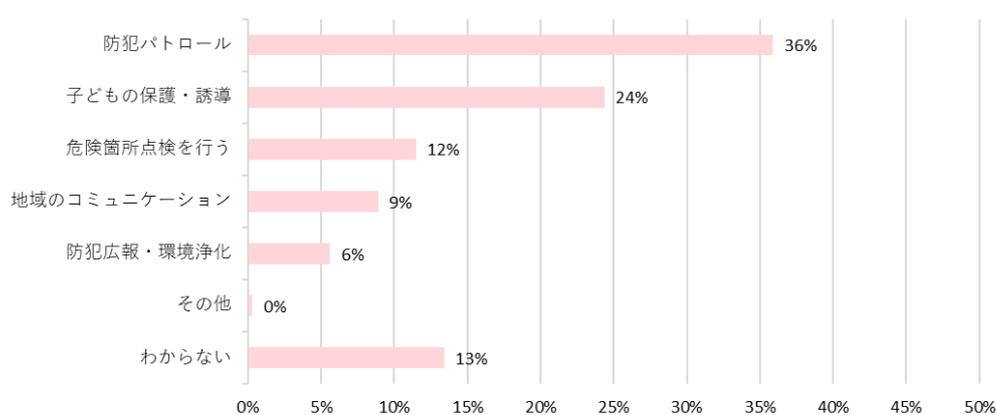


図 I-14 【重要だと思う機能】地域の防犯ボランティア団体

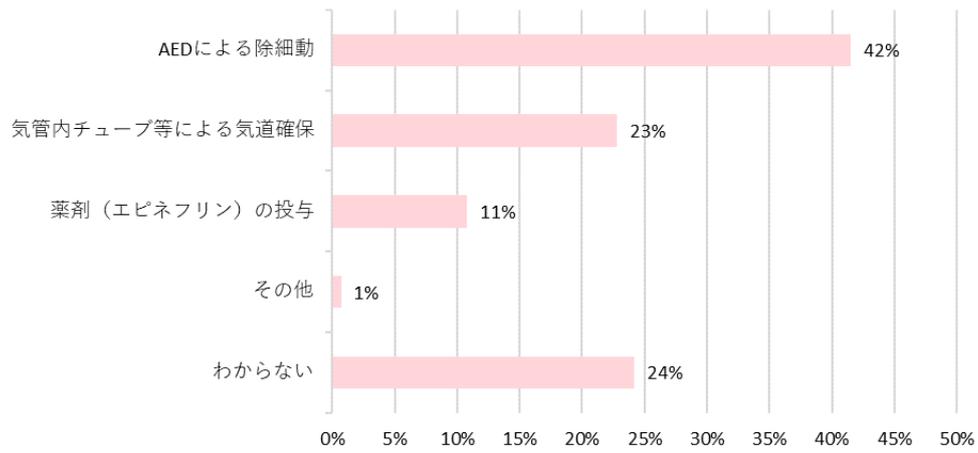


図 I-15 【重要だと思う機能】救急救命士

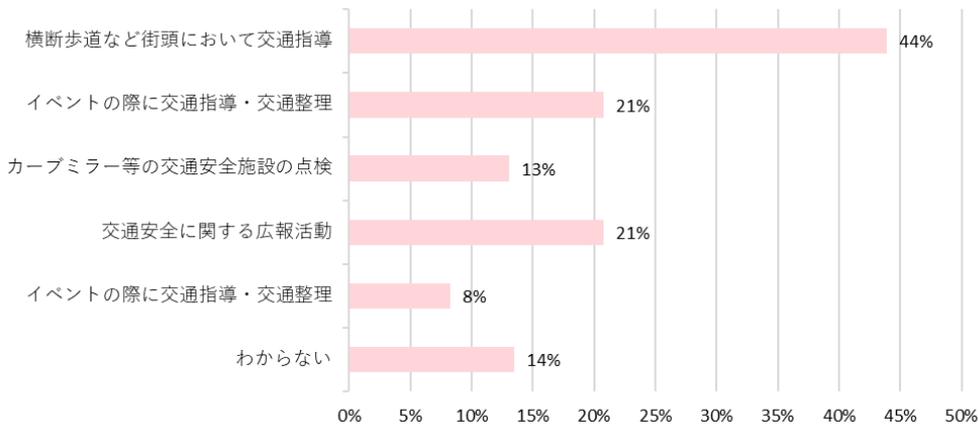


図 I-16 【重要だと思う機能】地域の交通指導員

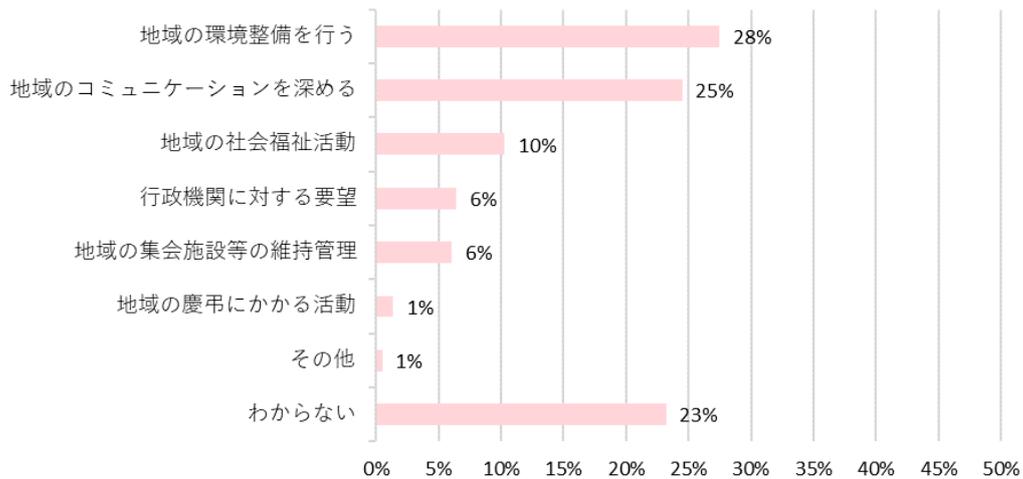


図 I-17 【重要だと思う機能】地域の地縁団体

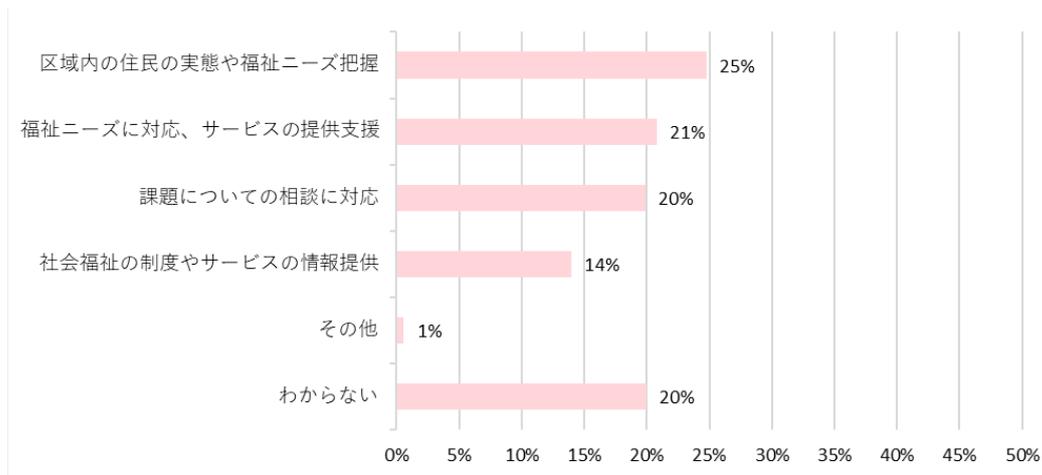


図 I-18 【重要だと思う機能】地域の民生委員・児童委員

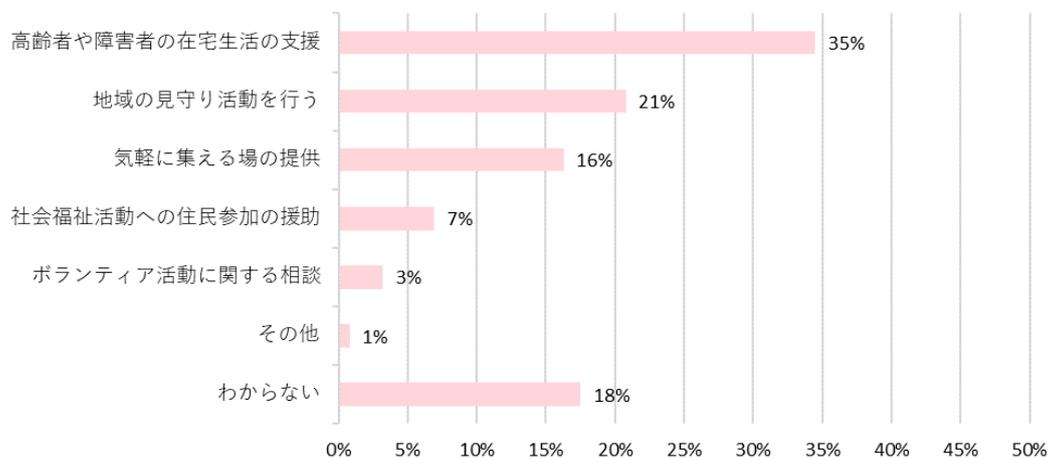


図 I-19 【重要だと思う機能】地域の社会福祉活動団体

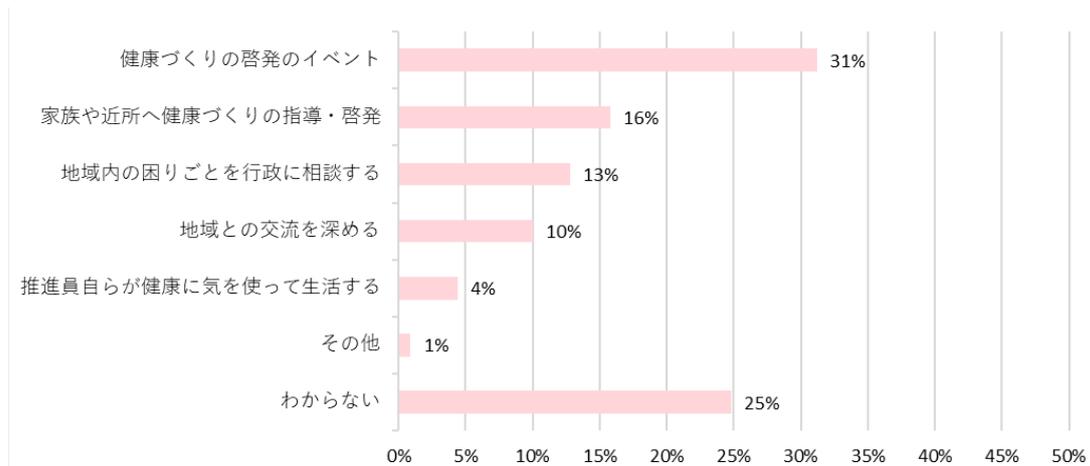


図 I-20 【重要だと思う機能】地域のわがまち健康推進員

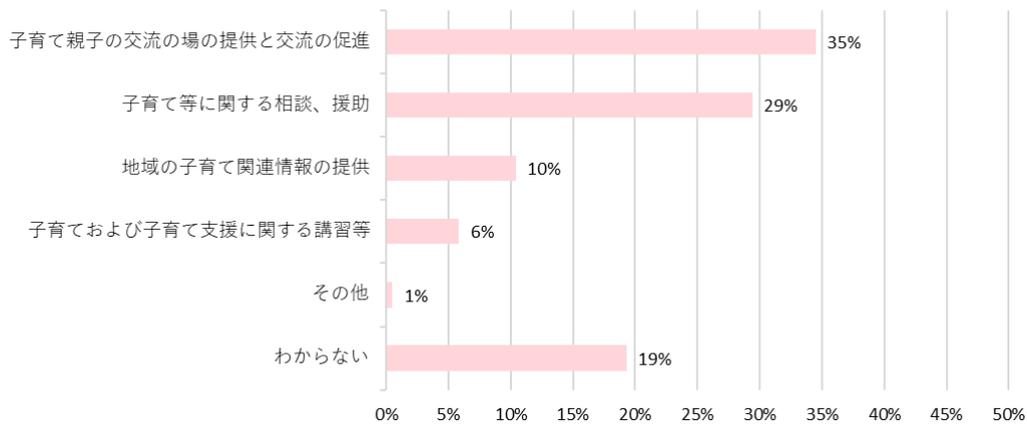


図 I-21 【重要だと思う機能】地域の子育て支援拠点

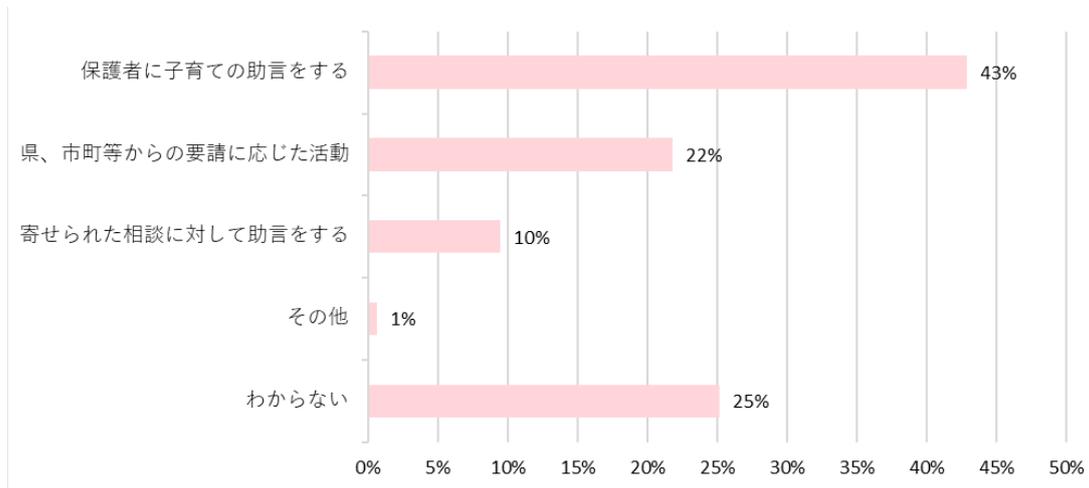


図 I-22 【重要だと思う機能】地域の子育てマイスター

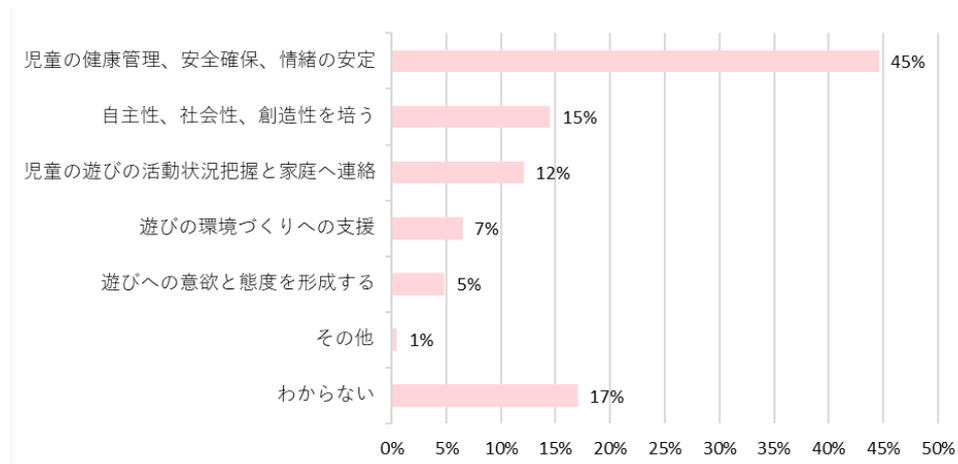


図 I-23 【重要だと思う機能】地域の学童保育

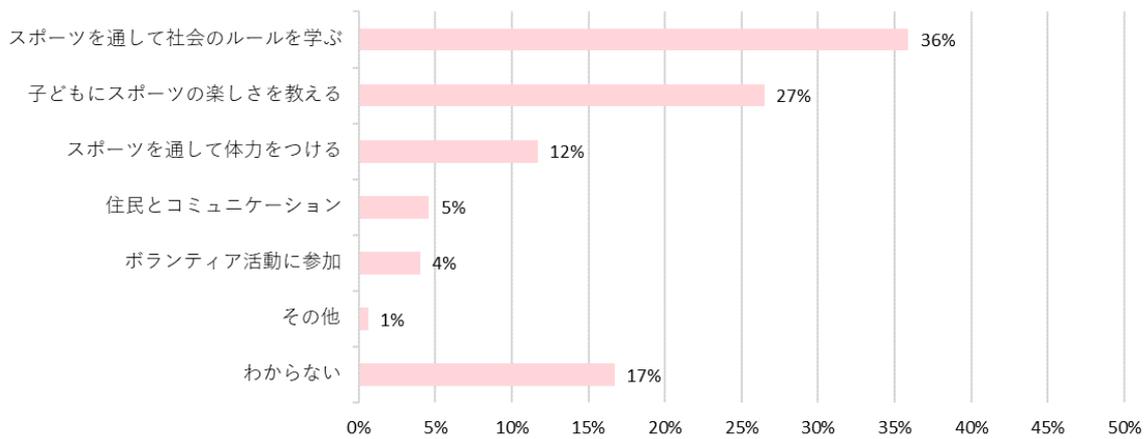


図 I-24 【重要だと思う機能】地域のスポーツ少年団・スポーツクラブ

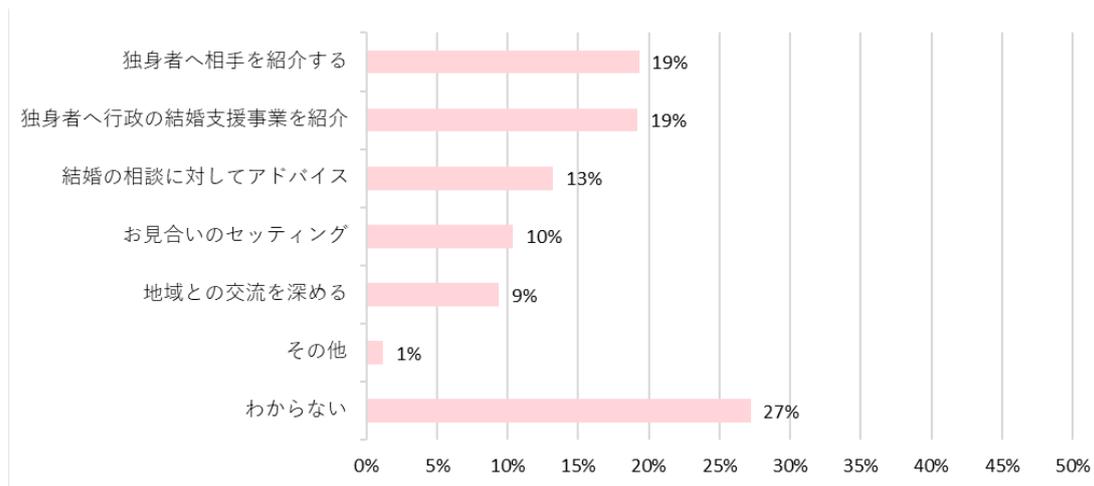


図 I-25 【重要だと思う機能】地域の「縁結びさん」

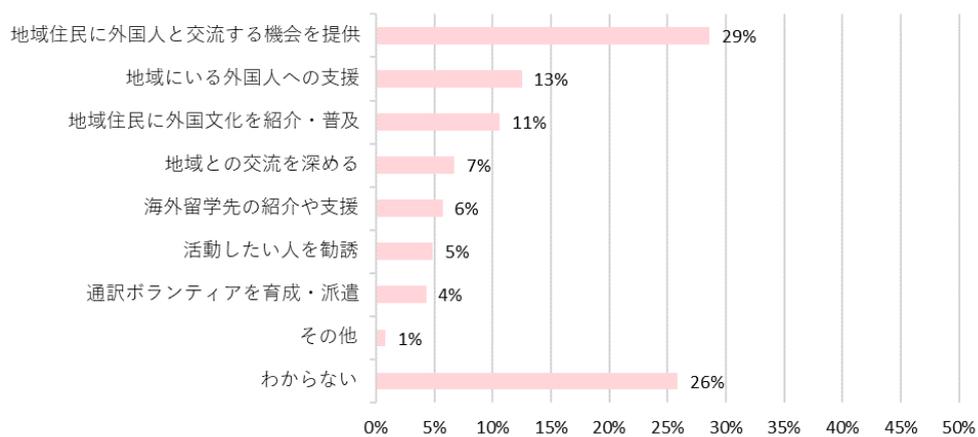


図 I-26 【重要だと思う機能】地域の国際交流団体

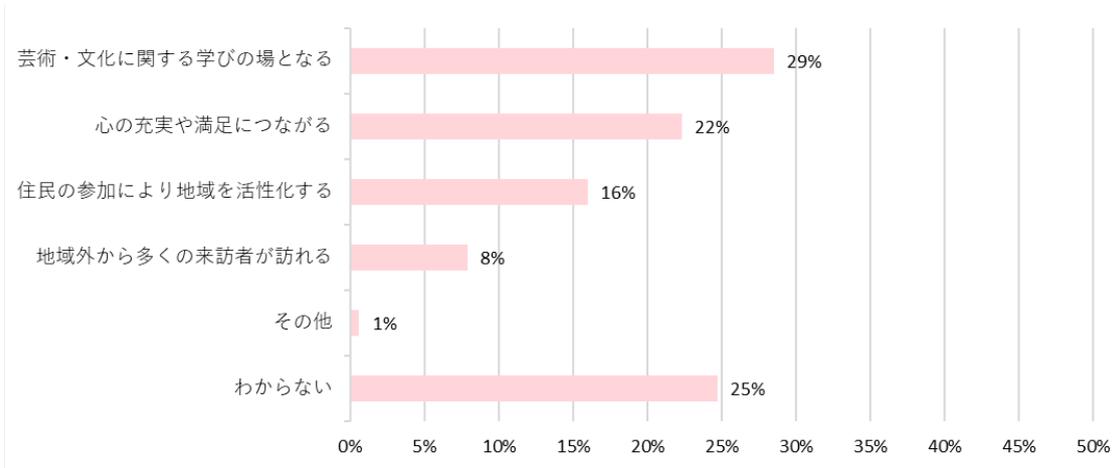


図 I-27 【重要だと思う機能】地域の舞台芸術・芸術公演

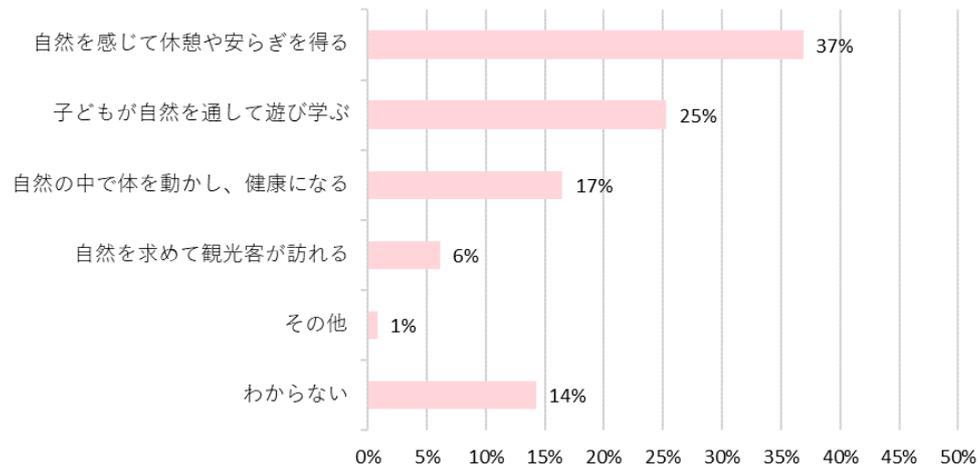


図 I-28 【重要だと思う機能】地域の自然公園

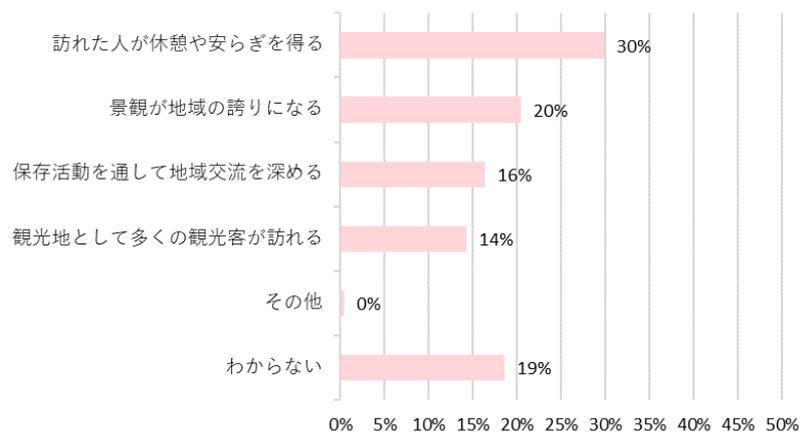


図 I-29 【重要だと思う機能】景観地区等

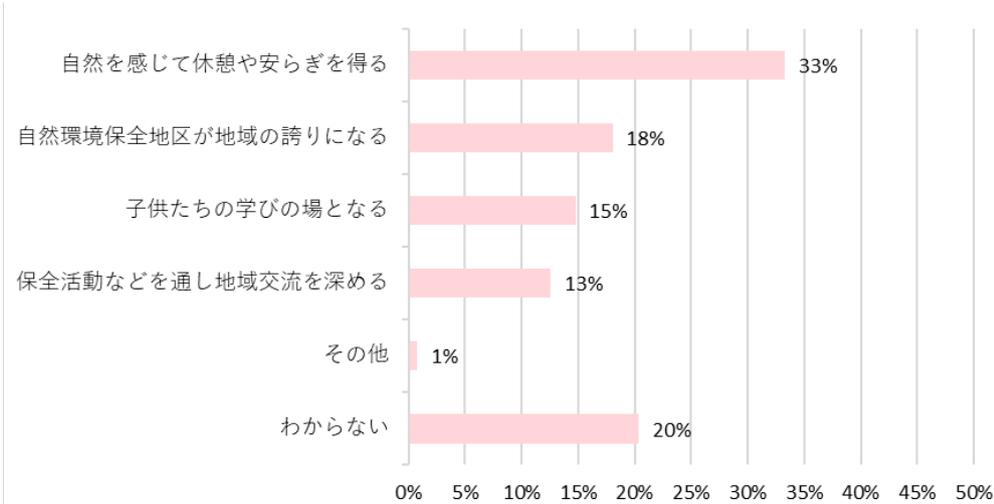


図 I-30 【重要だと思う機能】自然環境保全地域

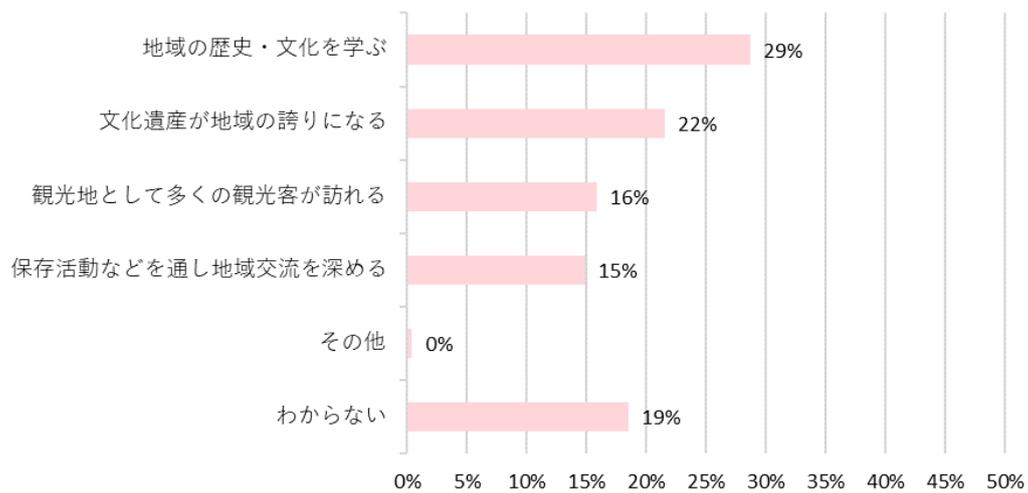


図 I-31 【重要だと思う機能】地域の文化遺産

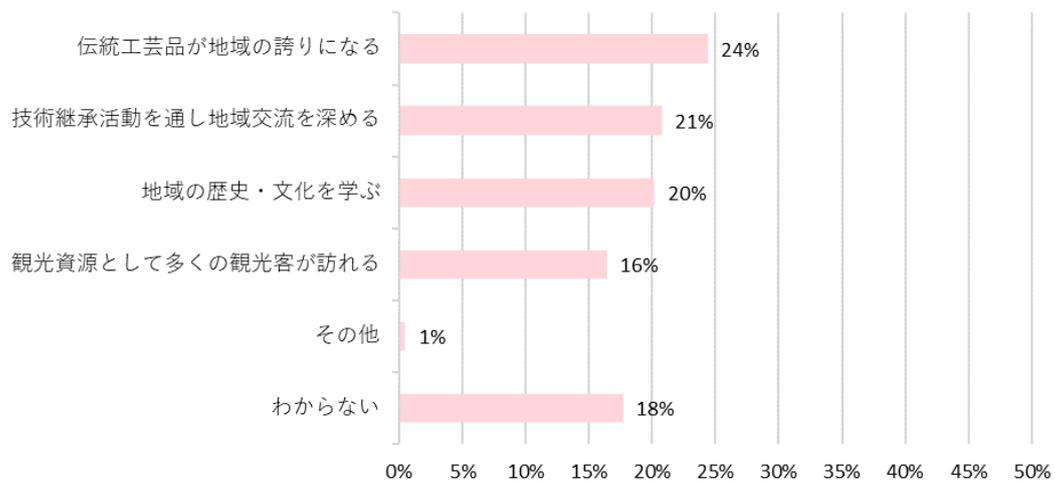


図 I-32 【重要だと思う機能】地域の伝統工芸品

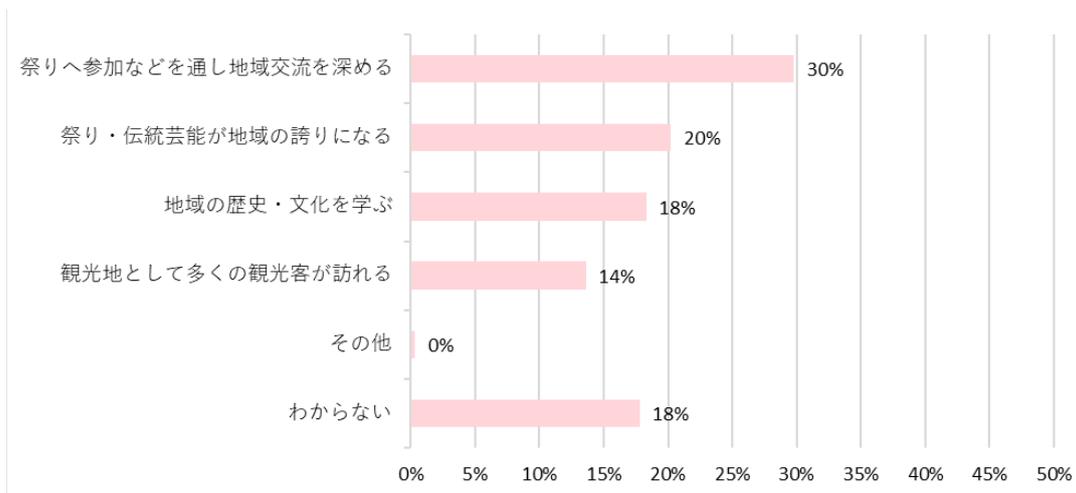


図 I-33 【重要だと思う機能】地域の祭り、伝統芸能

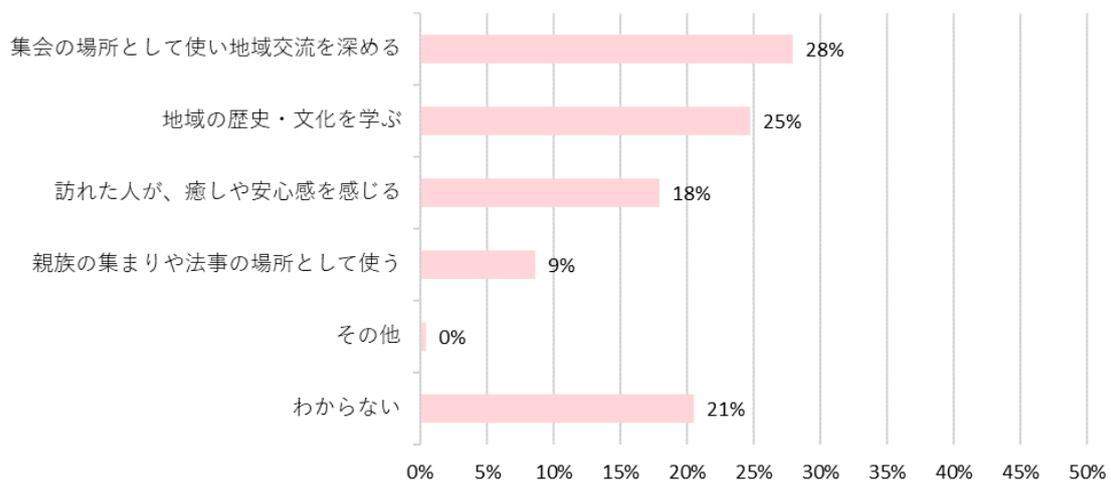


図 I-34 【重要だと思う機能】地域の神社、仏閣

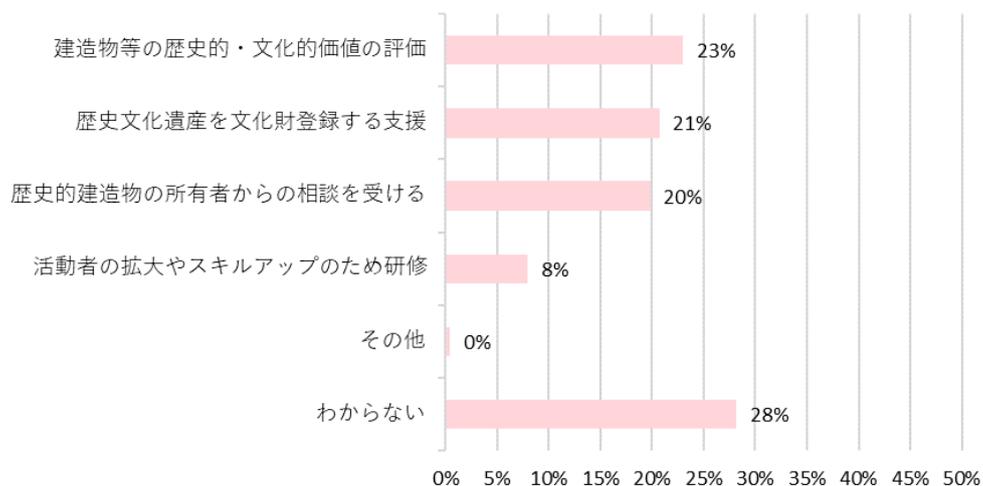


図 I-35 【重要だと思う機能】地域の文化財保存活動者

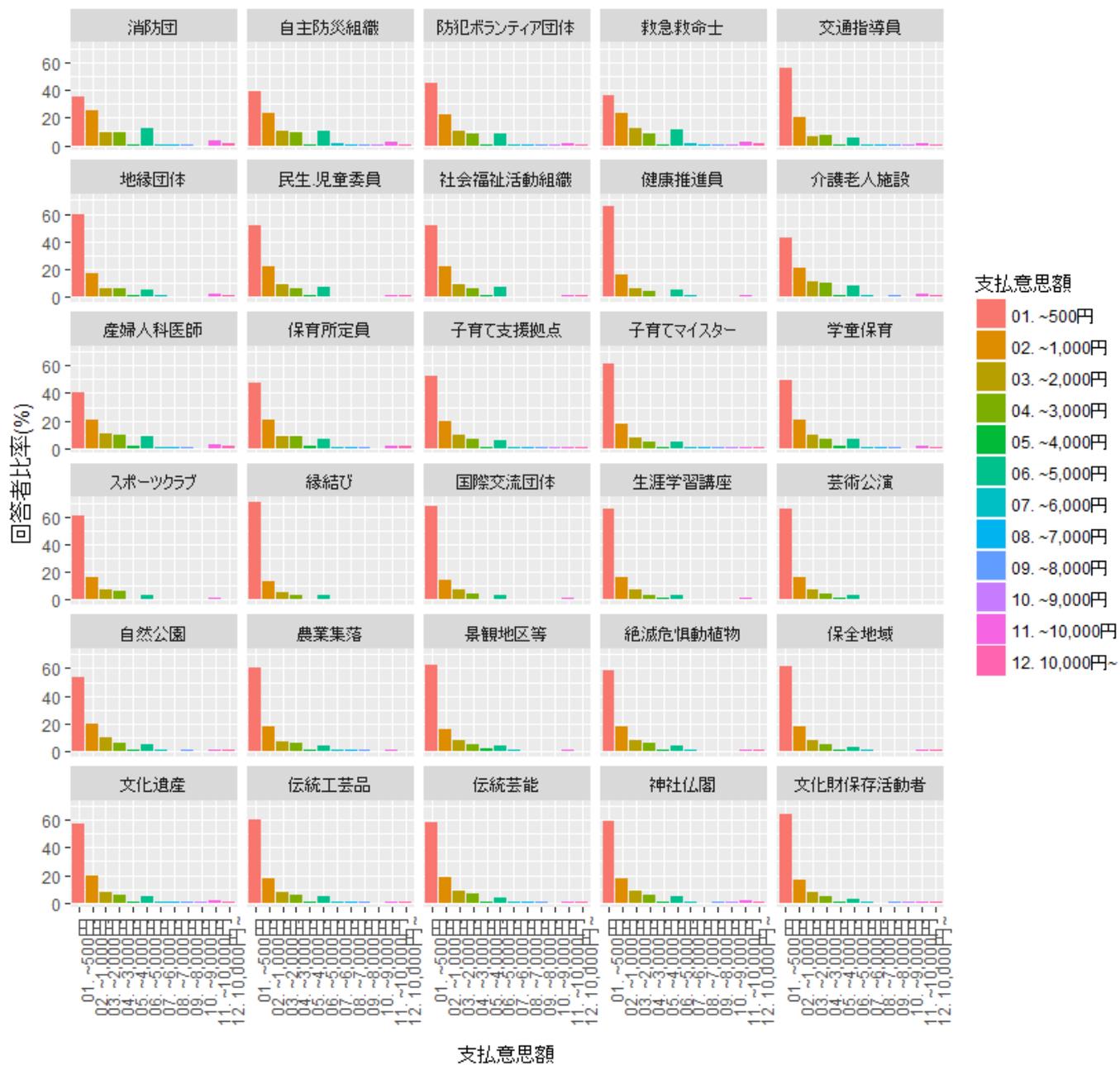


図 I-36 【支払意思額を問う設問】回答者比率（グラフ）

表 I-9 【支払意思額を問う設問】回答者比率（数値）（単位％）

支払意思額	消防団	自主防災組織	防犯ボランティア団体	救急救命士	交通指導員	地縁団体	民生・児童委員	社会福祉活動組織	健康推進員	介護老人施設	産婦人科医師	保育所定員	子育て支援拠点	子育てマイスター	学童保育
01. ~500円	35.6	39.3	45.5	36.0	56.3	59.6	52.0	52.0	65.0	42.3	40.7	47.2	52.2	60.9	49.2
02. ~1,000円	25.6	23.6	22.5	23.6	20.2	17.3	21.6	21.6	16.3	21.1	20.8	20.3	19.2	17.6	20.5
03. ~2,000円	9.5	10.3	10.4	12.6	6.4	6.1	9.1	9.1	6.5	11.3	10.7	8.7	9.7	8.0	9.5
04. ~3,000円	9.6	9.3	8.3	8.8	7.5	6.4	6.5	6.5	4.4	9.8	9.5	9.1	6.6	4.5	7.0
05. ~4,000円	0.6	0.8	0.6	0.9	0.6	0.9	1.0	1.0	0.3	1.0	1.8	1.5	1.0	0.4	1.4
06. ~5,000円	12.4	10.7	8.2	11.7	5.3	5.4	6.8	6.8	4.7	8.4	9.2	7.0	6.0	4.9	7.0
07. ~6,000円	0.9	1.5	0.9	1.2	0.9	1.1	0.3	0.3	0.7	0.7	1.0	1.2	0.9	0.8	1.0
08. ~7,000円	0.2	0.4	0.4	0.6	0.3	0.0	0.2	0.2	0.1	0.5	0.9	0.5	0.9	0.4	0.7
09. ~8,000円	0.4	0.3	0.6	0.6	0.2	0.3	0.5	0.5	0.3	0.9	0.8	0.9	0.5	0.5	0.8
10. ~9,000円	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.5	0.2	0.2	0.4	0.5	0.2
11. ~10,000円	4.0	2.8	1.8	2.7	1.3	1.7	1.0	1.0	1.1	2.5	2.5	2.0	1.3	1.0	1.6
12. 10,000円~	1.4	1.0	0.9	1.2	0.9	0.9	0.9	0.9	0.3	1.0	2.2	1.6	1.3	0.5	1.2
全体	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
支払意思額	スポーツクラブ	縁結び	国際交流団体	生涯学習講座	芸術公演	自然公園	農業集落	景観地区等	絶滅危惧動植物	保全地域	文化遺産	伝統工芸品	伝統芸能	神社仏閣	文化財保存活動者
01. ~500円	61.0	70.8	67.8	65.7	65.8	53.8	60.5	62.7	58.8	61.0	57.4	59.8	58.3	58.8	64.3
02. ~1,000円	16.4	13.8	14.2	16.1	16.0	19.9	18.0	16.1	18.1	17.5	19.1	17.6	18.5	17.7	16.7
03. ~2,000円	7.5	5.3	7.0	7.3	7.0	9.9	7.1	7.9	7.7	8.1	8.1	7.6	8.4	8.3	7.3
04. ~3,000円	6.5	3.6	4.6	3.7	4.4	6.5	6.3	5.1	6.5	5.1	6.1	5.7	6.8	5.8	5.1
05. ~4,000円	0.9	0.9	0.7	1.2	1.0	1.0	0.9	1.6	0.8	1.1	0.8	1.1	0.4	0.6	0.8
06. ~5,000円	3.8	3.1	3.6	3.1	3.2	4.6	3.8	3.8	4.1	2.9	5.0	4.8	3.7	4.9	3.1
07. ~6,000円	0.9	0.1	0.2	0.3	0.6	1.1	0.8	0.9	0.9	1.1	0.6	0.5	0.7	0.8	0.7
08. ~7,000円	0.5	0.4	0.1	0.5	0.2	0.4	0.7	0.2	0.3	0.4	0.3	0.5	0.5	0.1	0.2
09. ~8,000円	0.5	0.5	0.7	0.4	0.4	0.7	0.7	0.5	0.5	0.5	0.4	0.6	0.9	0.4	0.7
10. ~9,000円	0.0	0.2	0.0	0.2	0.2	0.3	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.5	0.3
11. ~10,000円	1.3	0.9	1.0	1.3	0.9	1.1	0.9	0.9	1.5	1.3	1.3	1.2	1.2	1.4	0.8
12. 10,000円~	0.8	0.7	0.2	0.3	0.4	0.7	0.4	0.2	0.8	0.7	0.8	0.5	0.6	0.9	0.3
全体	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

添付資料 2.2. 福岡県久山町のアンケート調査概要

表 II-1 健康促進

現在の状況に関する質問	健診に関する質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の健康状態とその理由</li> <li>・健康維持のためにかける費用（健康食品、サプリメント、健康器具、フィットネス、整体・マッサージ、定期健診）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診した健診の種類</li> <li>・健診を受けた理由</li> <li>・健診による病気発見の有無</li> <li>・健診の受診による生活の変化</li> <li>・健診を受けなかった理由</li> <li>・健診が役に立つと思うか</li> </ul>
重要だと思う機能に関する質問	支払意思額を問う質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診受診者増加のために重要だと思うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診一回の受診に対する支払い意思額</li> </ul>

表 II-2 施設の整備

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額を問う質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心な子育て環境をつくるための機能</li> <li>・高齢者が活躍する町をつくるための機能</li> <li>・医療・福祉ボランティアの機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久山町子育て支援センターの開所日が半分に減少</li> <li>・保育所入所定員人数が1割減少</li> <li>・居住地区の学童保育所施設の閉鎖</li> <li>・シルバー人材センターの閉鎖</li> <li>・医療・福祉ボランティア員の一人の減少</li> </ul>

表 II-3 教育・スポーツ・文化活動の促進

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額を問う質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、スポーツ、文化活動について、最も重要な機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツや文化活動実施施設の半分の減少</li> <li>・英語学習教育（グローバル人材育成事業）の開講日が半分に減少</li> <li>・高校生・大学生を対象とした、海外語学留学支援事業の定数が5人から3人に減少</li> </ul>

表 II-4 都市・生活環境づくり

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額を問う質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園、緑地の最も重要な機能</li> <li>・公共交通手段がはたす最も重要な機能</li> <li>・消防団がはたす重要な機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の公園・緑地が一つ減少</li> <li>・地域のバス運行本数が半分に減少</li> <li>・地域の消防団がなくなる</li> </ul>

表 II-5 産業振興

重要だと思う機能に関する質問	支払意思額を問う質問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興がはたす最も重要な機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工会に対する補助金がなくなる</li> <li>・耕作放棄地 1ha の損失負担</li> <li>・耕作放棄地 1ha の再利用（共同農地、植林、ソーラーパネル、共同駐車場それぞれについて）</li> <li>・久山町の PR ポスターや PR 動画の作成</li> </ul>

Q1居住地域

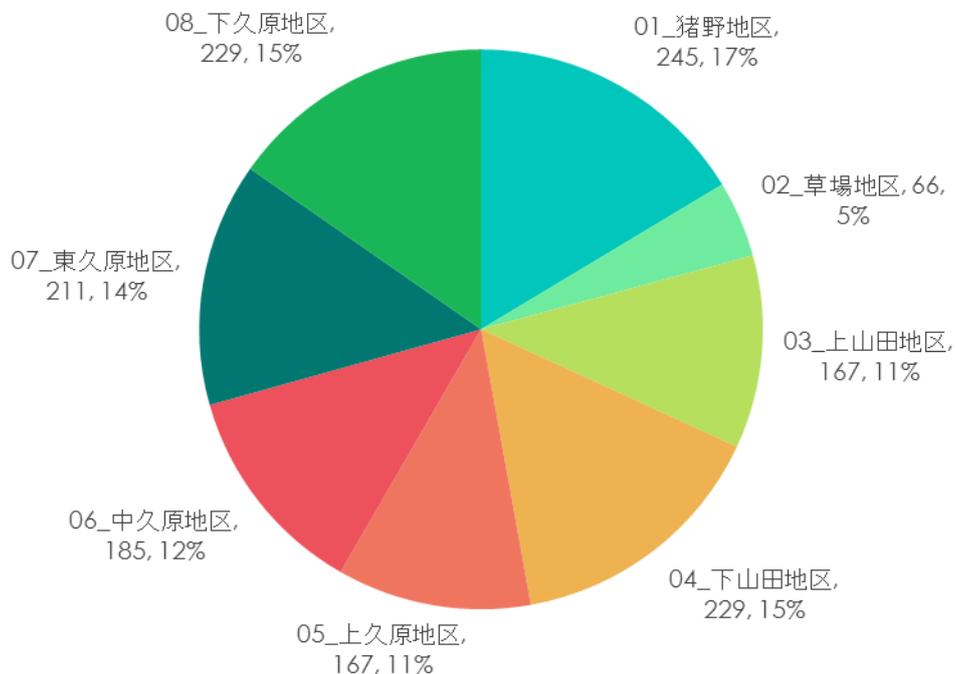


図 II-1 【Q1】居住地域 (N=1, 499)

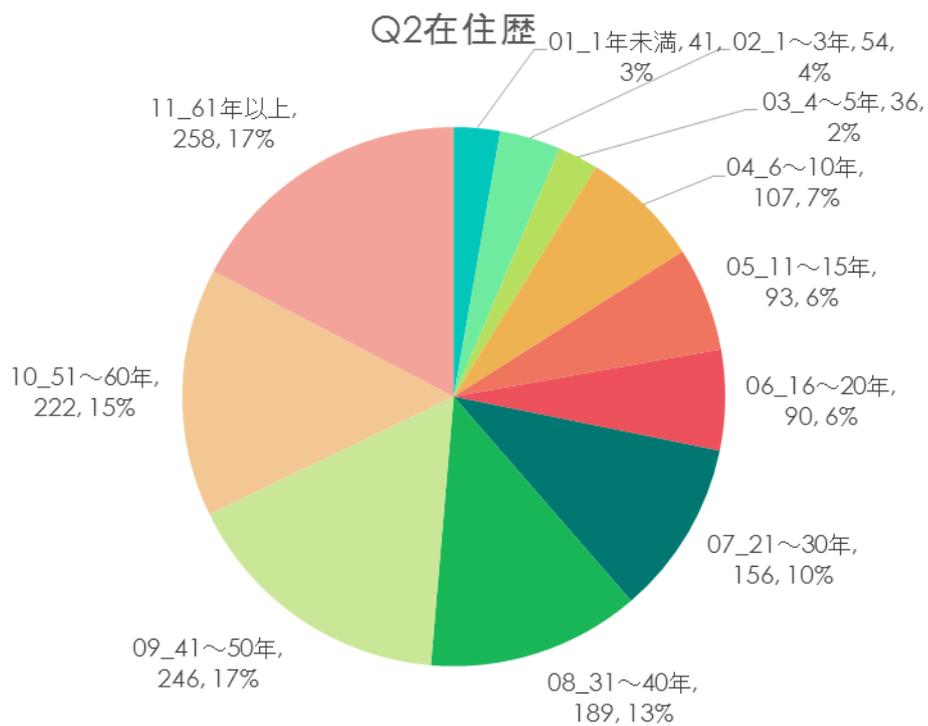


図 II-2 【Q2】 久山町の在住歴 (N=1,492)

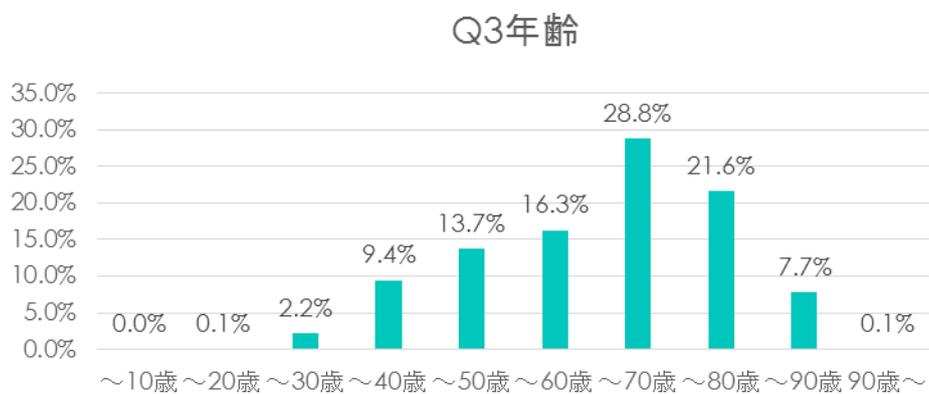


図 II-3 【Q3】 回答者の年齢 (N=1461)

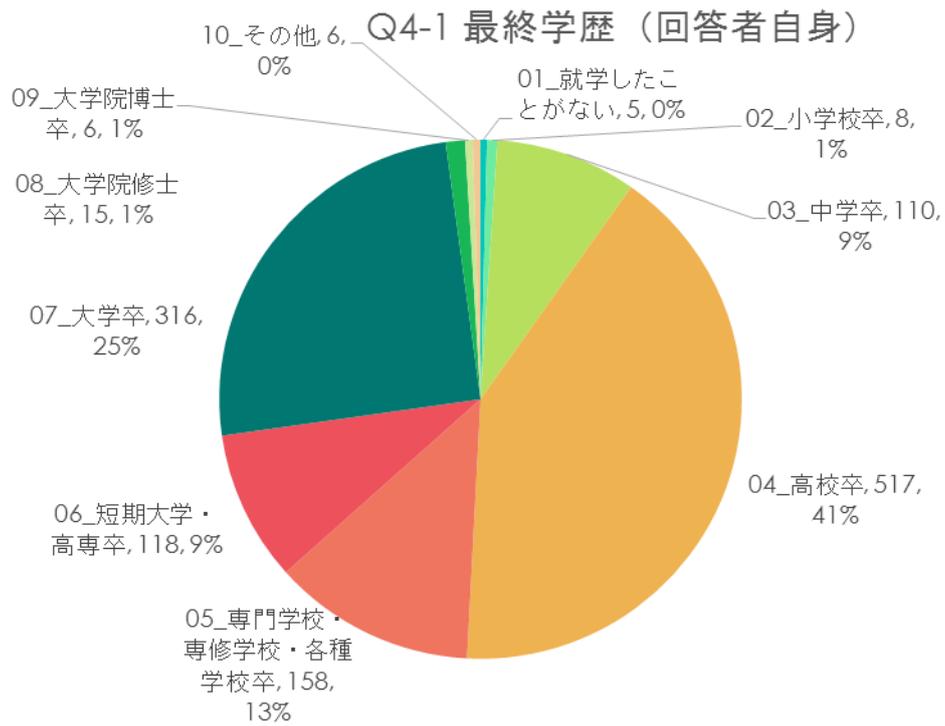


図 II-4 【Q4-1】回答者の最終学歴(N=1,259)

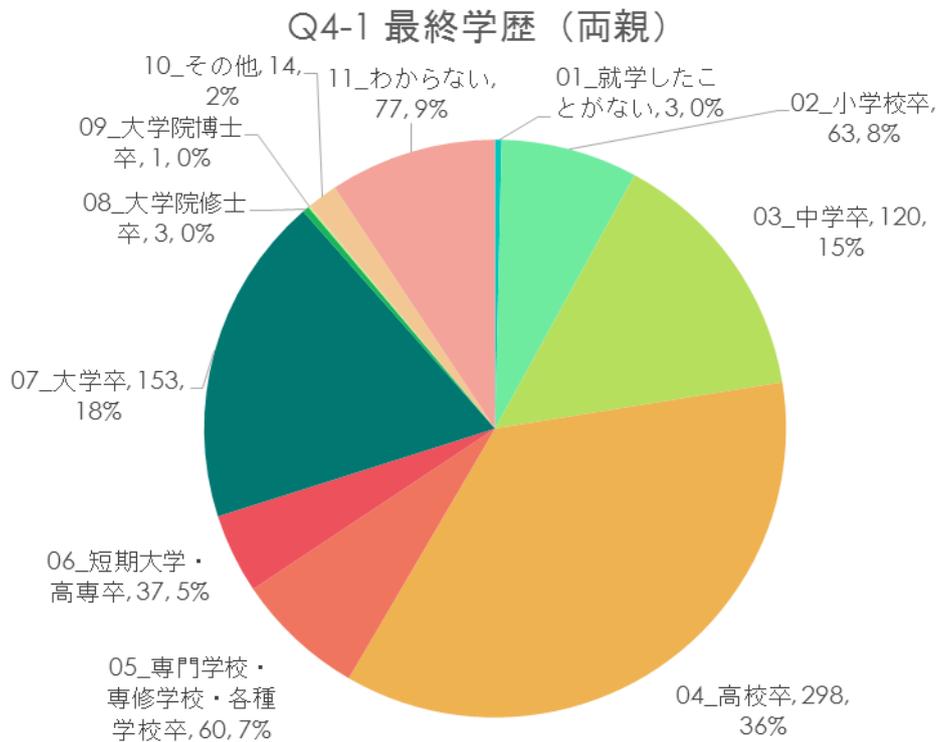


図 II-5 【Q4-2】回答者の両親（保護者等）のうち週学歴が高い人の最終学歴(N=829)

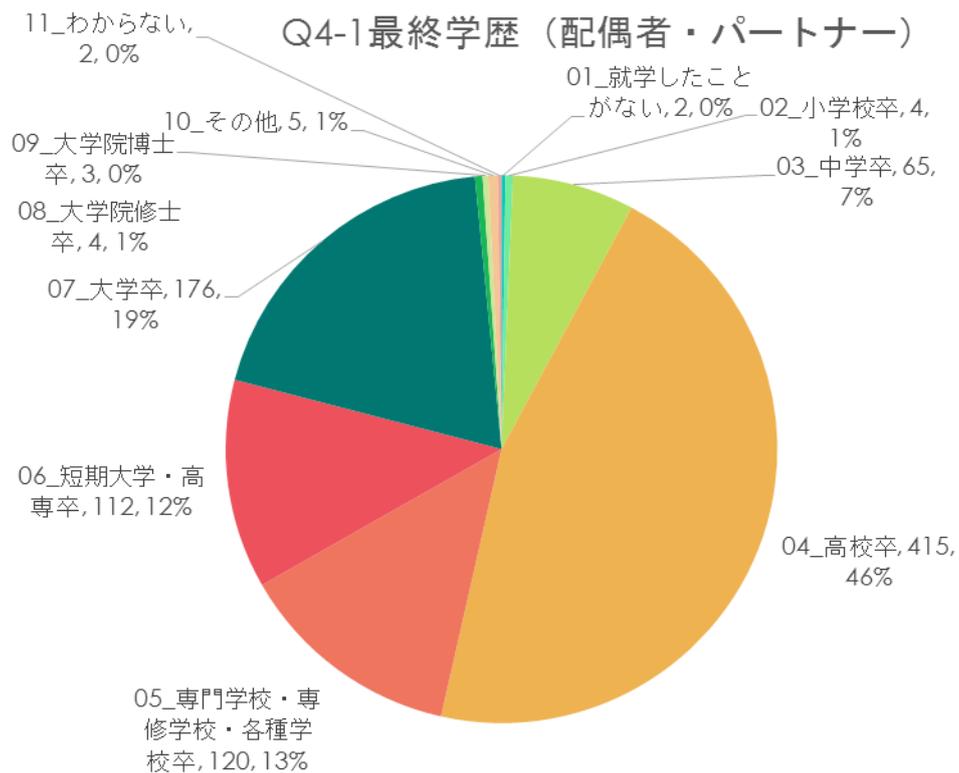


図 II-6 【Q4-3】 配偶者・パートナー（いる場合のみ）最終学歴(N=908)

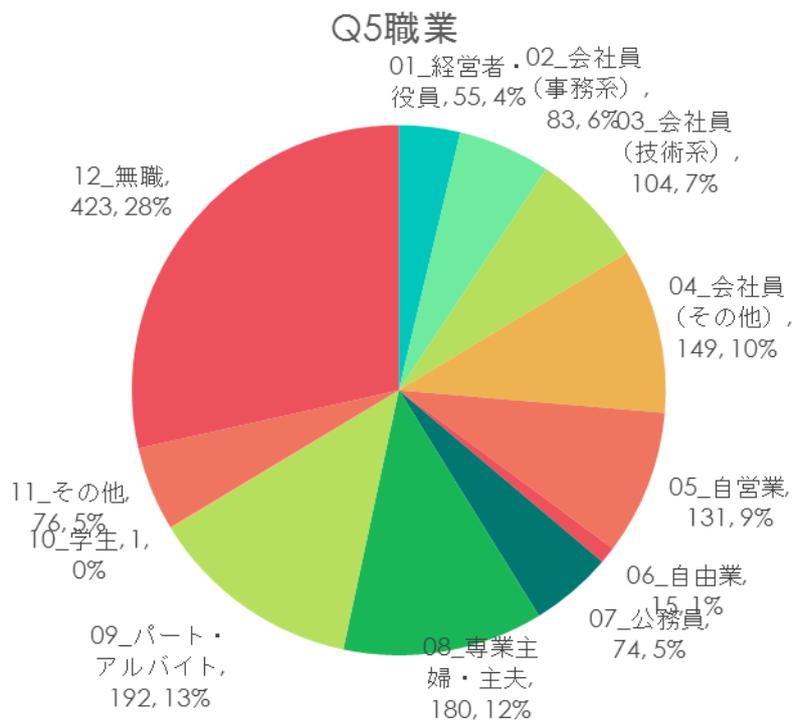


図 II-7 【Q5】 職業(N=1,483)

### Q6業種

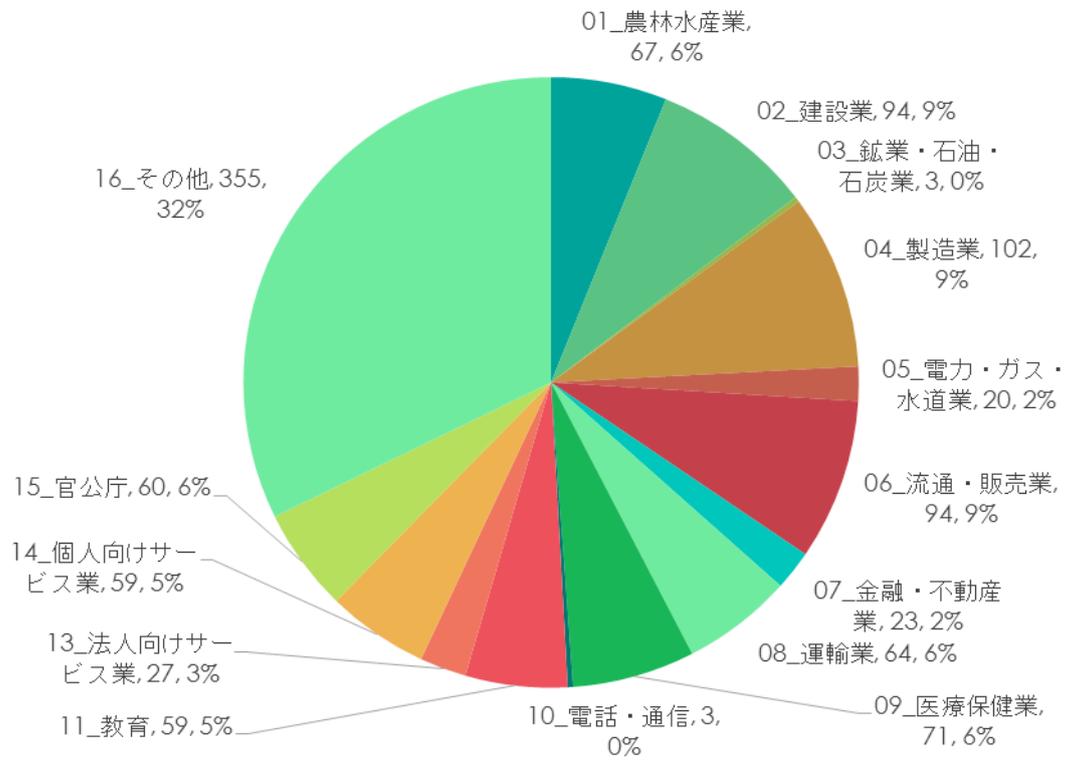


図 II-8 【Q6】業種 (N=1,101)

### Q7配偶者有無

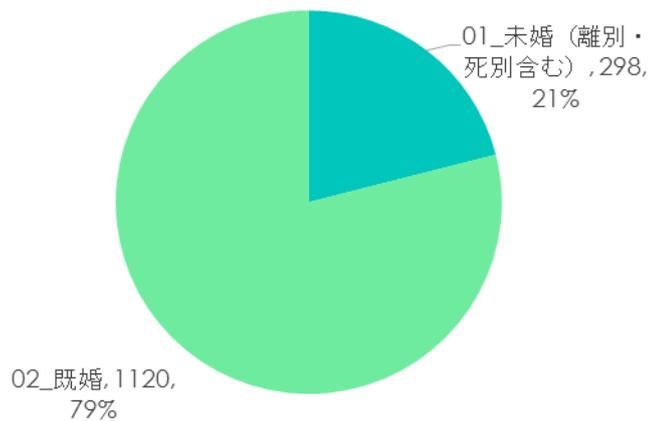


図 II-9 【Q7】配偶者の有無 (N=1,418)

### Q8子供の有無

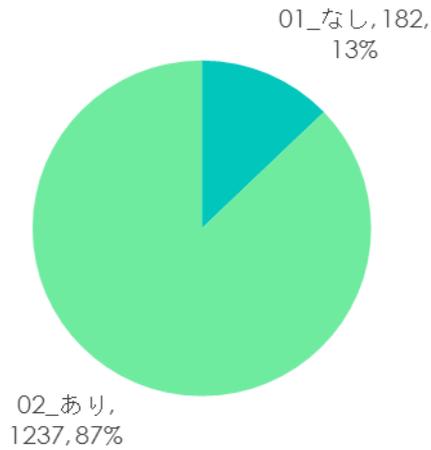


図 II-10 【Q8】子供の有無(N=1,419)

### Q9回答者の個人年収

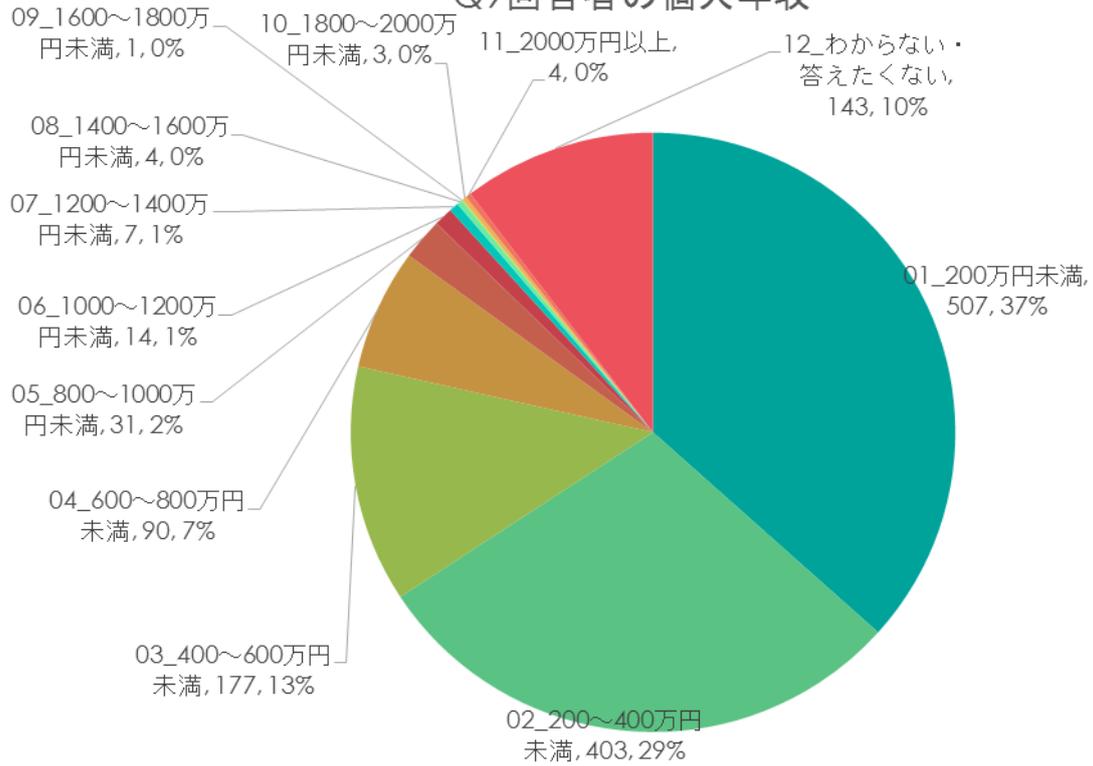


図 II-11 【Q9】回答者の個人年収(N=1,384)

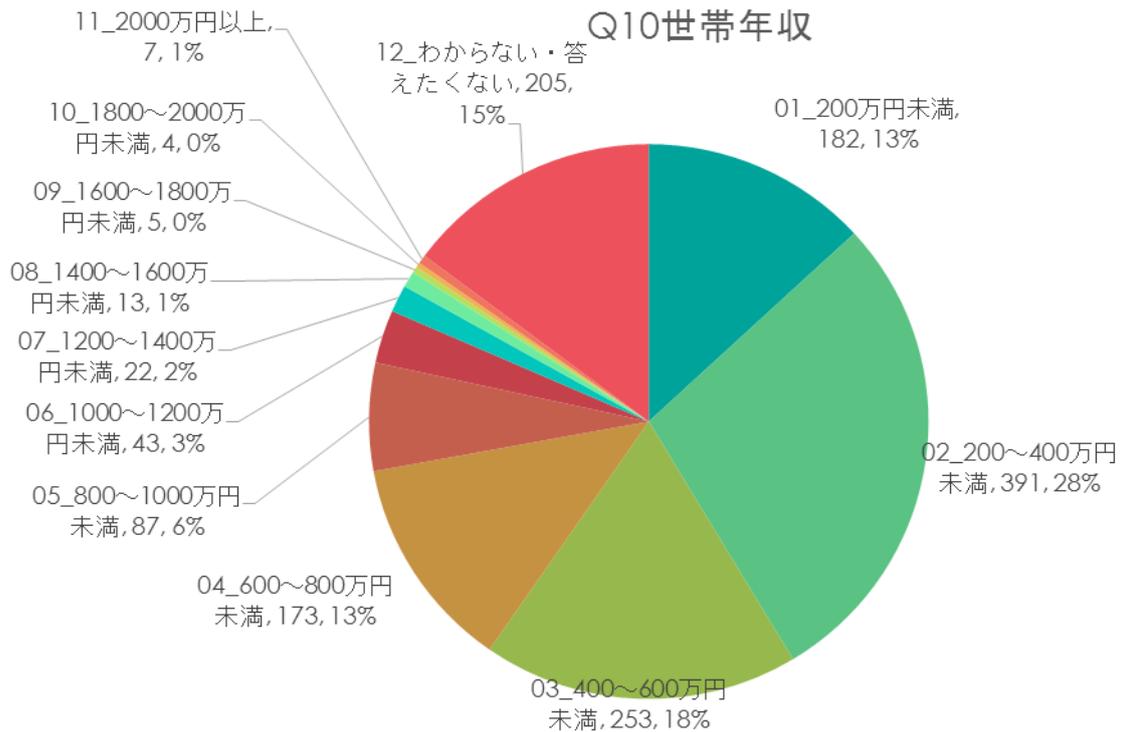


図 II-12 【Q10】回答者の世帯年収 (N=1, 3859)



図 II-13 【Q11】世帯資産（現金・貴金属・預貯金・土地・株式・公社債・保険・不動産含む）(N=163)



図 II-14 【Q12】世帯で負担しているローンや借金の総額 (N=621)

### Q13ボランティア参加経験の有無

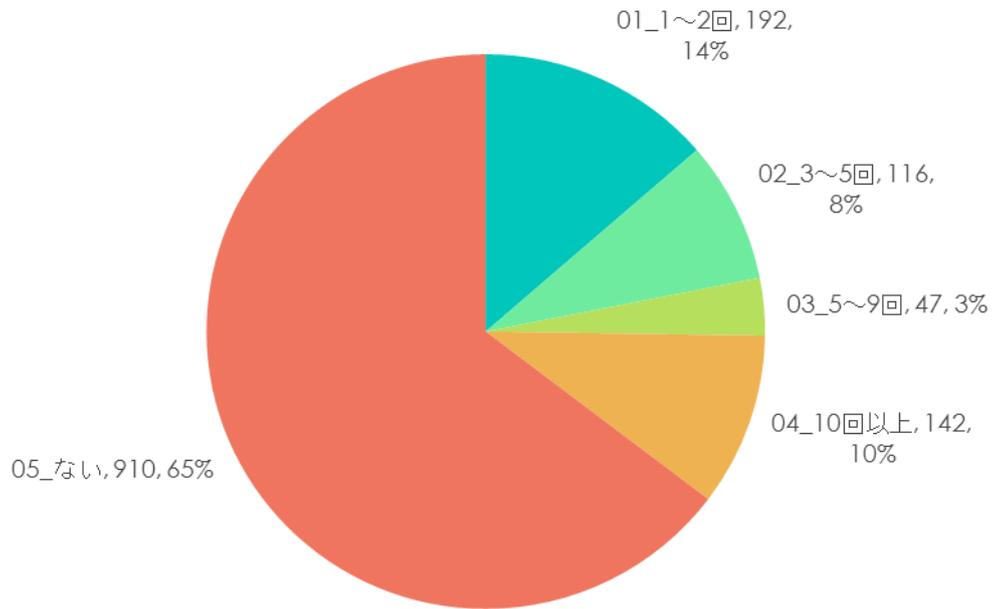


図 II-15 【Q13】 昨年一年間のボランティア参加経験の有無 (N=1,407)

### Q14

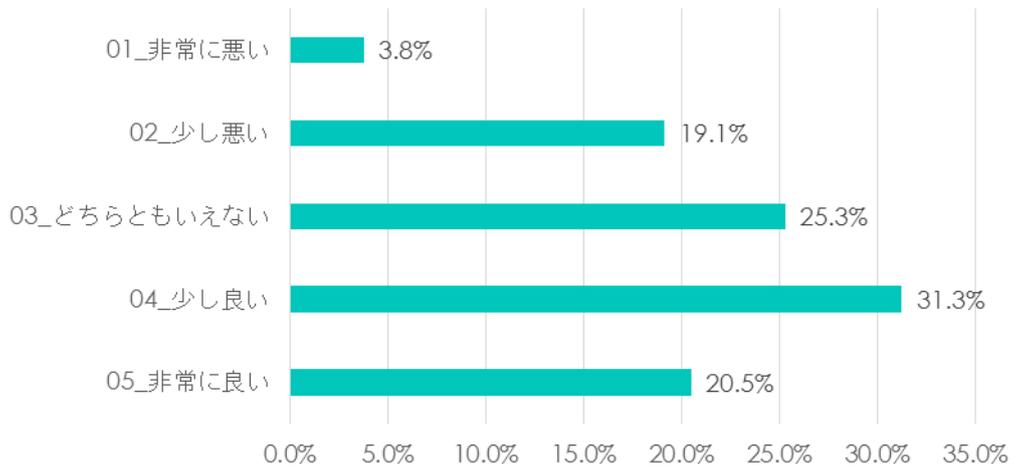


図 II-16 【Q14】 現在の健康状態

# Q16

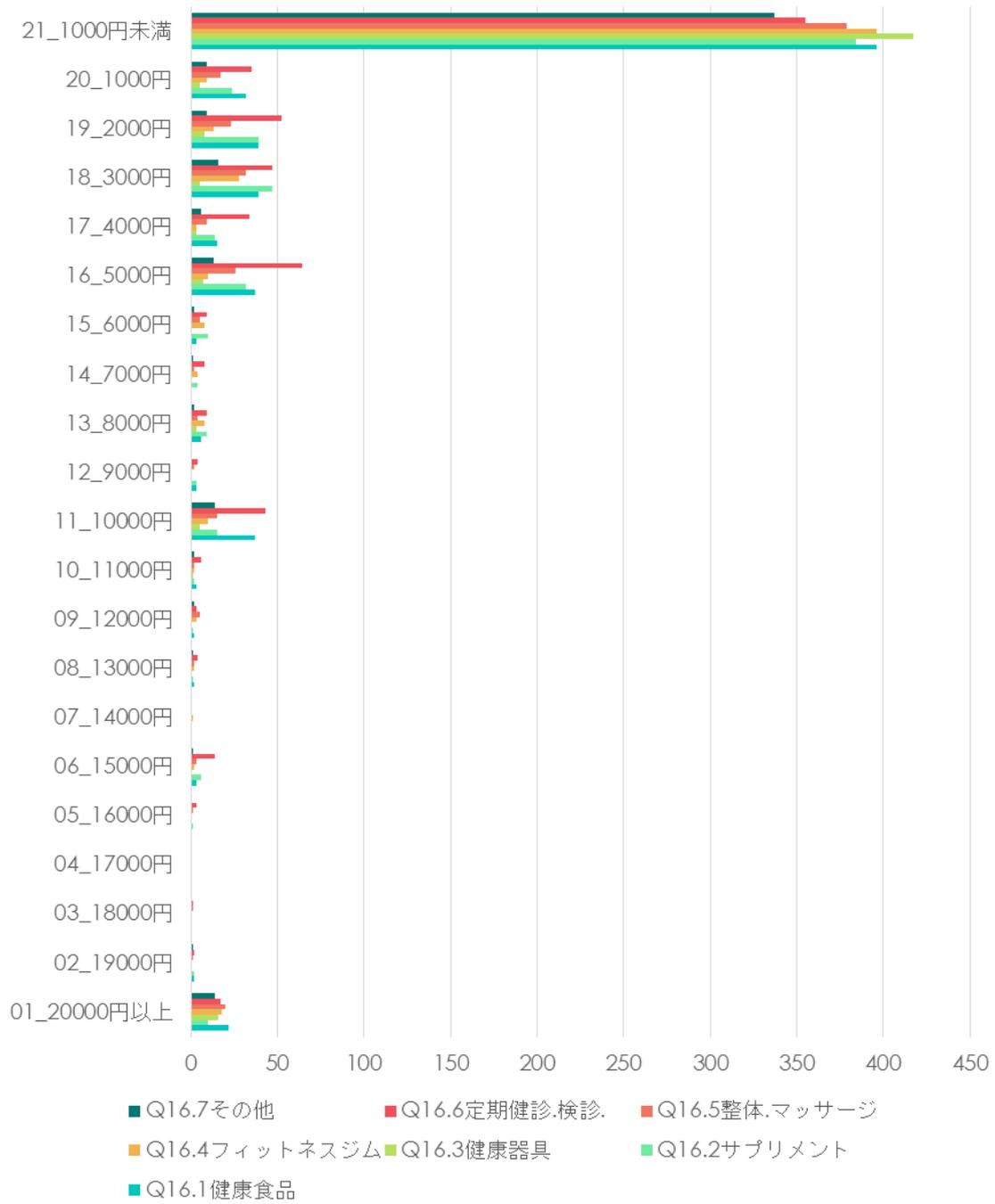


図 II-17 【Q16】 健康維持のために一カ月あたりかける費用

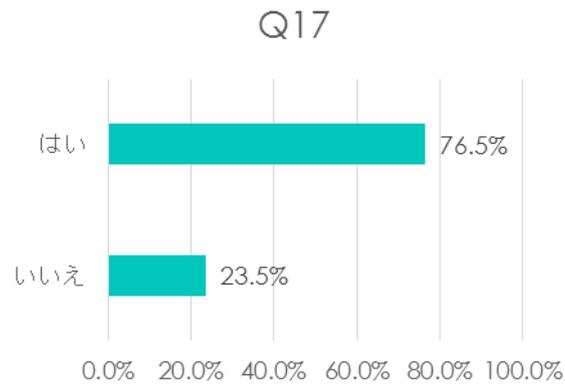


図 II-18 【Q17】 今年度の久山町の健診受診有無 (N=1487)

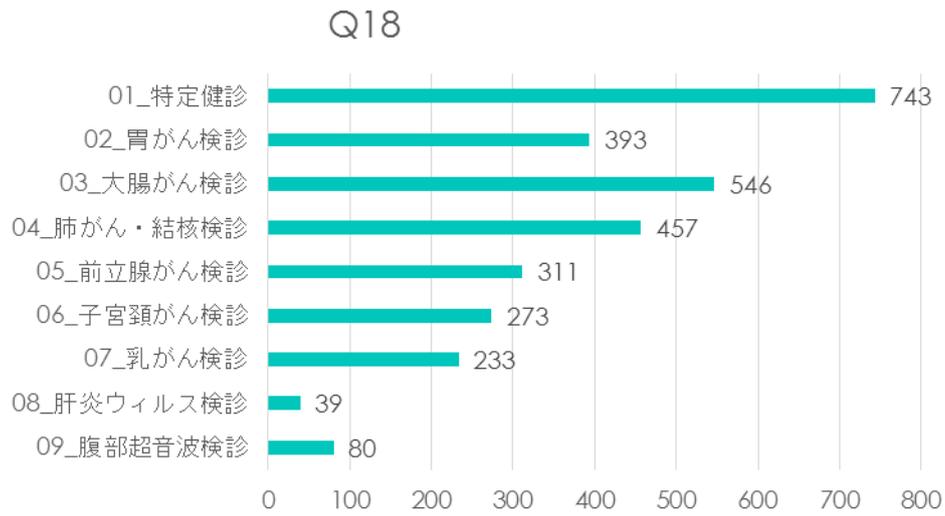


図 II-19 【Q18】 (【Q17】で「はい」と答えた方のみ) 受けた健診の種類(複数回答)

### Q19

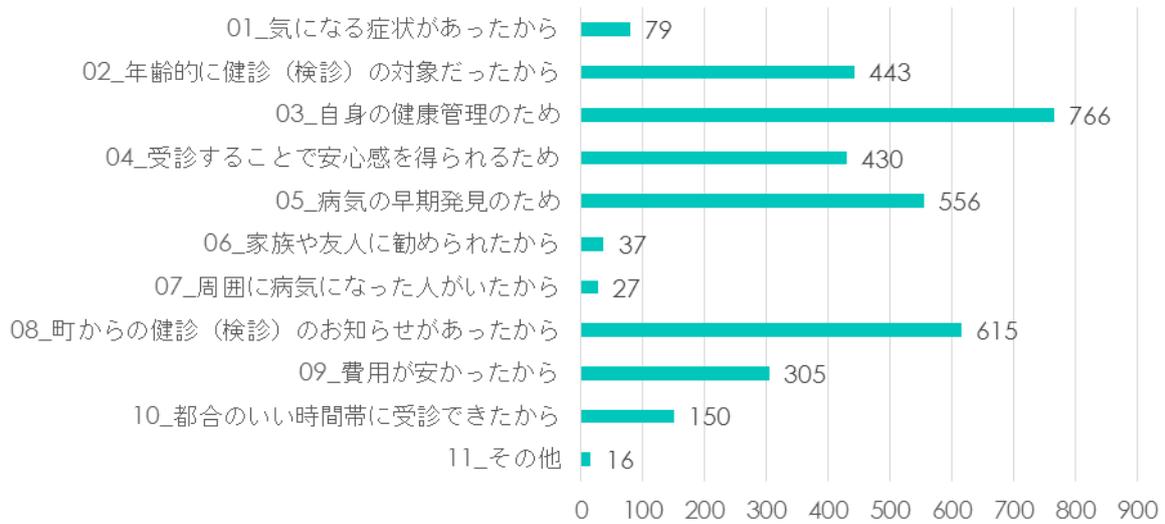


図 II-20 【Q19】(【Q17】で「はい」と答えた方のみ) 健診を受けた理由

### Q20

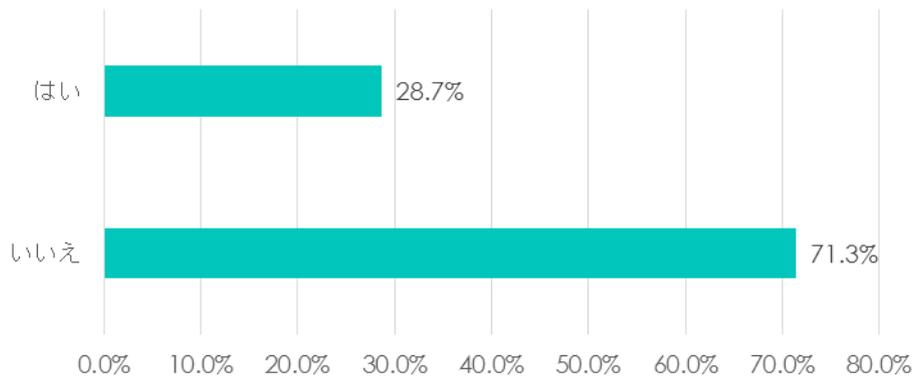


図 II-21 【Q20】(【Q17】で「はい」と答えた方のみ) 健診による病気発見の有無 (N=1071)

## Q21

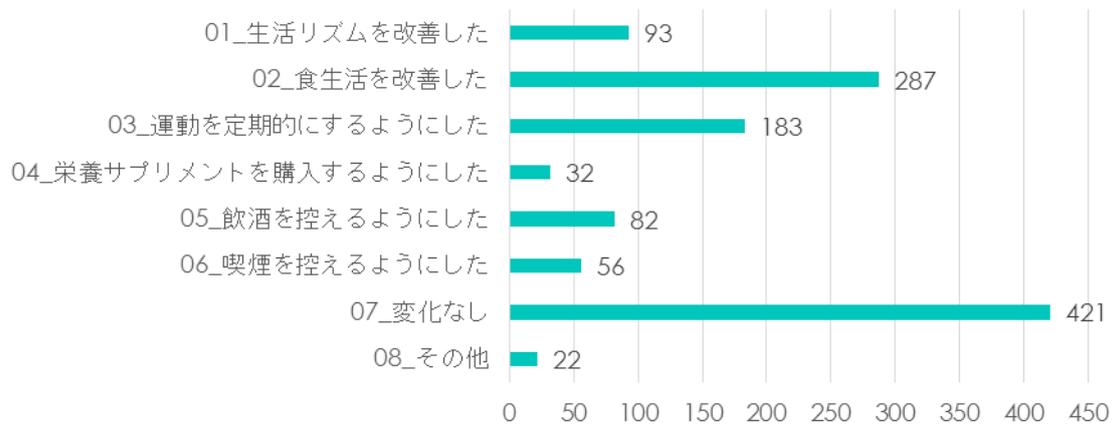


図 II-22 【Q21】（【Q17】で「はい」と答えた方のみ）健診結果による生活の変化

## Q22



図 II-23 【Q22】（【Q17】で「いいえ」と答えた方のみ）健診を受けなかった理由

### Q23

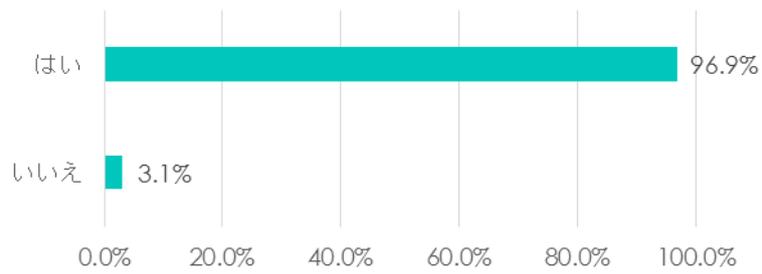


図 II-24 【Q23】 健診が病気発見・早期治療・生活習慣改善に役立つと思うか(N=1399)

### Q25

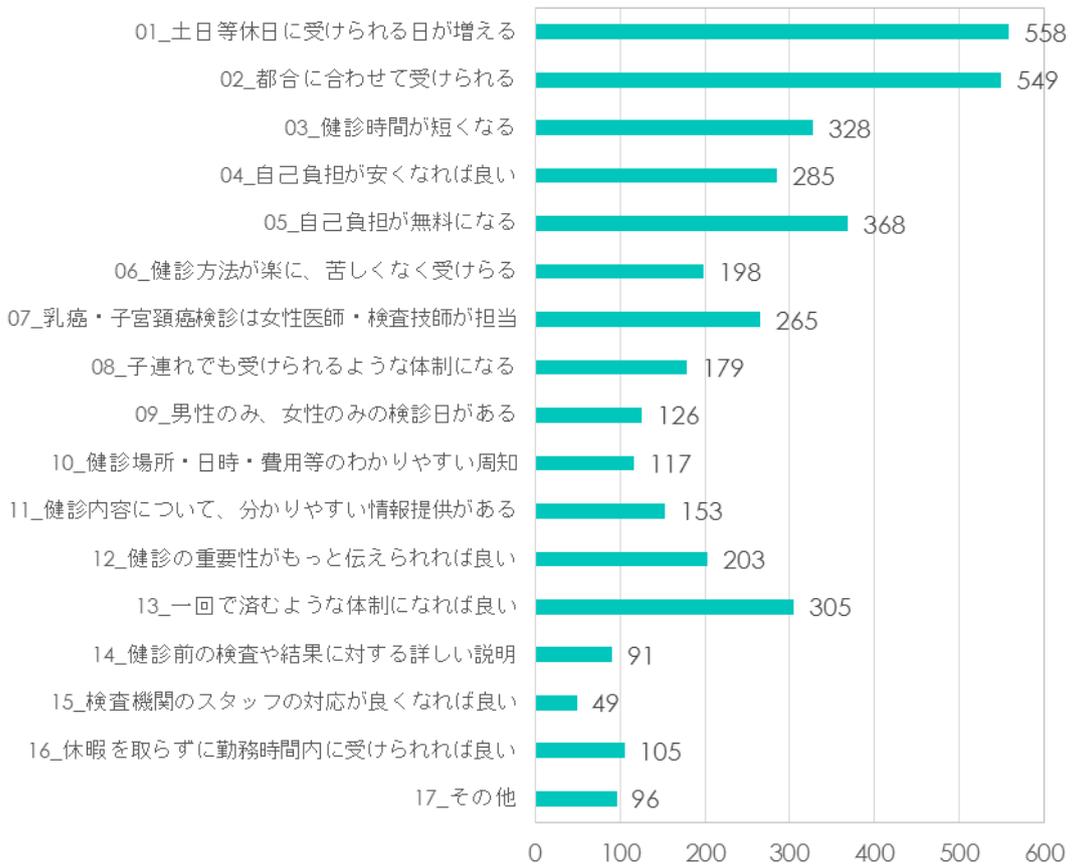


図 II-25 【Q25】 より多くの人が健診を受けるためにどうすれば良いと思うか

### Q26

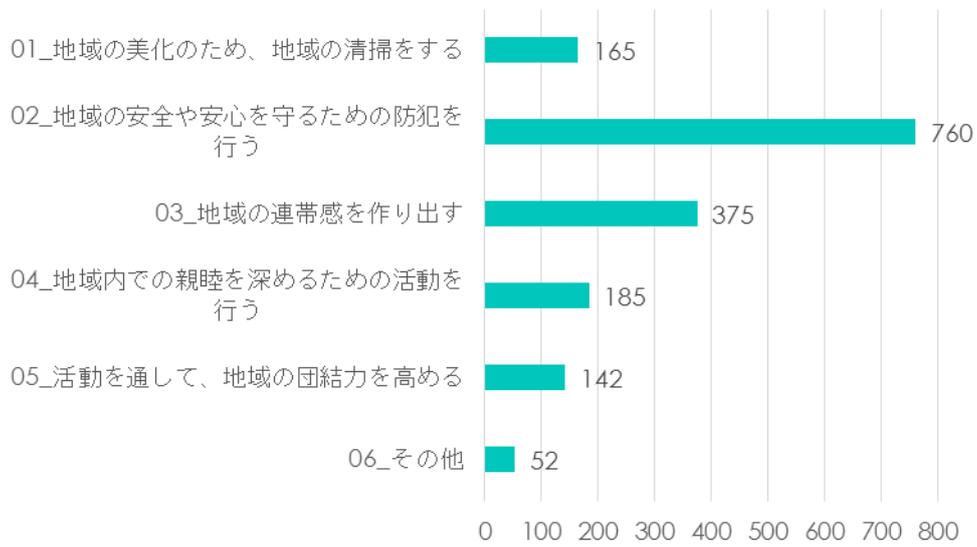


図 II-26 【Q26】子育て環境を作るうえで重要だと思う機能

### Q30

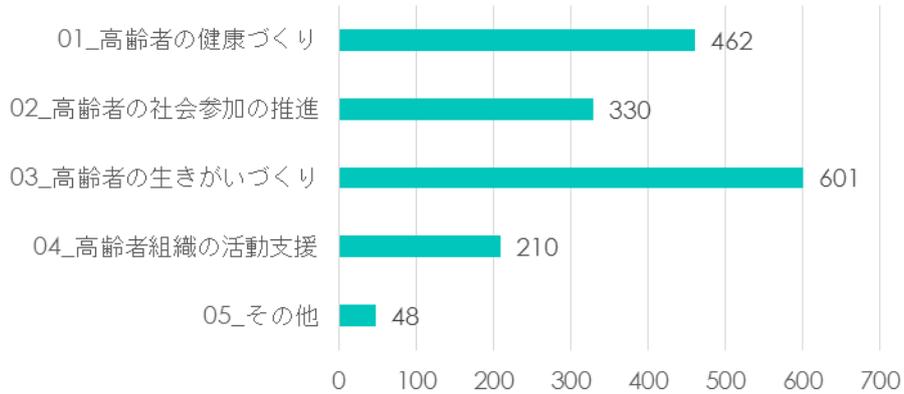


図 II-27 【Q30】高齢者が活躍する町を作るために重要だと思う機能

### Q32

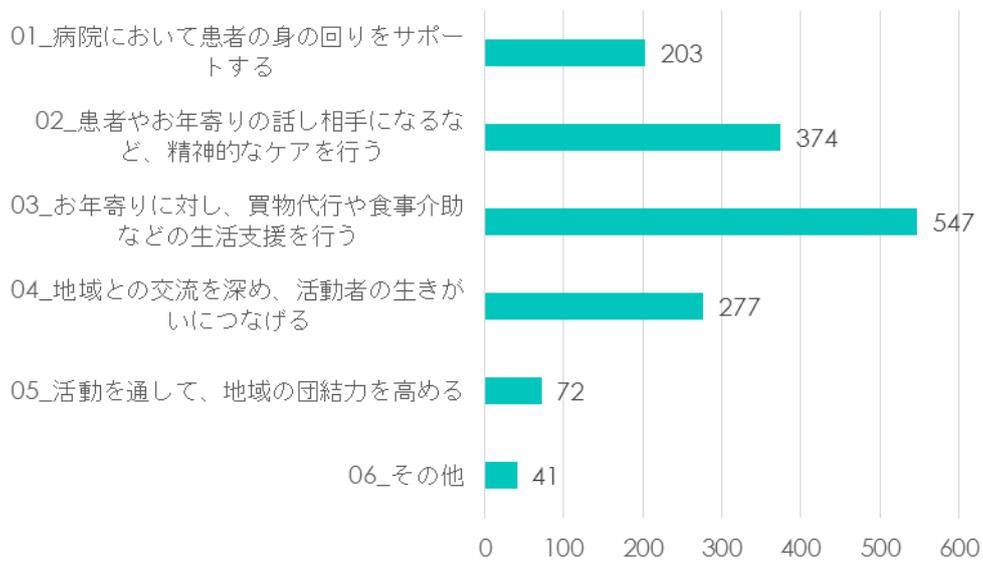


図 II-28 【Q32】 医療・福祉ボランティアについて重要だと思う機能

### Q34

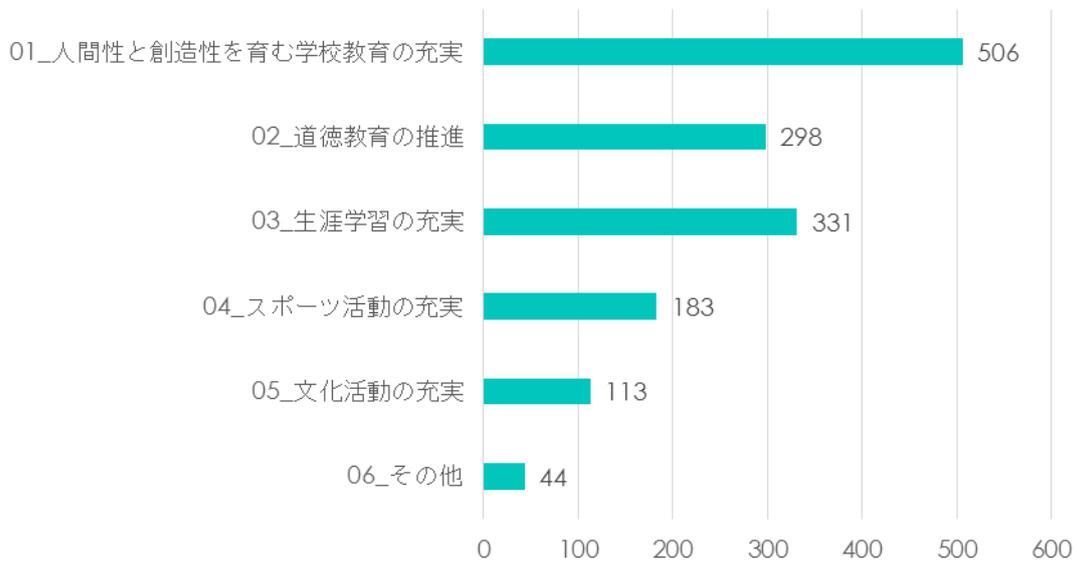


図 II-29 【Q34】 教育・スポーツ・文化活動について重要だと思う機能

### Q38

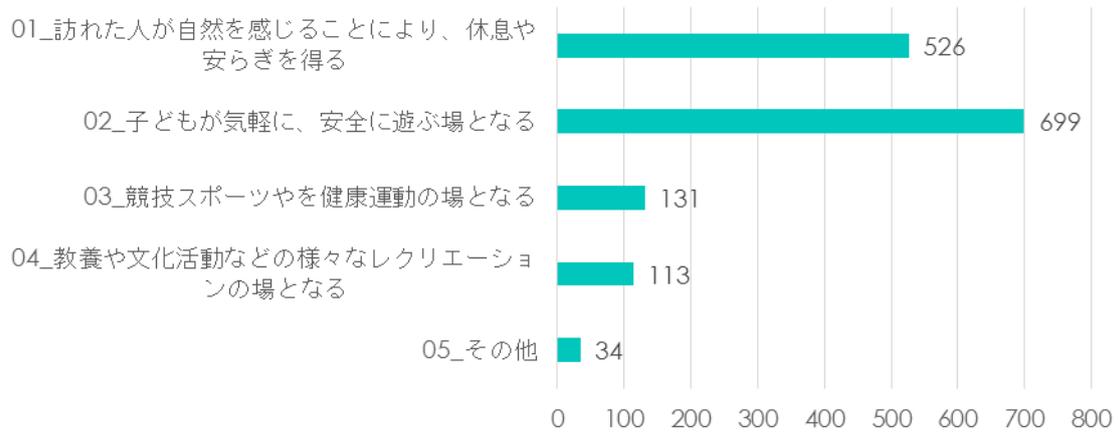


図 II-30 【Q38】公園・緑地について重要だと思う機能

### Q40

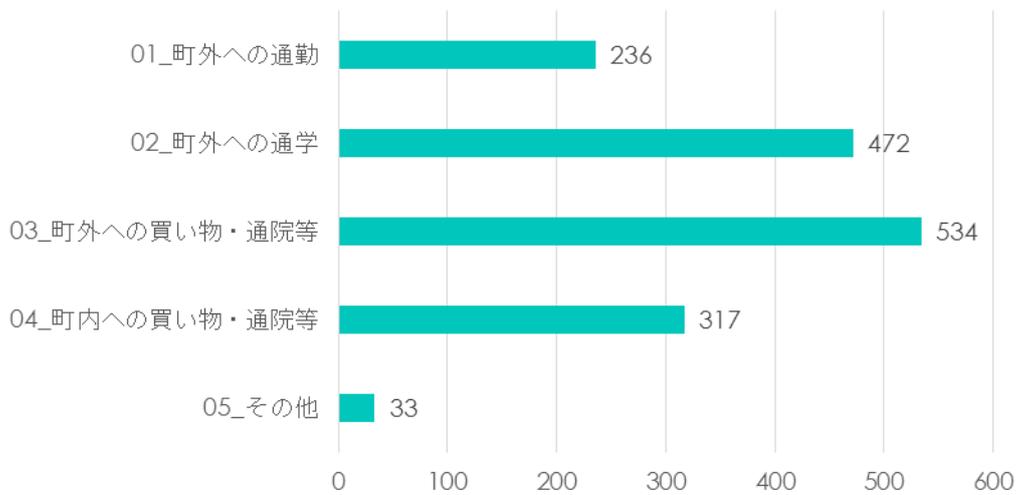


図 II-31 【Q40】地域の公共交通について重要だと思う機能

### Q42

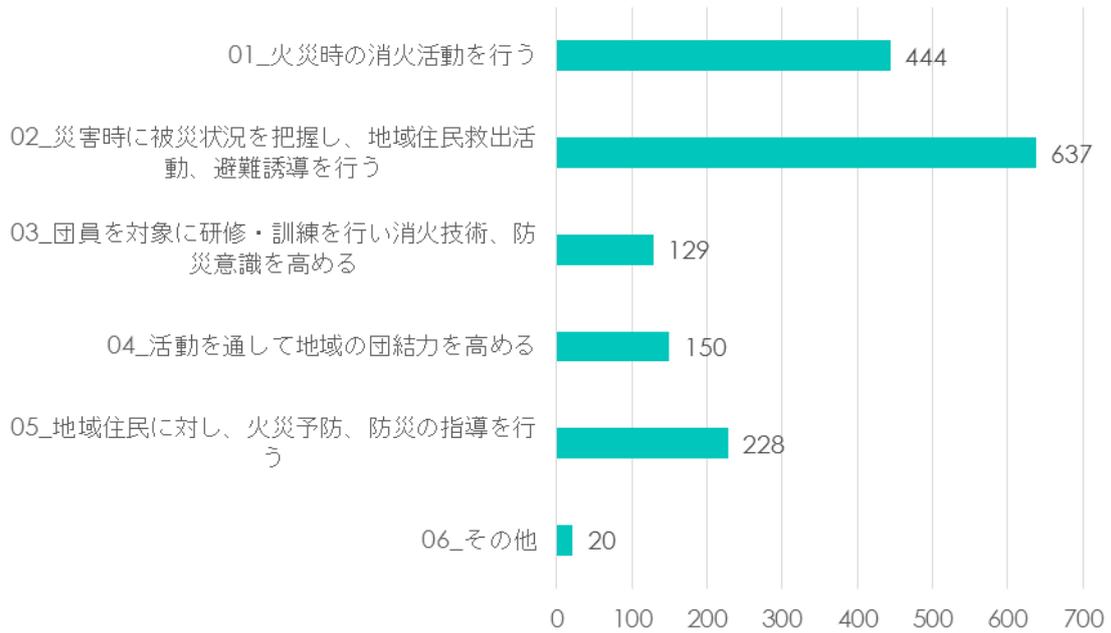


図 II-32 【Q42】 消防団について重要だと思う機能

### Q44

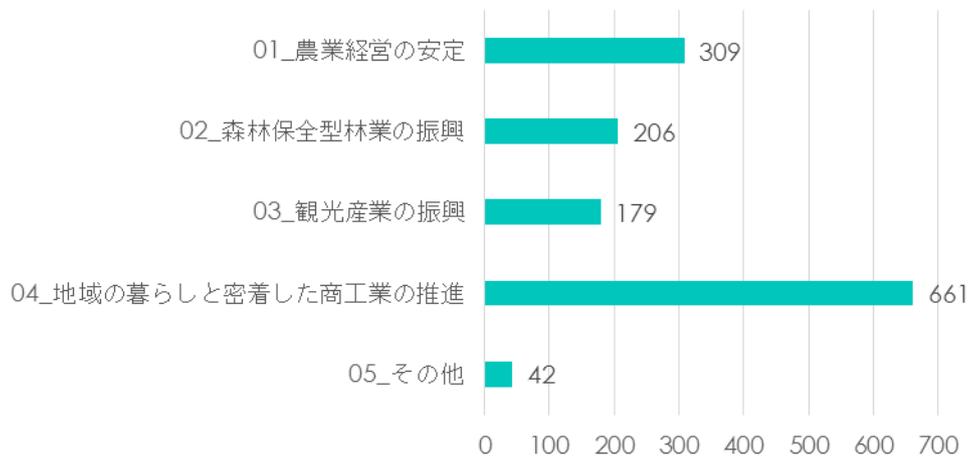


図 II-33 【Q44】 産業振興について重要だと思う機能



表 II-6 各支払意思額に関する質問回答結果

設問文	選択肢												NA	総計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			
健診の受診	167	26	13	8	17	358	21	229	142	111	242	209	1543	
久山町子育て支援センター（木子里）の開所日が半分に減少	68	3	2	1	17	121	5	105	108	193	510	410	1543	
保育所入所定員人数が1割減少	88	6	4	3	18	136	7	120	95	175	467	424	1543	
居住地区の学童保育所施設の閉鎖	90	6	6	2	20	144	8	117	97	185	451	417	1543	
シルバー人材センターの閉鎖	70	7	6	1	16	113	11	112	98	209	532	368	1543	
医療福祉ボランティア員の一人の減少	100	8	9	3	14	151	5	138	126	214	421	354	1543	
スポーツや文化活動実施施設の半分の減少	64	5	3	3	15	119	6	151	117	221	487	352	1543	
英語学習教育（グローバル人材育成事業）の開講日が半分に減少	56	7	7	3	23	117	4	124	91	228	502	381	1543	
高校生大学生を対象とした、海外語学留学支援地域の公園緑地が一つ減少	57	4	6	2	14	99	5	107	89	217	556	387	1543	
地域のバス運行本数が半分に減少	58	5	6		16	106	6	122	127	242	483	372	1543	
地域の消防団がなくなる	60	6	7	1	18	137	6	134	126	269	424	355	1543	
商工会に対する補助金がなくなる	77	1	8	7	20	139	9	135	160	244	412	331	1543	
耕作放棄地1haの損失負担	36	2	4	1	15	79	7	103	118	241	557	380	1543	
耕作放棄地1haの再利用（ソーラーパネル）	30	2	1	1	12	69	4	67	88	216	662	391	1543	
耕作放棄地1haの再利用（共同農地）	42	5	3	5	9	58	4	62	55	140	344	816	1543	
耕作放棄地1haの再利用（植林）	31	2	2	2	5	53	8	60	66	147	341	826	1543	
耕作放棄地1haの再利用（共同駐車場）	23		2	1	7	38	5	36	49	145	351	886	1543	
久山町のPRポスターやPR動画の作成	19	1		2	3	32	3	24	32	138	403	886	1543	
久山町のPRポスターやPR動画の作成	22		3	2	4	49	5	76	81	258	670	373	1543	

### 添付資料 3.1. 各環境指標の重要性の認識に関する集計結果

表 III-1 各環境指標の重要性の認識に関するアンケート結果<sup>25</sup>

指標	回答者数	ある 大変重要で 重要である	どちらとも いえない	重要でない	全く重要でない	わからない
地球温暖化に関する取組						
温室効果ガスの排出量及び吸収量	1,230	14.1%	44.1%	24.8%	4.1%	10.1%
国の機関の排出削減状況	1,230	12.4%	43.0%	26.7%	4.2%	10.8%
中長期目標を定量的に掲げている地方公共団体実行計画の策定割合	1,230	10.1%	38.0%	31.5%	4.6%	13.1%
代替フロン回収量	1,230	11.0%	38.8%	30.7%	4.0%	13.9%
生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組①生物多様性への理解・配慮の向上に関わる指標						
生物多様性の言葉の認知度	1,230	8.2%	33.2%	35.0%	5.6%	15.9%
生物多様性国家戦略の認知度	1,230	7.9%	31.3%	37.0%	5.5%	15.9%
生物多様性自治体ネットワークへの参加自治体数	1,230	7.6%	28.5%	38.6%	7.0%	15.7%
生物多様性民間参画パートナーシップへの参加団体数	1,230	6.8%	26.9%	39.9%	7.2%	16.3%
エコロジカルネットワーク形成等に配慮した「緑の基本計画」の策定済み自治体数	1,230	7.6%	32.0%	36.2%	6.1%	15.9%
都市の緑地管理における管理協定面積	1,230	8.8%	32.6%	37.5%	4.7%	14.3%
都市における緑地協定面積	1,230	9.1%	34.1%	35.9%	4.9%	14.1%
都市における緑地協定締結件数	1,230	7.9%	31.4%	37.7%	6.2%	14.6%
都市における緑地管理機構	1,230	7.8%	29.8%	39.8%	6.2%	14.6%
都市における田園自然環境の創造に着手した地域数	1,230	7.7%	29.9%	38.2%	6.4%	15.0%
生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組②持続可能な利用の促進に関わる指標						
木材自給率	1,230	11.5%	34.6%	33.5%	5.6%	13.0%

<sup>25</sup> アンケートで用いた指標は第4次環境基本計画の統合的環境指標に関する非公表資料より抽出したものであり、本文中に記載している「総合的環境指標のデータ集」とは若干異なる。

指標	回答者数	ある 大変重要で	重要である	どちらとも いえない	重要でない	全く重要でない	わからない
都道府県によるエコファーマー累積新規認定件数	1,230	9.2%	33.9%	35.8%	5.1%	1.8%	14.2%
市町村によるバイオマス活用推進計画の策定数	1,230	9.1%	34.6%	34.6%	5.6%	1.7%	14.4%
森林経営計画の策定面積	1,230	10.4%	35.6%	33.3%	4.8%	1.6%	14.2%
生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組③生物多様性の保全・再生に関わる指標							
自然公園面積（国立公園、国定公園、都道府県立自然公園）	1,230	9.8%	38.9%	33.5%	4.9%	1.4%	11.5%
都市域における水と緑の面的な確保状況を示す指標（都市域における水と緑の公的空間確保量）	1,230	9.3%	38.1%	33.5%	4.5%	1.3%	13.3%
海洋保護区面積（自然公園、自然環境保全地域、保護水面、共同漁業権区域、指定海域等）	1,230	11.0%	36.6%	33.2%	4.5%	1.5%	13.3%
生物多様性の保護増殖事業計画の策定	1,230	8.4%	33.5%	36.7%	4.6%	1.7%	15.0%
国内希少野生動植物種の指定数	1,230	10.2%	34.9%	34.7%	5.9%	1.3%	13.0%
特定外来生物及び要注意外来生物の指定等種類数並びに外来生物法に基づく防除の実施件数	1,230	15.2%	34.6%	31.5%	4.6%	1.2%	12.9%
過去の開発等により失われた干潟のうち復元・再生した割合	1,230	10.2%	31.5%	37.1%	6.0%	2.0%	13.3%
特に重要な水系における湿地の再生の割合	1,230	11.5%	33.0%	35.0%	4.9%	1.7%	13.9%
絶滅のおそれのある種数の割合・脊椎動物	1,230	12.1%	32.1%	35.3%	5.9%	1.7%	12.9%
絶滅のおそれのある種数の割合・昆虫	1,230	11.4%	32.1%	35.4%	6.1%	2.2%	12.8%
絶滅のおそれのある種数の割合・維管束植物	1,230	11.6%	31.9%	35.3%	6.0%	2.3%	12.9%
森林面積	1,230	14.9%	40.6%	28.2%	3.5%	1.4%	11.5%
育成単層林の面積	1,230	10.2%	34.6%	35.3%	4.1%	1.5%	14.4%
育成複層林の面積	1,230	11.1%	35.7%	34.2%	3.7%	1.3%	14.1%
天然生林の面積	1,230	14.1%	36.6%	31.1%	4.3%	1.3%	12.7%
保安林面積	1,230	14.5%	35.5%	31.2%	3.8%	1.6%	13.3%
国有林の保護林面積	1,230	11.1%	37.2%	33.1%	4.3%	1.5%	12.8%
都道府県による希少種保護条例の制定数（累積施行数）	1,230	9.6%	31.1%	38.3%	5.4%	1.6%	14.1%

指標	回答者数	ある 大変重要で 重要である	どちらとも いえない	重要でない	全く重要で ない	わからない
都道府県の条例に基づく指定希少野生動植物種の指定数	1,230	9.3%	30.8%	38.2%	6.0%	14.0%
生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する取組④情報整備、参加型計画立案等の強化に関わる指標						
植生図整備率	1,230	8.0%	29.1%	39.7%	4.7%	16.7%
生物多様性地域戦略の策定自治体数	1,230	7.6%	27.2%	41.8%	5.4%	16.4%
物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組						
資源生産性	1,230	9.7%	36.8%	33.8%	3.8%	15.0%
循環利用率	1,230	12.8%	36.0%	33.5%	3.2%	13.6%
ごみの最終処分量	1,230	18.0%	40.8%	27.8%	3.4%	9.1%
1人1日当たりのごみ排出量	1,230	16.3%	45.0%	25.2%	3.3%	8.9%
1人1日当たりに家庭から排出されるごみの量	1,230	17.3%	42.5%	26.8%	3.3%	8.6%
事業系ごみの総量	1,230	18.0%	41.7%	27.2%	2.7%	9.3%
水環境保全に関する取組						
公共用水域の水質汚濁に係る環境基準達成率	1,230	17.5%	40.9%	26.5%	2.9%	11.0%
大気環境保全に関する取組						
環境基準達成率・微小粒子状物質（PM2.5）	1,230	16.2%	37.2%	29.2%	2.8%	13.6%
環境基準達成率・光化学オキシダント	1,230	15.3%	38.8%	28.5%	2.5%	13.4%
環境基準達成率・二酸化窒素	1,230	14.6%	38.4%	29.6%	2.8%	13.6%
環境基準達成率・浮遊粒子状物質	1,230	15.0%	36.7%	29.8%	3.0%	14.6%
幹線道路を中心とする沿道地域の自動車騒音に係る環境基準の達成状況	1,230	11.0%	35.9%	34.2%	3.8%	13.7%
新幹線鉄道騒音に係る環境基準の達成状況	1,230	9.2%	32.4%	38.1%	5.2%	13.2%
航空機騒音に関する環境基準の達成状況	1,230	9.7%	33.1%	36.9%	5.8%	12.8%
省エネルギー機器、住宅・建築物、低公害車等の普及率						

指標	回答者数	ある 大変重要で	重要である	どちらとも いえない	重要でない	全く重要でない	わからない
省エネ機器の普及率	1,230	12.8%	38.0%	32.4%	4.4%	1.5%	10.8%
新築建築物の省エネ基準適合率	1,230	11.5%	36.1%	34.8%	4.5%	1.4%	11.8%
低公害車の保有台数	1,230	11.7%	35.6%	35.4%	4.9%	1.5%	10.9%
都市域における水と緑の面的な確保状況を示す指標（都市域における水と緑の公的空間確保量）	1,230	11.7%	34.4%	36.1%	4.0%	1.1%	12.7%
包括的な化学物質対策の確立と推進のための取組							
水質についての PCB 類（総量）の検出状況	1,230	17.6%	37.5%	27.7%	2.1%	1.1%	14.0%
PRTR 制度の対象物質の排出量及び移動量	1,230	12.3%	31.7%	33.7%	2.5%	0.7%	19.1%
化学物質審査規制法に基づくスクリーニング評価及びリスク評価の実施状況	1,230	12.7%	33.2%	33.0%	2.9%	0.8%	17.4%
環境負荷と経済成長の分離度に係る指標							
環境効率性	1,230	8.6%	35.0%	33.4%	4.5%	0.8%	17.6%
環境と経済との統合的向上に係る指標							
環境分野の市場規模	1,230	8.8%	29.6%	38.2%	4.7%	1.4%	17.3%
グリーン購入実施率・地方公共団体	1,230	7.7%	28.9%	38.5%	5.4%	1.9%	17.7%
グリーン購入実施率・上場企業	1,230	8.5%	28.5%	37.2%	6.5%	1.5%	17.8%
グリーン購入実施率・非上場企業	1,230	6.8%	26.6%	41.1%	5.8%	2.0%	17.8%
グリーン購入実施率・国民	1,230	7.6%	26.5%	39.5%	6.4%	2.3%	17.7%
環境報告書を作成・公表している企業の割合	1,230	7.6%	28.9%	38.4%	6.3%	1.7%	17.2%
環境技術や環境情報の整備状況に係る指標							
環境分野の特許登録件数	1,230	6.5%	29.6%	38.2%	6.2%	2.0%	17.6%
環境情報に関する国民の満足度	1,230	8.2%	32.0%	37.3%	4.7%	1.8%	15.9%
日本と世界の環境面での相互依存性に係る指標							
エコロジカル・フットプリント	1,230	8.5%	31.4%	36.2%	4.6%	1.5%	17.9%

指標	回答者数	ある 大変重要で	重要である	どちらとも いえない	重要でない	全く重要でない	わからない
食料自給率	1,230	26.3%	35.4%	24.5%	3.6%	1.1%	9.1%
木材自給率	1,230	16.5%	35.4%	31.8%	4.2%	1.1%	11.0%
エネルギー自給率	1,230	23.9%	35.2%	26.4%	3.6%	1.0%	9.9%
日本の環境面での国際貢献度に係る指標							
環境分野に関する ODA 拠出	1,230	8.3%	30.4%	37.3%	5.4%	2.5%	16.0%
国際に関連した環境活動を行っている自治体数	1,230	7.6%	29.1%	39.3%	5.8%	2.5%	15.8%
持続可能な社会を支える自然資本に係る指標							
藻場面積	1,230	9.0%	28.9%	37.8%	5.0%	1.6%	17.6%
干潟面積	1,230	9.2%	29.5%	38.3%	4.4%	1.6%	17.0%
持続可能な社会を支える人工資本に係る指標							
再生可能エネルギーの導入量太陽光発電の導入量（累積導入量）	1,230	15.7%	36.2%	31.1%	4.4%	2.0%	10.7%
再生可能エネルギーの導入量風力発電の設備容量	1,230	15.3%	35.8%	33.6%	4.2%	1.0%	10.2%
再生可能エネルギーの導入量水力発電の設備容量	1,230	15.4%	37.0%	32.4%	4.3%	0.9%	10.1%
再生可能エネルギーの導入量地熱発電の設備容量	1,230	17.6%	35.4%	31.9%	3.7%	1.4%	10.2%
持続可能な社会を支える社会関係資本に係る指標							
体験型の環境教育・環境学習に参加した国民の割合	1,230	7.1%	27.5%	40.7%	7.4%	2.9%	14.5%
環境基本条例が策定されている地方公共団体の割合	1,230	6.6%	28.9%	40.0%	5.9%	2.3%	16.3%
環境基本計画等が策定されている地方公共団体の割合	1,230	6.4%	29.4%	39.8%	5.4%	2.4%	16.5%
ISO14001 の登録事業数	1,230	6.1%	24.5%	39.9%	7.2%	2.8%	19.5%
エコアクション 21 の登録事業数	1,230	5.9%	22.5%	40.9%	6.8%	2.4%	21.5%

添付資料 3.2 年代別基本統計量および地域別基本統計量

表 IV-1 10~30 代基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	10,805	3.445	0.997	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	10,805	3.031	0.742	1	5
エコカー割合(2015 年)	10,805	3.085	0.669	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	10,805	2.977	0.735	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	10,805	3.194	0.742	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	10,805	3.038	0.680	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	10,805	3.137	0.684	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	10,805	3.060	0.736	1	5
リサイクル率(2015 年)	10,805	3.080	0.705	1	5
BOD(2015 年)	10,805	3.057	0.695	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	10,805	2.957	0.796	1	5
VOC(2015 年)	10,805	3.004	0.746	1	5
グリーン購入(2015 年)	10,805	3.063	0.660	1	5
年間世帯所得(2015 年)	10,805	6,077,048	4,175,029	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	10,805	3.650	1.026	1	5
治安(2015 年)	10,805	3.020	0.642	1	4

表 IV-2 10~30 代基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	10,805	3.479	0.972	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	10,805	2.917	0.788	1	5
エコカー割合(2016 年)	10,805	2.981	0.739	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	10,805	2.802	0.789	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	10,805	3.161	0.856	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	10,805	2.859	0.728	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	10,805	3.036	0.744	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	10,805	2.852	0.787	1	5
リサイクル率(2016 年)	10,805	2.912	0.752	1	5
BOD(2016 年)	10,805	2.852	0.752	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	10,805	2.667	0.863	1	5
VOC(2016 年)	10,805	2.766	0.803	1	5
グリーン購入(2016 年)	10,805	2.862	0.701	1	5
年間世帯所得(2016 年)	10,805	3,465,386	2,891,128	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	10,805	3.524	1.011	1	5
治安(2016 年)	10,805	2.978	0.615	1	4

表 IV-3 10~30 代基本統計量 (2015 年と 2016 年の差)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	10,805	0.034	0.915	-4	4
再生可能エネルギー割合	10,805	-0.114	0.867	-4	4
エコカー割合	10,805	-0.104	0.854	-4	4
温室効果ガス年間排出量	10,805	-0.175	0.881	-4	4
自宅周辺の緑被率	10,805	-0.032	0.967	-4	4
絶滅危惧種割合	10,805	-0.179	0.843	-4	4
自宅周辺の生物多様性	10,805	-0.101	0.867	-4	4
羽器物最終処分量	10,805	-0.208	0.883	-4	4
リサイクル率	10,805	-0.168	0.855	-4	4
BOD	10,805	-0.205	0.850	-4	4
PM2.5 濃度	10,805	-0.290	0.955	-4	4
VOC	10,805	-0.239	0.917	-4	4
グリーン購入	10,805	-0.201	0.822	-4	4
年間世帯所得	10,805	-2,611,661	-3,789,533	29,000,000	29,000,000
健康自己評価	10,805	-0.126	0.916	-4	4
治安	10,805	-0.042	0.632	-3	3
住居満足度	10,805	0.082	0.498	-1	1
仕事満足度	10,805	-0.004	0.547	-1	1
人・社会とのつながり満足度	10,805	0.280	1.010	-3	3
教育満足度	10,805	0.002	0.329	-1	1
政治満足度	10,805	-0.078	0.406	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	10,805	0.008	0.459	-1	1

表 IV-4 40代基本統計量 (2015年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015年)	20,757	3.415	0.974	1	5
再生可能エネルギー割合(2015年)	20,757	2.909	0.723	1	5
エコカー割合(2015年)	20,757	3.009	0.617	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015年)	20,757	2.874	0.708	1	5
自宅周辺の緑被率(2015年)	20,757	3.158	0.716	1	5
絶滅危惧種割合(2015年)	20,757	2.958	0.623	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015年)	20,757	3.073	0.636	1	5
廃棄物最終処分量(2015年)	20,757	3.003	0.689	1	5
リサイクル率(2015年)	20,757	3.006	0.662	1	5
BOD(2015年)	20,757	3.009	0.652	1	5
PM2.5濃度(2015年)	20,757	2.869	0.761	1	5
VOC(2015年)	20,757	2.943	0.708	1	5
グリーン購入(2015年)	20,757	2.998	0.593	1	5
年間世帯所得(2015年)	20,757	6,864,600	4,133,662	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015年)	20,757	3.489	1.040	1	5
治安(2015年)	20,757	3.010	0.596	1	4

表 IV-5 40代基本統計量 (2016年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016年)	20,757	3.440	0.972	1	5
再生可能エネルギー割合(2016年)	20,757	2.766	0.789	1	5
エコカー割合(2016年)	20,757	2.887	0.697	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016年)	20,757	2.687	0.771	1	5
自宅周辺の緑被率(2016年)	20,757	3.113	0.862	1	5
絶滅危惧種割合(2016年)	20,757	2.762	0.711	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016年)	20,757	2.981	0.735	1	5
廃棄物最終処分量(2016年)	20,757	2.798	0.770	1	5
リサイクル率(2016年)	20,757	2.838	0.739	1	5
BOD(2016年)	20,757	2.799	0.734	1	5
PM2.5濃度(2016年)	20,757	2.598	0.831	1	5
VOC(2016年)	20,757	2.719	0.791	1	5
グリーン購入(2016年)	20,757	2.808	0.679	1	5
年間世帯所得(2016年)	20,757	4,819,458	3,718,062	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016年)	20,757	3.387	1.020	1	5
治安(2016年)	20,757	2.994	0.585	1	4

表 IV-6 40代基本統計量 (2015年と2016年の差)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	20,757	0.025	0.799	-4	4
再生可能エネルギー割合	20,757	-0.142	0.846	-4	4
エコカー割合	20,757	-0.122	0.798	-4	4
温室効果ガス年間排出量	20,757	-0.187	0.848	-4	4
自宅周辺の緑被率	20,757	-0.045	0.919	-4	4
絶滅危惧種割合	20,757	-0.196	0.789	-4	4
自宅周辺の生物多様性	20,757	-0.092	0.814	-4	4
羽器物最終処分量	20,757	-0.205	0.876	-4	4
リサイクル率	20,757	-0.167	0.829	-4	4
BOD	20,757	-0.210	0.836	-4	4
PM2.5濃度	20,757	-0.271	0.921	-4	4
VOC	20,757	-0.224	0.888	-4	4
グリーン購入	20,757	-0.191	0.793	-4	4
年間世帯所得	20,757	-2,045,141	-3,401,221	29,000,000	27,500,000
健康自己評価	20,757	-0.102	0.849	-4	4
治安	20,757	-0.016	0.567	-3	3
住居満足度	20,757	0.010	0.484	-1	1
仕事満足度	20,757	-0.058	0.555	-1	1
人・社会とのつながり満足度	20,757	0.161	1.026	-3	3
教育満足度	20,757	-0.018	0.340	-1	1
政治満足度	20,757	-0.117	0.437	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	20,757	-0.013	0.475	-1	1

表 IV-7 50代基本統計量 (2015年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015年)	22,044	3.470	0.916	1	5
再生可能エネルギー割合(2015年)	22,044	2.791	0.765	1	5
エコカー割合(2015年)	22,044	2.925	0.639	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015年)	22,044	2.743	0.741	1	5
自宅周辺の緑被率(2015年)	22,044	3.135	0.746	1	5
絶滅危惧種割合(2015年)	22,044	2.904	0.636	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015年)	22,044	3.040	0.640	1	5
廃棄物最終処分量(2015年)	22,044	2.967	0.721	1	5
リサイクル率(2015年)	22,044	2.960	0.685	1	5
BOD(2015年)	22,044	2.970	0.664	1	5
PM2.5濃度(2015年)	22,044	2.833	0.776	1	5
VOC(2015年)	22,044	2.939	0.722	1	5
グリーン購入(2015年)	22,044	2.949	0.593	1	5
年間世帯所得(2015年)	22,044	8,263,428	4,914,174	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015年)	22,044	3.412	1.025	1	5
治安(2015年)	22,044	3.060	0.542	1	4

表 IV-8 50代基本統計量 (2016年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016年)	22,044	3.489	0.926	1	5
再生可能エネルギー割合(2016年)	22,044	2.650	0.828	1	5
エコカー割合(2016年)	22,044	2.813	0.736	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016年)	22,044	2.556	0.811	1	5
自宅周辺の緑被率(2016年)	22,044	3.129	0.899	1	5
絶滅危惧種割合(2016年)	22,044	2.699	0.722	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016年)	22,044	2.962	0.754	1	5
廃棄物最終処分量(2016年)	22,044	2.756	0.803	1	5
リサイクル率(2016年)	22,044	2.787	0.769	1	5
BOD(2016年)	22,044	2.760	0.761	1	5
PM2.5濃度(2016年)	22,044	2.588	0.847	1	5
VOC(2016年)	22,044	2.744	0.813	1	5
グリーン購入(2016年)	22,044	2.778	0.685	1	5
年間世帯所得(2016年)	22,044	5,874,138	4,434,178	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016年)	22,044	3.333	1.012	1	5
治安(2016年)	22,044	3.050	0.532	1	4

表 IV-9 50代基本統計量 (2015年と2016年の差)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	22,044	0.019	0.759	-4	4
再生可能エネルギー割合	22,044	-0.141	0.858	-4	4
エコカー割合	22,044	-0.112	0.827	-4	4
温室効果ガス年間排出量	22,044	-0.187	0.866	-4	4
自宅周辺の緑被率	22,044	-0.006	0.949	-4	4
絶滅危惧種割合	22,044	-0.205	0.792	-4	4
自宅周辺の生物多様性	22,044	-0.078	0.830	-4	4
羽器物最終処分量	22,044	-0.211	0.914	-4	4
リサイクル率	22,044	-0.172	0.861	-4	4
BOD	22,044	-0.210	0.858	-4	4
PM2.5濃度	22,044	-0.244	0.927	-4	4
VOC	22,044	-0.194	0.903	-4	4
グリーン購入	22,044	-0.171	0.788	-4	4
年間世帯所得	22,044	-2,389,290	-3,767,825	29,000,000	29,000,000
健康自己評価	22,044	-0.079	0.809	-4	4
治安	22,044	-0.009	0.516	-3	3
住居満足度	22,044	-0.016	0.500	-1	1
仕事満足度	22,044	-0.090	0.567	-1	1
人・社会とのつながり満足度	22,044	0.126	1.044	-3	3
教育満足度	22,044	-0.032	0.357	-1	1
政治満足度	22,044	-0.156	0.467	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	22,044	-0.013	0.479	-1	1

表 IV-10 60 代以上基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	18,326	3.726	0.753	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	18,326	2.648	0.825	1	5
エコカー割合(2015 年)	18,326	2.816	0.683	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	18,326	2.565	0.803	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	18,326	3.165	0.806	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	18,326	2.870	0.632	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	18,326	3.020	0.662	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	18,326	3.017	0.784	1	5
リサイクル率(2015 年)	18,326	2.949	0.744	1	5
BOD(2015 年)	18,326	2.969	0.717	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	18,326	2.843	0.802	1	5
VOC(2015 年)	18,326	2.945	0.764	1	5
グリーン購入(2015 年)	18,326	2.916	0.615	1	5
年間世帯所得(2015 年)	18,326	6,080,951	4,517,926	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	18,326	3.517	1.008	1	5
治安(2015 年)	18,326	3.143	0.496	1	4

表 IV-11 60 代以上基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	18,326	3.742	0.752	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	18,326	2.514	0.877	1	5
エコカー割合(2016 年)	18,326	2.712	0.765	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	18,326	2.363	0.840	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	18,326	3.240	0.949	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	18,326	2.655	0.722	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	18,326	2.969	0.778	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	18,326	2.869	0.869	1	5
リサイクル率(2016 年)	18,326	2.817	0.819	1	5
BOD(2016 年)	18,326	2.788	0.808	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	18,326	2.676	0.874	1	5
VOC(2016 年)	18,326	2.820	0.845	1	5
グリーン購入(2016 年)	18,326	2.747	0.701	1	5
年間世帯所得(2016 年)	18,326	3,841,264	3,469,223	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	18,326	3.449	1.011	1	5
治安(2016 年)	18,326	3.139	0.489	1	4

表 IV-12 60代基本統計量（2015年と2016年の差）

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	18,326	0.016	0.651	-4	3
再生可能エネルギー割合	18,326	-0.134	0.894	-4	4
エコカー割合	18,326	-0.104	0.854	-4	4
温室効果ガス年間排出量	18,326	-0.202	0.890	-4	4
自宅周辺の緑被率	18,326	0.074	0.975	-4	4
絶滅危惧種割合	18,326	-0.215	0.792	-4	4
自宅周辺の生物多様性	18,326	-0.051	0.842	-4	4
羽器物最終処分量	18,326	-0.148	0.980	-4	4
リサイクル率	18,326	-0.132	0.912	-4	4
BOD	18,326	-0.181	0.896	-4	4
PM2.5濃度	18,326	-0.167	0.961	-4	4
VOC	18,326	-0.124	0.931	-4	4
グリーン購入	18,326	-0.169	0.805	-4	4
年間世帯所得	18,326	-2,239,687	-3,291,702	29,000,000	24,500,000
健康自己評価	18,326	-0.068	0.779	-4	4
治安	18,326	-0.004	0.489	-3	3
住居満足度	18,326	0.025	0.549	-1	1
仕事満足度	18,326	-0.111	0.527	-1	1
人・社会とのつながり満足度	18,326	0.316	1.162	-3	3
教育満足度	18,326	-0.051	0.413	-1	1
政治満足度	18,326	-0.211	0.520	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	18,326	0.003	0.504	-1	1

表 IV-13 北海道・東北基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	7,139	3.457	0.942	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	7,139	2.794	0.808	1	5
エコカー割合(2015 年)	7,139	2.957	0.668	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	7,139	2.779	0.773	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	7,139	3.261	0.749	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	7,139	2.961	0.652	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	7,139	3.112	0.656	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	7,139	3.034	0.749	1	5
リサイクル率(2015 年)	7,139	3.000	0.717	1	5
BOD(2015 年)	7,139	3.046	0.693	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	7,139	2.998	0.761	1	5
VOC(2015 年)	7,139	3.082	0.725	1	5
グリーン購入(2015 年)	7,139	3.002	0.619	1	5
年間世帯所得(2015 年)	7,139	6,078,372	4,030,389	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	7,139	3.428	1.049	1	5
治安(2015 年)	7,139	3.134	0.562	1	4

表 IV-14 北海道・東北基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	7,139	3.462	0.941	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	7,139	2.677	0.835	1	5
エコカー割合(2016 年)	7,139	2.838	0.735	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	7,139	2.594	0.816	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	7,139	3.344	0.875	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	7,139	2.768	0.717	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	7,139	3.075	0.747	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	7,139	2.844	0.813	1	5
リサイクル率(2016 年)	7,139	2.851	0.787	1	5
BOD(2016 年)	7,139	2.861	0.761	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	7,139	2.785	0.847	1	5
VOC(2016 年)	7,139	2.933	0.820	1	5
グリーン購入(2016 年)	7,139	2.852	0.697	1	5
年間世帯所得(2016 年)	7,139	4,069,197	3,309,369	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	7,139	3.339	1.021	1	5
治安(2016 年)	7,139	3.105	0.550	1	4

表 IV-15 北海道・東北基本統計量（2015年と2016年の差）

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	7,139	0.005	0.789	-4	4
再生可能エネルギー割合	7,139	-0.117	0.892	-4	4
エコカー割合	7,139	-0.119	0.841	-4	4
温室効果ガス年間排出量	7,139	-0.185	0.879	-4	4
自宅周辺の緑被率	7,139	0.084	0.949	-4	4
絶滅危惧種割合	7,139	-0.193	0.823	-4	4
自宅周辺の生物多様性	7,139	-0.037	0.837	-4	4
羽器物最終処分量	7,139	-0.190	0.935	-4	4
リサイクル率	7,139	-0.149	0.881	-4	4
BOD	7,139	-0.185	0.873	-4	4
PM2.5濃度	7,139	-0.213	0.974	-4	4
VOC	7,139	-0.149	0.937	-4	4
グリーン購入	7,139	-0.150	0.812	-4	4
年間世帯所得	7,139	-2,009,175	-3,118,664	29,000,000	18,500,000
健康自己評価	7,139	-0.089	0.831	-4	3
治安	7,139	-0.029	0.564	-3	3
住居満足度	7,139	0.004	0.523	-1	1
仕事満足度	7,139	-0.090	0.552	-1	1
人・社会とのつながり満足度	7,139	0.180	1.092	-3	3
教育満足度	7,139	-0.044	0.375	-1	1
政治満足度	7,139	-0.167	0.470	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	7,139	-0.023	0.487	-1	1

表 IV-16 関東基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	28,917	3.520	0.921	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	28,917	2.807	0.783	1	5
エコカー割合(2015 年)	28,917	2.927	0.662	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	28,917	2.742	0.772	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	28,917	3.118	0.758	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	28,917	2.911	0.648	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	28,917	3.031	0.656	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	28,917	2.986	0.738	1	5
リサイクル率(2015 年)	28,917	2.977	0.707	1	5
BOD(2015 年)	28,917	2.979	0.681	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	28,917	2.893	0.754	1	5
VOC(2015 年)	28,917	2.931	0.727	1	5
グリーン購入(2015 年)	28,917	2.959	0.612	1	5
年間世帯所得(2015 年)	28,917	7,590,570	4,892,749	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	28,917	3.523	1.030	1	5
治安(2015 年)	28,917	3.040	0.563	1	4

表 IV-17 関東基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	28,917	3.547	0.918	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	28,917	2.658	0.838	1	5
エコカー割合(2016 年)	28,917	2.804	0.746	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	28,917	2.543	0.827	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	28,917	3.095	0.903	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	28,917	2.697	0.733	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	28,917	2.938	0.760	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	28,917	2.795	0.814	1	5
リサイクル率(2016 年)	28,917	2.813	0.778	1	5
BOD(2016 年)	28,917	2.766	0.764	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	28,917	2.655	0.823	1	5
VOC(2016 年)	28,917	2.730	0.802	1	5
グリーン購入(2016 年)	28,917	2.766	0.693	1	5
年間世帯所得(2016 年)	28,917	5,200,712	4,262,421	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	28,917	3.440	1.018	1	5
治安(2016 年)	28,917	3.029	0.555	1	4

表 IV-18 関東基本統計量 (2015 年と 2016 年の差)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	28,917	0.027	0.767	-4	4
再生可能エネルギー割合	28,917	-0.149	0.866	-4	4
エコカー割合	28,917	-0.123	0.832	-4	4
温室効果ガス年間排出量	28,917	-0.199	0.877	-4	4
自宅周辺の緑被率	28,917	-0.023	0.951	-4	4
絶滅危惧種割合	28,917	-0.214	0.800	-4	4
自宅周辺の生物多様性	28,917	-0.093	0.831	-4	4
羽器物最終処分量	28,917	-0.191	0.913	-4	4
リサイクル率	28,917	-0.164	0.867	-4	4
<b>BOD</b>	28,917	-0.213	0.857	-4	4
<b>PM2.5 濃度</b>	28,917	-0.238	0.915	-4	4
<b>VOC</b>	28,917	-0.201	0.893	-4	4
グリーン購入	28,917	-0.193	0.801	-4	4
年間世帯所得	28,917	-2,389,857	-3,831,428	29,000,000	29,000,000
健康自己評価	28,917	-0.083	0.823	-4	4
治安	28,917	-0.011	0.536	-3	3
住居満足度	28,917	0.023	0.509	-1	1
仕事満足度	28,917	-0.072	0.553	-1	1
人・社会とのつながり満足度	28,917	0.217	1.052	-3	3
教育満足度	28,917	-0.022	0.359	-1	1
政治満足度	28,917	-0.146	0.471	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	28,917	0.001	0.484	-1	1

表 IV-19 中部基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	11,415	3.515	0.899	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	11,415	2.825	0.767	1	5
エコカー割合(2015 年)	11,415	2.961	0.638	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	11,415	2.787	0.742	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	11,415	3.179	0.729	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	11,415	2.943	0.624	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	11,415	3.076	0.639	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	11,415	3.017	0.713	1	5
リサイクル率(2015 年)	11,415	3.001	0.675	1	5
BOD(2015 年)	11,415	3.010	0.661	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	11,415	2.928	0.741	1	5
VOC(2015 年)	11,415	3.009	0.693	1	5
グリーン購入(2015 年)	11,415	2.985	0.591	1	5
年間世帯所得(2015 年)	11,415	6,962,768	4,440,159	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	11,415	3.492	1.016	1	5
治安(2015 年)	11,415	3.068	0.558	1	4

表 IV-20 中部基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	11,415	3.544	0.902	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	11,415	2.694	0.843	1	5
エコカー割合(2016 年)	11,415	2.863	0.730	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	11,415	2.601	0.804	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	11,415	3.181	0.878	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	11,415	2.746	0.717	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	11,415	3.012	0.744	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	11,415	2.818	0.804	1	5
リサイクル率(2016 年)	11,415	2.845	0.761	1	5
BOD(2016 年)	11,415	2.808	0.760	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	11,415	2.704	0.832	1	5
VOC(2016 年)	11,415	2.836	0.797	1	5
グリーン購入(2016 年)	11,415	2.817	0.684	1	5
年間世帯所得(2016 年)	11,415	4,528,471	3,582,915	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	11,415	3.392	1.010	1	5
治安(2016 年)	11,415	3.044	0.542	1	4

表 IV-21 中部基本統計量 (2015 年と 2016 年の差)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	11,415	0.029	0.771	-4	4
再生可能エネルギー割合	11,415	-0.132	0.868	-4	4
エコカー割合	11,415	-0.098	0.827	-4	4
温室効果ガス年間排出量	11,415	-0.187	0.862	-4	4
自宅周辺の緑被率	11,415	0.002	0.942	-4	4
絶滅危惧種割合	11,415	-0.197	0.797	-4	4
自宅周辺の生物多様性	11,415	-0.064	0.826	-4	4
羽器物最終処分量	11,415	-0.200	0.919	-4	4
リサイクル率	11,415	-0.156	0.860	-4	4
<b>BOD</b>	11,415	-0.202	0.858	-4	4
<b>PM2.5 濃度</b>	11,415	-0.224	0.927	-4	3
<b>VOC</b>	11,415	-0.173	0.895	-4	4
グリーン購入	11,415	-0.168	0.790	-4	4
年間世帯所得	11,415	-2,434,297	-3,525,586	29,000,000	24,500,000
健康自己評価	11,415	-0.100	0.846	-4	4
治安	11,415	-0.024	0.545	-3	3
住居満足度	11,415	0.008	0.500	-1	1
仕事満足度	11,415	-0.072	0.549	-1	1
人・社会とのつながり満足度	11,415	0.195	1.062	-3	3
教育満足度	11,415	-0.033	0.364	-1	1
政治満足度	11,415	-0.146	0.460	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	11,415	-0.008	0.476	-1	1

表 IV-22 近畿基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	14,281	3.532	0.909	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	14,281	2.838	0.762	1	5
エコカー割合(2015 年)	14,281	2.940	0.653	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	14,281	2.795	0.746	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	14,281	3.117	0.766	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	14,281	2.931	0.635	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	14,281	3.042	0.652	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	14,281	2.992	0.726	1	5
リサイクル率(2015 年)	14,281	2.976	0.692	1	5
BOD(2015 年)	14,281	2.965	0.679	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	14,281	2.770	0.808	1	5
VOC(2015 年)	14,281	2.905	0.739	1	5
グリーン購入(2015 年)	14,281	2.961	0.618	1	5
年間世帯所得(2015 年)	14,281	6,694,944	4,380,820	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	14,281	3.497	1.014	1	5
治安(2015 年)	14,281	3.032	0.576	1	4

表 IV-23 近畿基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	14,281	3.555	0.903	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	14,281	2.723	0.822	1	5
エコカー割合(2016 年)	14,281	2.849	0.727	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	14,281	2.614	0.804	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	14,281	3.089	0.914	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	14,281	2.738	0.711	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	14,281	2.949	0.758	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	14,281	2.800	0.799	1	5
リサイクル率(2016 年)	14,281	2.822	0.759	1	5
BOD(2016 年)	14,281	2.769	0.764	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	14,281	2.516	0.871	1	5
VOC(2016 年)	14,281	2.703	0.817	1	5
グリーン購入(2016 年)	14,281	2.783	0.687	1	5
年間世帯所得(2016 年)	14,281	4,443,106	3,748,553	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	14,281	3.400	1.004	1	5
治安(2016 年)	14,281	3.022	0.566	1	4

表 IV-24 近畿基本統計量 (2015 年と 2016 年の差)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	14,281	0.023	0.764	-4	4
再生可能エネルギー割合	14,281	-0.115	0.852	-4	4
エコカー割合	14,281	-0.092	0.821	-4	4
温室効果ガス年間排出量	14,281	-0.181	0.855	-4	4
自宅周辺の緑被率	14,281	-0.028	0.964	-4	4
絶滅危惧種割合	14,281	-0.194	0.793	-4	4
自宅周辺の生物多様性	14,281	-0.094	0.847	-4	4
羽器物最終処分量	14,281	-0.192	0.915	-4	4
リサイクル率	14,281	-0.154	0.856	-4	4
<b>BOD</b>	14,281	-0.197	0.857	-4	4
<b>PM2.5 濃度</b>	14,281	-0.254	0.956	-4	4
<b>VOC</b>	14,281	-0.202	0.918	-4	4
グリーン購入	14,281	-0.178	0.793	-4	4
年間世帯所得	14,281	-2,251,838	-3,407,059	29,000,000	25,500,000
健康自己評価	14,281	-0.096	0.830	-4	4
治安	14,281	-0.009	0.543	-3	3
住居満足度	14,281	0.021	0.505	-1	1
仕事満足度	14,281	-0.072	0.551	-1	1
人・社会とのつながり満足度	14,281	0.205	1.077	-3	3
教育満足度	14,281	-0.025	0.368	-1	1
政治満足度	14,281	-0.138	0.464	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	14,281	-0.006	0.480	-1	1

表 IV-25 四国・中国基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	5,223	3.512	0.909	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	5,223	2.899	0.755	1	5
エコカー割合(2015 年)	5,223	3.002	0.640	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	5,223	2.808	0.747	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	5,223	3.249	0.727	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	5,223	2.965	0.631	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	5,223	3.111	0.644	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	5,223	3.045	0.721	1	5
リサイクル率(2015 年)	5,223	3.018	0.680	1	5
BOD(2015 年)	5,223	3.034	0.681	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	5,223	2.846	0.799	1	5
VOC(2015 年)	5,223	2.993	0.729	1	5
グリーン購入(2015 年)	5,223	3.001	0.606	1	5
年間世帯所得(2015 年)	5,223	6,417,672	4,245,452	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	5,223	3.467	1.028	1	5
治安(2015 年)	5,223	3.115	0.547	1	4

表 IV-26 四国・中国基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	5,223	3.523	0.905	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	5,223	2.752	0.820	1	5
エコカー割合(2016 年)	5,223	2.875	0.726	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	5,223	2.624	0.820	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	5,223	3.303	0.853	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	5,223	2.783	0.711	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	5,223	3.061	0.731	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	5,223	2.848	0.810	1	5
リサイクル率(2016 年)	5,223	2.849	0.766	1	5
BOD(2016 年)	5,223	2.854	0.770	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	5,223	2.616	0.856	1	5
VOC(2016 年)	5,223	2.808	0.803	1	5
グリーン購入(2016 年)	5,223	2.831	0.676	1	5
年間世帯所得(2016 年)	5,223	4,252,154	3,449,613	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	5,223	3.371	1.020	1	5
治安(2016 年)	5,223	3.111	0.534	1	4

表 IV-27 四国・中国基本統計量（2015年と2016年の差）

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	5,223	0.011	0.774	-4	4
再生可能エネルギー割合	5,223	-0.147	0.862	-4	4
エコカー割合	5,223	-0.127	0.816	-4	4
温室効果ガス年間排出量	5,223	-0.184	0.869	-4	4
自宅周辺の緑被率	5,223	0.053	0.941	-4	4
絶滅危惧種割合	5,223	-0.182	0.789	-4	4
自宅周辺の生物多様性	5,223	-0.051	0.834	-4	4
羽器物最終処分量	5,223	-0.197	0.910	-4	4
リサイクル率	5,223	-0.169	0.859	-4	4
BOD	5,223	-0.180	0.867	-4	4
PM2.5 濃度	5,223	-0.231	0.944	-4	4
VOC	5,223	-0.185	0.915	-4	4
グリーン購入	5,223	-0.170	0.791	-4	4
年間世帯所得	5,223	-2,165,518	-3,317,669	29,000,000	29,000,000
健康自己評価	5,223	-0.096	0.835	-4	3
治安	5,223	-0.004	0.559	-3	3
住居満足度	5,223	0.005	0.504	-1	1
仕事満足度	5,223	-0.063	0.552	-1	1
人・社会とのつながり満足度	5,223	0.192	1.070	-3	3
教育満足度	5,223	-0.028	0.359	-1	1
政治満足度	5,223	-0.146	0.459	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	5,223	-0.009	0.474	-1	1

表 IV-28 九州・沖縄基本統計量 (2015 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2015 年)	4,957	3.538	0.921	1	5
再生可能エネルギー割合(2015 年)	4,957	2.853	0.774	1	5
エコカー割合(2015 年)	4,957	2.957	0.662	1	5
温室効果ガス年間排出量(2015 年)	4,957	2.775	0.772	1	5
自宅周辺の緑被率(2015 年)	4,957	3.220	0.746	1	5
絶滅危惧種割合(2015 年)	4,957	2.944	0.638	1	5
自宅周辺の生物多様性(2015 年)	4,957	3.102	0.656	1	5
廃棄物最終処分量(2015 年)	4,957	3.030	0.740	1	5
リサイクル率(2015 年)	4,957	3.010	0.710	1	5
BOD(2015 年)	4,957	3.010	0.692	1	5
PM2.5 濃度(2015 年)	4,957	2.652	0.900	1	5
VOC(2015 年)	4,957	2.838	0.813	1	5
グリーン購入(2015 年)	4,957	2.975	0.622	1	5
年間世帯所得(2015 年)	4,957	6,102,380	4,140,534	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2015 年)	4,957	3.487	1.049	1	5
治安(2015 年)	4,957	3.084	0.575	1	4

表 IV-29 九州・沖縄基本統計量 (2016 年)

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度(2016 年)	4,957	3.548	0.921	1	5
再生可能エネルギー割合(2016 年)	4,957	2.715	0.838	1	5
エコカー割合(2016 年)	4,957	2.852	0.762	1	5
温室効果ガス年間排出量(2016 年)	4,957	2.602	0.822	1	5
自宅周辺の緑被率(2016 年)	4,957	3.239	0.868	1	5
絶滅危惧種割合(2016 年)	4,957	2.756	0.725	1	5
自宅周辺の生物多様性(2016 年)	4,957	3.026	0.739	1	5
廃棄物最終処分量(2016 年)	4,957	2.836	0.824	1	5
リサイクル率(2016 年)	4,957	2.841	0.787	1	5
BOD(2016 年)	4,957	2.812	0.770	1	5
PM2.5 濃度(2016 年)	4,957	2.366	0.926	1	5
VOC(2016 年)	4,957	2.615	0.864	1	5
グリーン購入(2016 年)	4,957	2.774	0.700	1	5
年間世帯所得(2016 年)	4,957	4,150,293	3,624,335	1,000,000	30,000,000
健康自己評価(2016 年)	4,957	3.403	1.029	1	5
治安(2016 年)	4,957	3.058	0.556	1	4

表 IV-30 九州・沖縄基本統計量（2015年と2016年の差）

変数名	サンプル数	平均値	標準偏差	最小値	最大値
生活満足度	4,957	0.009	0.782	-4	4
再生可能エネルギー割合	4,957	-0.138	0.857	-4	4
エコカー割合	4,957	-0.105	0.845	-4	3
温室効果ガス年間排出量	4,957	-0.173	0.871	-4	4
自宅周辺の緑被率	4,957	0.019	0.937	-4	4
絶滅危惧種割合	4,957	-0.187	0.795	-4	3
自宅周辺の生物多様性	4,957	-0.076	0.834	-4	3
羽器物最終処分量	4,957	-0.194	0.918	-4	3
リサイクル率	4,957	-0.169	0.867	-4	4
BOD	4,957	-0.198	0.867	-4	4
PM2.5濃度	4,957	-0.286	1.002	-4	4
VOC	4,957	-0.222	0.953	-4	4
グリーン購入	4,957	-0.201	0.814	-4	4
年間世帯所得	4,957	-1,952,088	-3,131,561	29,000,000	23,500,000
健康自己評価	4,957	-0.084	0.834	-4	3
治安	4,957	-0.025	0.548	-3	3
住居満足度	4,957	0.020	0.531	-1	1
仕事満足度	4,957	-0.072	0.555	-1	1
人・社会とのつながり満足度	4,957	0.243	1.116	-3	3
教育満足度	4,957	-0.033	0.373	-1	1
政治満足度	4,957	-0.150	0.469	-1	1
ワーク・ライフ・バランス、満足度	4,957	-0.008	0.482	-1	1